



TITLE:

京都大学結核胸部疾患研究所年報 (昭和 58 年度)

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学結核胸部疾患研究所年報 (昭和 58 年度). 京都大学結核胸部疾患研究所紀要 1984, 17(1/2)

ISSUE DATE:

1984-08-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/52146>

RIGHT:

京 都 大 学

結核胸部疾患研究所年報

昭 和 5 8 年 度

(1 9 8 4 年 3 月) 1983

京都大学結核胸部疾患研究所

京 都 大 学

結 核 胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 58 年 度

(1983 年)

京都大学結核胸部疾患研究所職員

(昭和59年3月31日現在)

所 長 教 授 佐 川 弥之助

(内科学第一部門)

主任教授：前川暢夫，助教授：中西通泰，講師：川合 満，助手：西山秀樹，倉沢卓也，山本孝吉，講師（非常勤）：今井節朗，中井 準，吉見輝也，河野博臣，岩田猛邦，辻野博之，技官：西尾貞子，本間トキエ，技能補佐員：平井光子

(内科学第二部門)

主任教授：大島駿作，助教授：泉 孝英，講師：木野稔也，助手：北市正則，松井祐佐公，平田健雄，門 政男，講師（非常勤）：日置辰一郎，中島道郎，佐藤篤彦，門田和紀，杉本幾久雄，中村保幸，北 徹
技官：今井保代，技能補佐員：谷岡文子，阪部由紀

(胸部外科学部門)

助教授：伊藤元彦，講師：和田洋巳，助手：光岡明夫，滝 俊彦，田村康一，講師（非常勤）：吉栖正之，秋山文弥，日野常稔，宮田暉夫
技官：平井 要，技能補佐員：高 淳恵

(病理学部門)

主任教授：竹田俊男，助教授：鈴木康弘
助手：細川昌則，講師（非常勤）：三井洋司，馬場満男，新納英夫，江崎孝三郎
技官：松下隆寿，小岸久美子，岩井昭一，技能補佐員：富田由美子

(細菌血清学部門)

主任教授：桂 義元，助教授：細野正道，助手：喜納辰夫，講師（非常勤）：徳永 徹，湊 長博
技官：清水一枝，技能補佐員：高沖悠子

(細胞化学部門)

主任教授：市川康夫，助教授：大川欣一
講師：永田和宏，助手：前田道之，堀内正宏
講師（非常勤）：石川春律，崎山 樹
技官：島田道子，技能補佐員：坪田晴子

（臨床肺生理学部門）

主任教授：佐川弥之助，助教授：加藤幹夫，講師：佐藤公彦，助手：大井元晴，講師（非常勤）：真鍋貴，山林一，仲田 裕，山田久和，大田和夫，阿部尖幸，小野公二，藤田正憲，伊藤春海，技能補佐員：服部央子，石田嘉子

（事務部）

事務部長：北川治康，管理課長：谷沢 充，庶務掛長：中谷 章，同事務官：大山達夫，同技官：田中 稔，事務補佐員：杉山智美，大谷小百合，田中裕子，經理掛長：野村忠雄，同主任：野元頼子，同事務官：佐藤良男，前野正世，畑 勝，北野和男，事務補佐員：中瀬安子，施設掛長：田中信男，同主任：前田久男，同技官：進士 悟，西川景弘，松浦 康，藤木清文，小西喜一郎：同事務官：渡辺光子，水原貞子，業務課長：勝谷 武，課長補佐：船谷幸司，医事掛長：千葉修也，同事務官：橋本敏子，野田芳子，佐竹セツ，竹内孝子，同事務補佐員：芦田明子，黒田俊子，集治昌代，中村房枝，土井弘子，小寺由里，収入掛長：石井利和，同事務官：藤井芳克，関 保子，同事務補佐員：多田真由美

（附属感染免疫動物実験施設）

施設長（兼）教授：桂 義元，助教授：西川伸一，技官：門田一美，飛田 勇，安岡倉一，大字雪雄，近藤照子

（電子顕微鏡室）

増田 稔

（附属病院）

病院長（兼）教授：大島駿作

（第一内科診療科）

科 長（兼）教授：前川暢夫，外来医長（兼）講師：川合 満，病棟医長（兼）助教授：中西通泰，医員：村山尚子，丸井康子，武藤 眞，（研修医）白川太郎

（第二内科診療科）

科 長（兼）教授：大島駿作，病棟医長（兼）講師：木野稔也，外来医長（兼）助教授：泉 孝英，医員：藤村直樹，長井苑子，古江増裕，（研修医）江村正仁，安場広高，西村浩一

（外科診療科）

外来医長（兼）助教授：伊藤元彦，病棟医長（兼）講師：和田洋巳，医員：千葉 渉，（研修医）小林 淳

（放射線科診療部）

科 長（兼）教授：佐川弥之助，外来医長（兼）講師：佐藤公彦，助手：大井元晴
医員：奥井克治（研修医）鎌苅邦彦，梅宮正志，藤田葉子，吉田 仁，越久仁敬，山岡新八

（検査部）

検査部長，助教授：久世文幸，医員：樋口佳代子，技師長：木津 啓，技官：前田清子，黒住真史，和田ひな，山根すま子，技術補佐員：吉村佳二，酒井敏江，春名和代，林 すみ子，森下園子

（放射線部）

放射線部長（兼）助教授：中西通泰，技師長：浜川純一，撮影主任：藤岡信良，技官：大坂泰夫，曾我部康之，灘井智代子，田中龍蔵，技能補佐員：小川 忍

（麻醉部）

麻醉部長（兼）助教授：伊藤元彦

（薬剤部）

薬剤部長：千熊正彦，薬剤主任：沢岡平和，技官：藤原壽子，小林千代子，川田昌子，川勝一雄，事務主任：宇野初枝，技能補佐員：中島英一

（看護部）

看護部長：平野照子，看護婦長：小林とよ，松田ひさ子，和多田すみ子，西森三保子，副看護婦長：山本喜美，

丘 恵子, 齊藤千鶴子, 技官: 大山峯子, 小林裕子, 稲田ひろ子, 山中祥子, 柴田佐代子, 田中松代子, 松本敏枝, 藤井喜代子, 井藤泰子, 福田千恵子, 末田恵子, 後藤公美子, 濃野ヒロ子, 八崎幸子, 岩佐純子, 松原千里, 川中マスコ, 今西美千乃, 小林富貴子, 阿部喜代子, 相川三千代, 寺戸美枝子, 木村昭子, 山西順子, 梅田正子, 森本静枝, 田尻春代, 榎 喜久子, 高橋わさ子, 北川繁子, 小林梅野, 川端俊美, 永利明美, 渡部幸子, 安藤純子, 水上絹子, 荻田孝子, 三宅重子, 平畑早苗, 内藤敏子, 米沢カヨ子, 松田初枝, 村西直美, 稲垣美智子, 二宮トミ子, 湯浅里恵, 園田正子, 坂東フリエ, 衛藤泰子, 原田芳香, 松本不二, 能井美千代, 内木カネ子, 森 朝子, 片桐久江, 技能補佐員: 宮本久子, 渡辺ヒデ子, 山道美津子, 実光光恵, 曾我部京子, 秋里 梢, 舟橋岳示

教 官 人 事

病 理 学 部 門 竹 田 俊 男 教 授

昭和59年4月1日付で停年退官された病理学部門安平公夫教授の後任として, 同部門助教授であった竹田俊男氏の昇任が決定。4月1日付で発令された。以下に同氏の略歴ならびに研究業績の概略について述べる。

学 歴: 昭和32年3月 京都大学医学部医学科卒業

昭和36年3月 京都大学大学院医学研究科修了

職 歴: 昭和37年4月 京都大学医学部病理第2講座助手

昭和41年12月 アメリカ合衆国テキサス大学医学部留学

昭和43年3月 帰国

昭和43年4月 京都大学結核胸部疾患研究所病理学部門助教授

昭和47年10月 長浜日赤病院病理検査科非常勤医師

昭和58年4月 京都大学結核胸部疾患研究所病理学部門教授

研究業績概要:

精力的な竹田氏の研究領域は多面に亘るが, およそ次の3つに区別される。

1) 医学部病理学教室に於ては, 岡本耕造教授の指導下に人体病理の基礎的修練を積まれると共に, 特に妊娠時の実験的高血圧ラットの血圧測定に関する研究に従事された。次でマウス顎下腺に昇圧物質であるレニンの存在することに興味をもたれ, 顎下腺機能と血圧の関連を追究する途上, 顎下腺には胸腺退縮因子が含まれていることを見出された。このお仕事は米国留学中に更に発展されている。

2) 米国留学より帰国後, 直ちに本研究所病理学部門(安平公夫教授)助教授に着任され, この頃より, 従来の仕事の発展として, 唾液腺と結合組織との関連に注目され始めた。そして, コラーゲン・エラスチン・酸性ムコ多糖など結合組織成分の生成には内分泌特に性腺ホルモンが重要な役割を果していることが次第に明らかとなり, 同時に, 各種臓器の線維芽細胞のステロイドレセプターの分化が此の現象と深い関係にあることが示された。

3) 結合組織に関連したお仕事は, 結合組織に異常をもつ自然発症モデル動物の開発へ結びついて行った。そして偶然, 正常な成長過程のあと急速に重篤な老化徴候が現われ短寿命におわる AKR 系マウスの存在に気付かれた。以後このマウスは兄妹交配が繰返され, 1981年に至って老化マウス系として確立, Senescence Accelerated Mouse (SAM) と名づけられた。現在このマウスを用いて老化にかゝる基本機構解明のための多角的な研究が展開されつゝある。

竹田氏のお仕事に一貫した特徴は, 病理学者としての地道な組織学的検索を主軸とし, また岡本教授以来の伝統であるモデルマウス開発と云う労の多い仕事に身を挺しつゝ, 医学部整形外科, 産婦人科, 皮膚科と各科の若い研究者と協同研究態勢を組みつゝ, 多角的に進んでゆかれる点にある。このたび教授に御就任になり, より多くの後進と共に, 更にスケールの大きい仕事へと発展されるよう祈りたいと思います。(市川 康夫)

内科学第2部門 北 市 正 則 助手

石川県小松市の生れ。昭和43年3月、金沢大学附属高校を卒業。昭和50年3月、京都大学医学部を卒業後、本研究所内科2の研修医、医員を経て、昭和58年7月1日助手（内科学第二部門）に任命された。北市氏の研究領域は呼吸器疾患の臨床病理学的研究が中心であり、助手に任命される迄臨床検査部の医員を兼務していた。大へん真面目な性格で、研究熱心である。趣味は将棋。（大島 駿作）

病 理 学 部 門 鈴 木 康 弘 助教授

昭和58年4月病理学部門の教授決定に伴い、助教授候補者選出の必要を生じ、全教官の集いにおいて、系としての人事として取扱うことが承認され、基礎教官会議にて選考委員を選出、選考の結果、病理学部門助手鈴木康弘君が助教授候補者として選出され、ついで教授会にて承認決定された。

鈴木君は昭和39年京都大学医学部卒業、一年のインターンののち、昭和40年京都大学大学院医学研究科に入学、同44年同課程を修了後、本研究所病理学部門にて研究を開始した。昭和46年より1年間トロント大学 S. Cohen 教授の下に留学、昭和47年9月帰国と同時に病理学部門助手に就任、今日に至った。鈴木君は病理学部門に入学当時より周生期病理に強い関心を示し、今日まで一貫して肺表面活性物質に関する生化学的、超微形態学的研究を行い、着実に成果をあげていることは彼の研究発表に示される通りである。また最近人工的に再構成させた活性物質についての詳細な研究を進めており、将来呼吸困難の治療面への応用も夢ではなくなった。昨年9月西独で開かれた肺表面活性物質に関する国際シンポジウムのシンポジストとして招請された事実は同君の仕事が国際的に高く評価されていることを如実に物語っているといえよう。

今後、これまでの蓄積の上に立ってさらに、ひろく生体膜の医学、生物学的研究へと発展することが予想される。豊富な方法論を駆使した緻密、精細な同君の研究態度より、これらの課題についてさらなる大きな発展が期待され、本研究所の発展に貢献する所大なるものがあると信じている。健斗を祈る。（竹田 俊男）

感染免疫動物実験施設 西 川 伸 一 助教授

西川伸一君は1973年に京大医学部を卒業後、内科第二部門において研修医となり、続いて非常勤医を務めた後、1979年7月同部門助手となった。1980年10月より細菌血清部門へ移籍し、基礎研究に専念することとなった。1980年10月より1982年12月までドイツのケルン大学へ留学し、Dr. Rejewsky の下で研鑽を積んだ。同君は、学生時代より免疫学に傾倒し、卒業後ただちに研究に携わり、すでに多くの業績をあげている。同君の学問への造詣の深さと指導力は多くの人が認めるところであり、このたびの助教授への昇格は本研究所の将来にとってまことに喜ばしいことと考えている。（桂 義元）

人見滋樹教授の御紹介

昭和59年4月1日付で当研究所胸部外科学部門の教授に人見滋樹教授が就任された。

人見新教授は本年47才、昭和36年3月に本学医学部を卒業され、当研究所胸部外科学部門に入局後、国立療養所日野荘医員を経て、西ドイツのライン州立マリエンハイデ病院に留学、リンク教授の御指導の下で胸部外科学の研究に従事された。以後、日野荘医員、当研究所助手を経て、昭和46年寺松教授の助教授に就任され、同49年呼吸器科部長として関西電力病院に赴任され、今回教授に就任されたものである。

同教授の主な研究テーマは肺癌の外科的療法で、これに集学的療法及び早期発見、予防が加わっている。大都会である大阪は当然肺癌患者が多いが、同教授の大阪での対癌活動は極めて目ざましいものがあり、関西電力病院での肺癌手術症例は大阪の大病院中5位を下ったことがなかった由である。したがって、全国規模での肺癌研究の中核として、今まで大いに活躍され、その研究範囲は外科療法をこえて早期発見、予防にまで広がっている。

肺癌は同教授の一生の研究テーマとなるものと思われるが、筆者が同教授に望むもう一つのテーマは呼吸器外科の発展である。今日の呼吸器外科は手技的には明らかに大きな壁につきあたっている。この壁を破る新しい研究分野の開発が切に望まれるのであるが、長石忠三、寺松孝両名誉教授は御二人共新しい研究分野の開発に成功された方である。この御二人の開拓精神をひきつがれた新しい呼吸器外科の樹立を研究目標として頂くよう切望するものである。（佐川 弥之助）

久世文幸教授の御紹介

昭和59年4月1日付で当研究所内科学第1部門の教授に久世文幸先生が就任された。

久世新教授は本年50才、昭和34年3月に本学医学部を卒業され、当研究所内科学第1部門に入局後、大学院医学研究科博士課程を経て、米国サバーバンクックカウンティ結核サンタリウムディストリクトで結核および呼吸器疾患の研究に従事された。以後、当研究所副手、草津病院医員、当研究所助手を経て、昭和53年助教授に昇任され、当研究所附属病院に新設された検査部の部長を併任され、今回教授に昇任されたものである。

同教授の主な研究テーマは非定型抗酸菌および非定型抗酸菌症で、国内では「実験的非定型抗酸菌症に関する研究」で今村賞を受賞されており、国外においても非定型抗酸菌症に関する多くの国際シンポジウムに参加されているだけでなく、調査、研究も数多く行なわれており、同教授のこの方面に関する研究は国際的にも高く評価されている。結核が比較的容易にコントロールしうようになった現在、その類似疾患である非定型抗酸菌症はともすれば忘れがちであるが、極めて難治である。教授の研究が今後ますます発展し、この疾患に苦しむ多くの患者に幸せが訪れることを切望するものである。また、内藤益一、前川暢夫両名誉教授が築かれた内科学第1部門の輝かしい業績をさらに大きいものにされることを確信し、期待するものである。（佐川 弥之助）

学術集会記録

昭和57年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会（昭和58年1月29日（土）京大会館）

〔研究業績〕

1. マクロファージに於る貪食と酸素代謝の解離

内科学第一部門 山本孝吉

マクロファージ (Mφ) 形質膜上のリセプターを介する貪食と、殺菌に重要な酸素代謝との関連をマウス腹腔 Mφ を用いて検討した。

レジデント Mφ は未処理マウスより、また賦活化 Mφ はエンドトキシンを腹腔内にあるいは BCG を静脈内に投与したマウスより採取した。被検粒子として羊赤血球 (E) を用い特異抗体の IgG 成分でコートした E (E (IgG)), 特異抗体の IgM 成分と補体でコートした E (E (IgM) C) を準備した。E の貪食は培養プレートに付着した Mφ に E を加え培養後、細胞外の赤血球を低張処理により除去し、位相差顕微鏡下に観察測定した。活性酸素の一種スーパーオキシド (O_2^-) はチトクロム C 還元法により、酸素消費は浮遊細胞を用いてクラーク電極法により定量した。

レジデント Mφ による E (IgM) C の貪食が低値である以外、E (IgM), E (IgM) C のいずれもが Mφ により貪食された。E (IgM) の貪食は E (IgM) C のそれに比し高値を示し、効率的な貪食の為には、特異抗体の IgG 成分によるオプソニン化が重要と考えられた。E (IgG) の貪食に伴って O_2^- が放出されこれは全てのタイプの Mφ に認められた。一方 E (IgG) C の貪食では O_2^- 放出はみられなかった。この点を以下の諸点より確認した。

E (IgG) の貪食が E (IgM) C のそれとほぼ同等となる条件下で、あるいは低濃度の IgG を用いて E (IgG) を作成した場合でも E (IgG) は O_2^- 放出を惹起した。E (IgM) C を作成する際 C5 欠損マウス血清の濃度を上昇させると貪食はそれに伴い増加したが O_2^- 放出は低値にとどまった。E (IgG) あるいは PMA による O_2^- 放出量は E (IgM) C の添加により抑制されなかった。さらに E (IgM) C を IgG でコートすると E (IgG) とほぼ同等の O_2^- 放出が認められた。このことは E (IgM) C が O_2^- を除去したり、酸素代謝の爆発に与る酵素の機能を阻害するのではない事を示している。Mφ による E (IgM) の貪食に伴い急激な酸素消費が惹起されたが、E (IgM) C の貪食では酸素消費は認められなかった。

Mφ による E (IgM) C の貪食の際、酸素代謝が起らない事は(i)リセプターを介する結合から収縮蛋白の活性化に至る過程と、呼吸爆発に与る酵素の活性化に至る過程とが異なる可能性を示唆すると共に、(ii)周囲組織や貪食球自身に障害を与える可能性が指摘されている活性酸素を生成する事なしに Mφ が IgG でコートされていない不要な粒子を除去しうる可能性を示唆し、このことは Mφ の生体内に於る役割を考える上で興味深い。

2. 塵肺患者およびマウスの IgE 抗体産生におけるシリカおよびマンガンのアジュバント効果について

内科学第二部門 松井 祐佐公

塵肺症における免疫異常としては、血清 IgG, IgA, IgM の増加、リウマチ因子および抗核抗体が高率に出現するとともに膠原病の合併も知られている。このことから塵肺症を人体の Adjuvant 病としてとらえることもできる。一方 I 型アレルギーの主役である IgE 抗体と塵肺症との関連についての報告は、いまだ多くみられない。そこで我々は京都工場保健会に通院する243例の塵肺患者を取り扱った鉱物により、即ち職種別に患者を分類し、それぞれのグループについて血清 IgE 値の測定を行なった。全塵肺患者の血清 IgE 値の幾何平均 (279 u/ml) は正常健常人46例 (107 u/ml) と肺結核群79例 (120 u/ml) および両者の平均 (115 u/ml) に比し、有意に高値を示した。職種別では、マンガン群 (462 u/ml)、天然砥石群 (288 u/ml)、タングステン群 (254 u/ml) が対照群 (115 u/ml) に比し、有意に高値を認めた。また時にマンガン群では、就業年数が長い程血清 IgE 値は高くなり、しかも離職後20年経てもなお高 IgE 値を示す傾向にあった。そこで silica および MnO_2 が血清 IgE 抗体産生の Adjuvant 効果に関与しているか否かを BALB/c mice を用いて検討した。尚 IgE 抗体の検出は RAT の皮膚を用いた PCA 反応を利用した。抗原量は抗原 (OA) 単独では PCA titer が認められなかった $1 \mu\text{g/ml}$ を用いた。Primary response において、OA+silica 群では silica の 1mg は 2 週、3 週、4 週と継続する抗体産生 ($\times 40$) を認めたが、0.1 mg では 2 週に peak 値 ($\times 40$) を有したが、以後漸次低下した。一方 OA+ MnO_2 群では MnO_2 の 10 mg は 2 週と 3 週に peak 値 ($\times 40$) を認め、1 mg は 2 週に peak 値 ($\times 40$) を認める抗体産生を示した。しかし 0.1 mg と小量時には PCA titer は認められなかった。また OA+silica (1 mg)+ MnO_2 (1 mg) 群では、silica 群、 MnO_2 群に比し、より高い抗体産生 ($\times 320$) が認められ、しかも98日後にも PCA titer ($\times 10$) が認められた。(silica+ MnO_2 > silica \geq MnO_2)。このように抗原単独では IgE 抗体産生はみられなかったが、silica 及び MnO_2 、哉いは両者が加わると IgE 抗体産生がみられたことから、silica 及び MnO_2 が dose dependent な adjuvant 効果を誘導していることが示唆された。またこの抗体は 56°C 120分の熱処理で活性は消失 (Heat-labile) し、priming と indifferent な抗原で challenge しても PCA titer は認めなかった。(Antigen-specific)。Secondary response では、silica 群、 MnO_2 群及び silica+ MnO_2 群のいずれにおいても booster effect を認め、しかも133日後にも IgE 抗体産生は持続した。(Persistency)。又従来から IgE 抗体産生の Adjuvant として知られている $Al(OH)_3$ の PCA titer は 5 倍或いは10倍であり、silica 及び MnO_2 に比し低かった。以上より塵肺症の病態の一部に I 型アレルギーの免疫グロブリンである IgE 抗体が関与し、また動物においても、silica 及び MnO_2 は IgE 抗体産生にすぐれた Adjuvant 活性を有する物質であることが判明した。

3. Endotoxin Shock の生化学的研究

臨床肺生理学部門 関 川 利 幸, 佐 藤 公 彦
佐 川 弥之助

Endotoxin (ETX: E coli 011: B₄ lipopolysaccharide, Difco) を Rat の腹腔内へ投与した際の、肺・肝における脂質過酸化機序と, superoxide dismutase (SOD), glutathione peroxidase (GSH-px), α -Tocopherol, glucocorticoid の脂質過酸化防御機構について論じた。ETX 7.5 mg/kg 1回投与群 (A群) では血圧低下をきたし典型的な endotoxin shock を生ずるが ETX 1.0 mg/kg 反復投与 (B群) では hemodynamics に変動をもたらさなかった。

A群, B群ともに24時間では肺・肝組織中の TBA 反応物質 (TBA-RS) は有意に上昇した。また, A群においては肺・肝組織中の SOD は有意に低下するが, B群では肺組織にのみ SOD の有意な低下がみられた。GSH-pxはA群において肝組織中で初期に低下傾向を示した。

さらに, A群で ETX 投与60分前に, glutathione (1.0 g/kg), α -Tocopherol (250 mg/kg), SOD (3000 unit/kg), glucocorticoid (10 mg/kg) を単独, もしくは併用で前処置した場合の生存時間, 湿肺重量対体重比 (L/B), TBA-RS, および S-GOT, S-GPT を測定した。死亡率は GSH 単独投与, GSH と α -Tocopherol, および GSH, α -Tocopherol と SOD の併用群で著明に低下した。L/B は前処置全群で低下がみられ肺水腫予防効果を示し, とくに GSH 単独, もしくは glucocorticoid 単独投与においてその効果が大きであった。肺・肝組織中の TBA-RS 上昇の抑制は前処置全群でみられたが GSH と α -Tocopherol の併用, もしくは GSH, α -Tocopherol と SOD の併用群で効果が大きであった。S-GOT, S-GPT は ETX 投与後24時間で著明に上昇するが, α -Tocopherol 単独, もしくは SOD 単独ではこの上昇を抑制し得なかった。

以上により ETX 投与による肺・肝組織の過酸化脂質蓄積は肺水分量の増加をもたらすが, その予防には, glutathione, glucocorticoid が有効と思われた。また, 循環不全をきたさない程度の ETX 量においても TBA-RS が増加し, これを glucocorticoid で抑制し得ることは ETX が直接的に neutrophils からの superoxide の発生に関与していると考えられた。同時に, endotoxin による SOD 低下が肺脂質過酸化亢進の一因子と考えられた。

4. PVA-Silica 複合体の人工血管への応用

胸部外科学部門 田 村 康 一

臓器移植なども含めて, 再建外科という考えが導入されて以来, 外科治療の分野において, 血流を保存させるための血管外科の重要性が増加してきたと考えられる。

その中で, 代用血管を用いて血管を再建する必要性も増加しているが, 現時点では, 小動脈や静脈系を確実に再建できる材料が見あたらない。その原因として, 埋植初期の変化としてフィブリンの沈着および血栓の形成, さらに長期に埋植した場合には, 吻合部の過剰増殖と, 過剰な内皮細胞の形成が問題点として考えられる。

我々は, 小動脈や静脈系を再建できる人工血管の開発をめざして研究をおこなってきた。

使用した材料として, Polyvinyl alcohol (以下 PVA と略) の水溶液と Tetraethyl silicate 水溶液とを混合して作製した PVA-Silica 複合ゾル, さらにこれにヘパリンを添加固定した heparinized PVA-Silica 複合ゾルを woven tetron 人工血管の表面にコーティングしたものを使用した。

PVA-Silica 複合体の構造は, penetrating polymer network と称されるもので, お互が水素結合, あるいは共有結合によってからみあった状態を呈しており, さらにこれに heparin を加えると, この matrix の中からまって固定されると推定されている。

この材料の特徴としては,

- ① PVA に Silica を加えたものでは, 細胞あるいは組織に対する親和性が増す。
- ② PVA 100 に対し Silica 90 の混合比のもので, 最も高い抗血栓性を示す。さらに heparin を加えると, この性質が増強する。

②の性質により、人工血管埋植初期のフィブリンの沈着および血栓の形成を抑制し得ると考え、また①の性質により、長期間埋植した場合の吻合部あるいは内皮細胞の過剰増殖がさけられるものと考え、以下の *in vitro* および *in vivo* の実験をおこなった。

in vitro

- a) 血液凝固時間の測定——1) Lee-White 法 2) 血漿 Ca 再加凝固時間測定法
- b) 血液成分との接触による人工血管表面の走査型電顕による観察。

in vivo

- a) 血流中に挿入した人工血管表面の初期変化の観察
- b) 長期間埋植後の人工血管表面の観察および開存率の検討

以上より、結果として *in vitro* の実験および *in vivo* の挿入実験で、本材料の特徴とする抗血栓性を示し、特に heparin 化されたものでは血流中の初期変化であるフィブリンの沈着および血栓の形成はほとんど認められなかった。

さらに1年半の長期間埋植したものでは、内皮細胞の厚さは、無処置群>PVA-Silica 群>heparinized PVA-Silica 群の順で、heparin 化されたものでは、無処置のもの1/5以下であった。開存率も、無処置2/7, PVA-Silica 群4/7, heparinized PVA-Silica 群8/12であり、PVA-Silica 複合体のコーティングが小動脈の置換に有利に作用していることが結論づけられた。

今後、新たな材料に PVA-Silica 複合体をコーティングし検討を加え、細小動脈置換用の人工血管の開発をめざし、さらにまた静脈系に応用できるものについても検討を加えてゆきたい。

5. B細胞レパトアーとその選択

細菌血清学部門 西川 伸一

免疫学が他の生命科学諸領域と比較してユニークな点は、免疫機能を担っている分子、すなわち、B細胞については免疫グロブリン分子、及びT細胞についてはその遺伝子が明らかになりつつある、T細胞リセプターの多様性獲得のメカニズムを扱う学問であり、また、この多様な個の中よりある特定の個を選択し記憶するメカニズムを研究する学問であるという点に尽きる。本講演会では、最初にB細胞の機能分子である所の免疫グロブリン分子の多様性獲得のメカニズムを

- 1) 進化による多様化
- 2) 体細胞変異による多様化

にわけて、それぞれにつき概説し、次に、この様なメカニズムで獲得されてきた多様の中から特定の個が選択されるメカニズムを考える一つの重要な理論である、イディオタイプ・ネットワーク理論について、

- 1) イディオタイプとは何か
- 2) イディオタイプの機能
- 3) イディオタイプを通しての細胞間の相互作用（ネットワークの概念）

の三点について概説した。しかし、この理論は現在の所、あくまで理論であって実験的具体性に乏しいため、このネットワークの実体を知るために、仮想されるネットワークの影響を受ける前に生体より取り出したB細胞と、生体内で分化した成熟脾臓B細胞について、V186-2 と称される免疫グロブリン可変部遺伝子及びそのファミリー遺伝子群について発現頻度を調べ、ネットワークがB細胞にいかなる選択を及ぼすかを調べた。我々の実験の結論は、ネットワークは、もともと短い寿命のB細胞の特定のものに長寿命を与えるという形で働くというものであるが、実際にB細胞がいかなる生化学的変化を経て長寿化するのは、今後の課題である。

6. 肺サーファクタントの再構成

病理学部門 鈴木 康 弘

肺表面活性物質は、抗無気肺因子として、特に出生時に重要とされる。同物質は数種の脂質と蛋白との複合体で、その組成変化と表面活性とは密接な関連を有すると考えられているが、その詳細については明らかでない。我々は、*in vivo* 及び *in vitro* での表面活性物質の活性をその組成との関連で検討を行ってきたが、ここでは、*in vivo* での 4-aminopyrazolopyrimidine (4-APP) 投与時のラット肺表面活性物質の変化と、*in vitro* での豚肺を用いた表面活性物質の再構成とから、各成分の役割についての解析の結果を述べたい。

4-APP は肝からのリポ蛋白の分泌を阻害する物質であるが、本薬剤投与により、血中脂質の極度の低下が起り、それに遅れて肺表面活性物質中の Phosphatidylglycerol (PG), 更に遅れてレシチン含量が低下した。電子顕微鏡による肺Ⅱ型細胞の観察を行うと、層状封入体が小さく変形したものとなり、生化学的には、飽和 PG の減少が示唆された。一方肺胞内の表面活性物質では、蛋白成分のうち特異蛋白の一つである 16,000ダルトンの蛋白が 4-APP 群で減少していた。表面活性は対照群に比して最小表面張力の上昇、surface compressibility の増大を示し、飽和 PG, アポ蛋白の減少などが、表面活性に影響を与えることが示唆された。豚肺より分離したサーファクタントを脱脂し、蛋白に富む分画を得る。これを pH 5.0 及び pH 10.0 の緩衝液で順次抽出すると、アルブミン及び特異蛋白の一つである 34,000ダルトンの蛋白を主として含む分画を得る。次いで、抽出されなかった蛋白を胆汁酸を用いて可溶化すると 16,000ダルトンの蛋白に富む分画を得る。最後の分画から混在する脂質を除き、胆汁酸で可溶化した種々の脂質と混じて透析すると、蛋白粒子を脂質膜内に含む脂質—蛋白複合体が得られる。この複合体の脂質—蛋白比は種々に変化させ得るが、透析前の比を 20~30:1 にしておくとも回収率が最も高い。この複体に、他の特異蛋白 (34,000ダルトン) を加えて pH を下げて透析すると、この蛋白が更に附加される。蛋白を有するこれらの複合体は、蛋白を含まないリポソームに比べて気液界面への吸着が著しく促進された。表面活性物質の主成分である飽和レシチンに、肺表面活性物質に含まれる他の磷脂質を単離して加えて作成した複合体について表面活性を調べると、PG を附加したものでは、他の磷脂質 (スフィンゴミエリン、不飽和レシチン、フォスファチジルセリン等) を附加したもの、或は、飽和レシチン単独のものに比べて表面活性は上昇した。更に PG の中でも飽和種即ち, dipalmitoylphosphatidylglycerol を附加した場合に、最も表面活性の高い複合体が得られた。

以上、アポ蛋白及び飽和 PG は、飽和レシチンと共同して、肺表面活性物質の活性を発現すると結論される。

7. 骨髓性白血病細胞の分化その後

細胞化学部門 市川 康 夫

骨髓性白血病 M1 株細胞は、培地中の分化誘導物質の作用下に主としてマクロファージに分化して細胞分裂能を失うと共に、貪食能や運動能を獲得する。この過程は不可逆的で、一旦分化した細胞をよく洗ってマウスに移植しても最早や白血病をおこすことはない。

貪食能・運動能は共に、細胞内収縮蛋白質であるアクチン・ミオシン系の働きによることが知られており、分化の前後におけるそれらの蛋白質ならびにその調節系にどのような変化がおきているかは興味深い問題である。

アクチン・ミオシン共に分化すると細胞当たり 2.5~3 倍に増加している。アクチンは機能的にもより活性化されており、重合能の上昇、ミオシン ATPase 活性化能の増強が見られる。ペプチドマップでも分化前後で相異なるスポットが指摘できるので、アミノ酸組成の変化がおきていることが考えられる。

分化に伴う最も興味深い現象の一つに細胞膜へのアクチン・ミオシンの結合増強がある。未分化 M1 細胞からは 80~90% の効率で細胞膜が採れる条件下で、分化した細胞からは 25% の回収があるのみで、他は核と共に沈渣に入る。そこでアクチン繊維を細胞膜へ結合させている因子を探る研究に入った。その結果、M1 細胞ではスペクトリンと共にホドリン (カルスベクチン) が発現されており、分化するとスペクトリンが減少してゆくらしい結果を得た。一個の細胞にスペクトリンとホドリンとが同時に存在しているのは極めて珍しい現象で、このことの意義を追究中である。

分化前務での細胞質ゲル化機構の変化も注目に値する。分化したマクロファージの抽出液は $2\text{ mM MgCl}_2 \cdot 50\sim 75\text{ mM KCl} \cdot 25^\circ\text{C}$ と云う普通の条件下でゲル化するが、未分化 M1 の抽出液では KCl 濃度を $10\sim 20\text{ mM}$ 以下に下げてやらねばゲル化しない。この KCl 非要求性のアクチン結合因子を探した結果、分子量 $38,000$ ならびに $105,000$ の 2 種の蛋白質を分離精製できた。両者共に細胞内では 2 量体として存在している。アクチン分子との結合比は、 38 K は $3:1$, 105 K は $12:1$ で飽和、それぞれ $12:1$ および $25:1$ 以上の結合があるとアクチン繊維をゲル化させる。但し、KCl が $10\sim 20\text{ mM}$ 以上あるとゲル化は完全に阻害される。これに反し、分化した細胞抽出液のゲル化は KCl 要求性である。 38 K ならびに 105 K 蛋白にはアクチン繊維を束ねる作用もあり、この方は KCl 濃度には無関係におこる。細胞質のゲル化は貪食・運動機能に重要な役割を果しており、分化前後でみられる上記の現象、殊に新しく見出された 2 種の蛋白質の細胞内での生理機能に関して現在研究続行中である。

昭和58年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会（昭和59年1月28（土）京大会館）

〔研究業績〕

1. T細胞の分化段階におけるトレランス誘導

細菌血清学部門 喜 納 辰 夫

免疫トレランスとは、本来、個体発生の時期に免疫応答のレパートリーが形成される過程で、クローンの増加に伴って自己抗原に反応性をもつクローンが選択的に除去または不活化される現象である。したがって初期の研究では、主に新生児から成体までの種々の発育段階の動物を用いてトレランス誘導の研究が行われてきた。しかしながら、この系では、幼若動物と成体動物での実験結果を同一の条件で定量的に比較することはむずかしいという問題がある。そこで我々は、骨髓中のリンパ球系の幹細胞は、X線照射した成体に移入されると胸腺に入り、そこで成熟して脾臓やリンパ節へ移行するというX線照射骨髓移植マウス (XBマウス) の実験系を用いて、T細胞成熟過程のどの段階でトレランスが誘導されるかということを調べた。トレランスの指標には、抗原としてハプテン・トリニトロフェニル (TNP) 基を用いて、抗原特異的な遅延型過敏症反応 (DTH) およびリンパ球増殖反応を測定することによって行なった。

1. DTH においては、トレランス源として、TNP-結合同系マウス脾細胞 (TNP-spl), TNP_I- または TNP_{I5}-ヒト免疫グロブリン (HGG) の投与によって強いトレランスが誘導される。TNP-spl, TNP_I-HGG はサプレッサー細胞を誘導するが、TNP_{I5}-HGG はサプレッサーを誘導せず、トレランス源の状態によってトレランスの機構が異なることが示唆された。XB マウスでは、骨髓移植後35日以降に免疫すると反応が認められる。その間のどの時期にトレランスが誘導されるかを調べたところ、骨髓移植後20日以前にトレランス源を投与してもトレランスにならず、25日以後に投与した群のみでトレランスが誘導されるという結果が得られた。

2. T細胞増殖反応を用いたトレランスの誘導。免疫して1週後のマウスのリンパ節および脾臓リンパ球は、*in vitro* で TNP-spl と混合培養することにより抗原特異的な増殖反応を示す。この系で増殖するT細胞は Thy1⁺, Ly1⁺, Ly2⁻ の表現型をもっており、ヘルパー・DTH 型のT細胞である。増殖反応においても、DTH と同様に、TNP-spl, TNP_I- あるいは TNP_{I5}-HGG のいずれの投与によっても強いトレランスが誘導された。XB マウスでの TNP 特異的反応は、骨髓移植後24日以降に免疫することによってやっと認められる。この系を用いてトレランス誘導の時期を調べたところ、TNP_{I5}-HGG をトレランス源として用いると、移植後少なくとも21日目の投与ではトレランスが成立することがわかった。

以上、X線照射骨髓移植マウスを用いて、T細胞の分化段階でのサプレッサー細胞非依存性のトレランス誘導を試みたが、トレランスになったマウスの抗原特異的リンパ球クローンが除去されているのかあるいは機能的に不活化された状態で存在し続けるのかなどの点について、今後、検討する必要がある。

2. 新しいマウス老化アミロイド線維蛋白“AS_{SAM}”とその血清中前駆物質

病 理 学 部 門 樋 口 京 一

アミロイドーシスは、幅約 100Å の繊細なアミロイド線維が臓器、組織の細胞外に沈着して起る疾患である。ヒトでは light chain 由来の AL、炎症に伴った AA、老人性の ASc など数種のアミロイド線維蛋白が報告されているが、実験動物ではマウスの AA 蛋白のみが詳しく研究されて来た。

病理学部門で開発・維持している 老化促進モデルマウス (Senescence Accelerated Mouse: SAM) は促進老化を特徴とする SAM-P と対照として正常化を示す SAM-R よりなり、SAM-P では加齢に伴い、全身にアミロイドが沈着し、10ヶ月齢での沈着率は90%に達する。SAM-P の肝臓より抽出、精製したアミロイド線維蛋白は分子量 (5,200)、アミノ酸組成、N末端アミノ酸 (blocked) などの生化学的性質が従来報告されているどのマウスアミロイド蛋白とも異なっており、免疫化学的にも AA 蛋白や免疫グロブリンと交差性を示さない全く新しいアミロイド蛋白であった。我々はこれを AS_{SAM}: Amyloid Senile in SAM, と名づけた。

抗 AS_{SAM} 血清および抗 AA 血清を用いた酵素抗体法 (PAP 法) で SAM の全身臓器を検索したところ、SAM-P と老齢の SAM-R の双方において、光顕にて Congo red 染色によってアミロイド沈着陽性と判断された部位に抗 AS_{SAM} 血清が反応すること、さらに炎症を伴うマウスでは AS_{SAM} とともに AA 蛋白が共存することが明らかになった。さらに抗 AS_{SAM} 血清を用い、SAM 以外の系統の老齢マウス組織に対し、PAP 法を行ったところ、数多くのマウスに陽性所見を観察し、AS_{SAM} が老化アミロイドとしてマウスに普遍的に分布している蛋白でもあることが示唆された。

また抗 AS_{SAM} 血清と、様々な系統のマウスの血清を二重拡散法を用いて反応させると、全ての系統のマウス血清との間に単一な沈降線が形成され、正常マウス血清中に AS_{SAM} と共通抗原性を持つ物質 (SAS_{SAM}: Serum AS_{SAM} related antigenic substance) が存在することが判った。免疫電気泳動、ゲル濾過、超遠心分離などから、SAS_{SAM} は90%が高密度リポ蛋白 (HDL) に属し、特に HDL₂ 分画 (1.063<d<1.125 g/cm³) に最も大量 (約60%) の分布を示すことが明らかになった。HDL 分画を脱脂して得られたアポ蛋白 (apo-HDL) を 8M 尿素に溶かし、Sephadex G-200 でゲル濾過すると、最も低分子のアポ蛋白分画が抗 AS_{SAM} 血清と反応した。この分画の主要な構成成分である分子量5,200のアポ蛋白が AS_{SAM} と共通抗原性を持つことが、Immuno blot 法などによって確められた。我々はこのアポ蛋白を apo SAS_{SAM} と名づけ、AS_{SAM} の前駆蛋白と考えている。分子量 5,200 は AS_{SAM} と等しく、正常マウス血清中を流れている HDL 粒子が各組織・臓器において老化に伴う何らかのプロセッシング機構の異常により、一つのアポ蛋白、即ち apo SAS_{SAM} がそのまま、構造変化を起こし、細線維状になって組織に沈着してくる可能性が示唆される。

3. 細胞運動と細胞質ゲル化機構

細胞化学部門 永 田 和 宏

一般の細胞の中にも、筋肉細胞と同じくアクチンやミオシンの存在することが発見されて以来、非筋細胞の運動もやはりそれら、いわゆるアクトミオシン系の支配を受けていることが、多くの実験事実により明らかとなった。しかし、その機構については未だ確定的なことは何もわかっていない。

私たちが用いているマウス白血病細胞 M1 株は、未分化な白血病状態ではなんの運動もしなかったものが、分化誘導因子によって分化すると、活発な運動や貪食をおこなうようになる。細胞運動の発現機構を扱う上では好適な系であり、ここ数年、M1 細胞のアクチン繊維について主として仕事を進めてきた。

アクチン繊維が三次元的に cross-link されて網目構造を作ることによって引き起こされる細胞質のゲル化は、細胞が運動するためには、基本的に重要な現象である。細胞質内の局所的なゲル・ゾル変換によって細胞は形を変え、偽足を出し、アメーバ様運動をおこなう。ゲル化には、蛋白性のゲル化因子が必要である。

M1 細胞の粗抽出液によるアクチンのゲル化に関しては、分化した細胞では (他の多くの細胞と同じく) KCl がゲル化を促進するのに、未分化なものでは KCl がゲル化を阻害した。この結果は、未分化 M1 細胞のゲル化が、KCl 感受性のゲル化因子によって担われていると考えられると考えやすい。予想通り私たちは、M1 細胞から 38

K, 105 K の 2 種の KCl 感受性ゲル化因子を精製することができた。どちらの因子も、アクチン繊維に結合して、KCl が存在しないときのみゲル化をひき起こす。電子顕微鏡による観察の結果、両因子ともゲル化の他に、アクチン繊維を横に束ねて“アクチン束”を作る作用のあることもわかり、こちらの方は KCl による影響を受けなかった。

M1 細胞中には、上記 2 種のゲル化因子の他に、他の非筋細胞と共通の 270 K のゲル化因子も存在しており、これら 3 種の蛋白の作用形式によって、ゲル化の KCl 感受性が支配されているものと思われる。38 K, 105 K が細胞内で本来もっている作用については、まだ確定的なことはわかっていない。

4. 胸部悪性腫瘍における clonogenic assay

内科学第一部門 李 啓 充

悪性腫瘍に対する化学療法の効果を高める努力の一つとして、in vitro における制癌剤感受性に応じて個々の症例に適した制癌剤を選択する方法がある。胸部領域の種々の悪性腫瘍について、Salmon-Hamburger method (Clonogenic assay) を用い、その in vitro における制癌剤感受性を検討した。手術・生検材料42例のうち、薬剤感受性の判定基準となる30個以上のコロニー形成を認めたものは、22例 (52%) であった。原発性肺癌27例のうち、30個以上のコロニー形成を認めたものは、17例 (63%) であった。原発性肺癌で薬剤感受性を検討しえた17例のうち、何らかの制癌剤に感受性 (% colony inhibition $\geq 50\%$) を示したものは5例 (29%) にすぎなかった。原発巣と転移巣との比較では、転移巣においてコロニー形成率及び薬剤感受性の増強する傾向を認めた。また非上皮性の腫瘍ではコロニー形成率が低かった。ヌードマウスの xenograft 5例についても検討したが、primary culture に比べ、コロニー形成率、薬剤感受性とも増強する傾向を認めた。

本 assay の実用性を高める為には未だ解決すべき問題が多く、最大の問題はコロニー形成率が低い点である。これに関しては Epidermal growth factor, top liquid method によりコロニー形成率が増加し、さらに癌性胸水中に growth factor 活性が存在するなどの知見をえた。また、% colony inhibition の算定には、colony size の影響、cluster の存在などで artifact の入り込む余地が多いが、% color inhibition の測定によりこれらの artifact を除去しうることが示唆された。今後、これらの基礎的問題を解決する努力を続ける一方、さらに症例を蓄積して臨床との相関を検討したいと考える。

5. サルコイドーシスの病態——BAL リンパ球所見から——

内科学第二部門 長 井 苑 子

気管支肺胞洗浄 (BAL) によって、病変局所から採取された細胞成分の検討によって、びまん性間質性肺疾患の診断鑑別、病勢の評価をすることが可能になってきた。なかでもサルコイドーシスは、得られるリンパ球成分が多いため、炎症像に関与するマクロファージ、リンパ球の検討から、病態生理について多くの検討が行われている。

これらの検討成績のなかから (1) リンパ球増多の機序、(2) リンパ球活性化の様態及び機序(3) リンパ球の機能とその調節などの諸点が問題点としてあげられる。

我々の検討成績では、サルコイドーシスの活動期症例では、BAL リンパ球増加 (20%以上)、 $E_{37^{\circ}C}$ cell 増加 (10%以上)、OKT 4/8 比増大 (5.0以上) の所見をみたすものがありこれらの症例では、BHL および肺野病変は不変あるいは増大する傾向がみられる。上述の各所見をみたすものを各々 Score 化してみると、胸部X線上の予後を評価することができる。

最近、サルコイドーシス活動期症例では、BAL-T リンパ球のうち、 E_{37^+} cell と I_{a^+} cell の増加および T_{ac^+} cell 低値の傾向が認められこれは病勢の回復と共に、 E_{37^+} cell, I_{a^+} cell 減少、 T_{ac^+} cell 増加を示すことを明らかにすることができた。活性化 T cell の指標である T_{ac} 抗原が、BAL-T cell で低値をとることについては、主に OKT 4⁺ T_{ac^+} cell の低値に原因することも明らかとなった。以上の傾向は、健康人や、末梢血レベルでは認められない所見である。

BAL- T_{ac}^+ cell 低値の機序について検討したところ、lung T cell より産生されている IL-2 による T_{ac} 抗原の飽和および、IL-2 による down regulation (疾患に特異的なもの) によるものではないことが明らかとなった。おそらく、BAL- T_{ac}^+ cell 低値は、何らかの刺激によって一度は高く発現された T_{ac} 抗原が、きわめて早期に抑制されるという、この疾患の self-limiting な炎症像に一致する機序によって支配されているものと考えられる。一方、活動期 BAL-T cell は、末梢血 T cell に比べて、外来の IL-2 による T_{ac} 抗原発現および、 3H チミジンとりこみを指標する cell proliferation のレベルは低い傾向にもある。

これらの所見と、マクロファージの活性化との関わりあい、類上皮細胞肉芽腫形成反応とどのように関係しているのかが今後の検討課題である。

6. 肺小細胞癌の治療における外科療法の役割

胸 部 外 科 瀧 俊 彦

肺小細胞癌は早期より全身転移がみられる為、肺癌治療の第一選択である手術療法の対象外とされてきた。最近の白血病を中心とした多剤併用化学療法の進歩は、肺小細胞癌においても長期生存を徐々に可能なものとして来ている。しかし、いまだに局所再発や、化学療法及び放射線療法に対する反応の悪いものが多くみられ、全体としてはいぜんとして予後不良である。

当研究所外科においては昭和51年以後、手術療法を最も確実な局所療法として位置づけ多剤併用化学療法に対する補助療法、すなわち Ajuvant Surgery として行って来たので、その結果を報告する。

対象症例は昭和57年までの手術例38例と、昭和46年から昭和57年の非手術例116例で男女比、年令、組織型では差はなかったが、病期では手術例でⅠ＋Ⅱ期16例、Ⅲ＋Ⅳ期22例であるのに対し、非手術例ではⅠ期5例、Ⅲ＋Ⅳ期111例と非手術例で病期の進んだものが多かった。

手術例、非手術例の50%生存は、それぞれ51週、36週、また3年生存率でも19.2%、3.5%といずれも手術例で延命がみられている。又手術例のⅢ＋Ⅳ期症例でも47週、7.5%と非手術例に比し良好であった。病期別ではⅠ期の50%生存は117週で、Ⅱ期20週、Ⅲ期45週、Ⅳ期50週とくらべ著しく良好であった。3年生存率ではⅠ期の42%とⅢ期の44%であり差はなかったが、これは最近の症例にⅢ期が多い為と考えられる。次いで手術例における化学療法併用の有無をみると、3剤以上併用で50%生存が110週と、1～2剤や非化学療法の場合(52週、48週)に比べ著しく良かった。とりわけ病期別にみると、3剤以上併用のⅢ＋Ⅳ期の50%生存が206週以上とⅠ＋Ⅱ期の117週以上よりすぐれており、最近の十分且つ長期間の化学療法の効果と思われる。

以上より最近では小細胞癌と診断された場合は化学療法を第一選択として行い、局所療法として手術療法及び放射線療法を併用している。術前の放射線療法は腫瘍周囲を線維組織で被包化することにより手術を容易にしている。又化学療法を術後継続しており、Tumor reduction Surgery となる可能性のある場合も時として行っている。

肺小細胞癌治療の第一選択が化学療法であることは明らかですが、術前の十分な検査によりⅠ期症例では、手術療法が非常に有効であった。またⅢ及びⅣ期(United)症例においても今後3剤以上の化学療法を強力に行った場合 Ajuvant Surgery は有用となる可能性があると考えられる。

7. 睡眠時呼吸異常

臨床肺生理学部門 大 井 元 晴, 平 井 正 志

睡眠時呼吸異常の研究の進歩により、傾眠あるいは不眠を主徴とする睡眠時無呼吸症候群の存在が明らかになり、また慢性閉塞性肺疾患においても、睡眠時低酸素血症の悪化が報告され、無呼吸によるもののほかに、低呼吸型が認められ、むしろ低呼吸型の方が多いと報告されている。

我々もまた、呼吸器疾患を対象に、睡眠時呼吸異常は、無呼吸による動脈血酸素飽和度(SaO_2)の低下と、呼吸の回復とともに、 SaO_2 の回復を繰り返す無呼吸型と、特にREM睡眠に一致して、無呼吸をとみなわずに、REM睡眠全体にわたる SaO_2 の低下をきたす低呼吸型に分けられ、低呼吸型ではREM睡眠時、経皮 P_{CO_2}

(PtcCO_2)の上昇をとまなうことを述べ、結核後呼吸不全症例を対象とし、Respiratory Inductive plethysmography (RIP) の記録より、胸部、腹部の呼吸性変化を測定した以下の結果について報告した。

① 低呼吸型を示した症例では、Non-REM 睡眠と比較して、REM 睡眠時胸部の動きが低下し、腹部の動きは比較的良く保たれ、胸部の動きの低下により一回換気量は低下する。

② 低呼吸型で気管開窓術の行われている症例では、切開口開放時にも、REM 睡眠時、 SaO_2 の低下を認め、閉塞性無呼吸の原因と考えられる上気道周囲の筋群の活動低下の役割は少いと考えられる。

③ 両側横隔膜麻痺の症例では、REM 睡眠時、胸部の動きが低下するが、腹部の動きはほとんど認められないため高度の低酸素血症を来す。

正常被験者では、REM 睡眠時肋間筋活動は低下するが、横隔膜の活動は増加し、RIP で、胸部、腹部の呼吸性変化の測定では、筋活動の変化と同様に、胸部の動きは低下し、腹部の動きは増加すると報告されている。結核後呼吸不全、横隔膜麻痺例での結果を考え合わせると、胸部の動きの低下が、睡眠時呼吸異常の一つの原因と考えられた。

また閉塞性無呼吸による症例では CPAP が有効であった。

〔特別講演〕

過敏性肺臓炎とその周辺

東大・物療内科 宮本 昭正

いわゆる過敏性肺臓炎として我々が最近経験したものには、農夫肺症、鳥飼病、空調肺、夏型過敏性肺臓炎などがある。従来、農夫肺症は我国には極めて稀とされていたが、検索にともない農村には必ずしも稀有なものではないことが明らかになった。鳥飼病は小鳥の飼育が普及し室内で小鳥を飼う者が増加してきたので、常にその可能性を考慮しておく必要がある。空調肺や加湿肺も空調や加湿器の普及により増加の傾向がある。これらの疾患については今後とも注意が必要である。過敏性肺臓炎に類似した肺疾患としては、金やメトトレキセートなど薬剤による肺病変、PIE 症候群がある。これら過敏性肺臓炎は三型と四型のアレルギー反応によって発症するが、発症にあたり、いずれの型がより重要であるかは症例によって異なると思われる。

過敏性肺臓炎類似の肺病変は、実験動物を感作し、沈降抗体が産生されているところに抗原を吸入させることによって発症させるし、また結核菌で感作し、遅延型の皮膚反応が陽性であることを確かめた後、PPD を吸入させても発症させることが出来る。遅延型アレルギーをモルモットに卵白アルブミンで感作することによって起こさせた後、セファロース B の粒子に卵白アルブミンを吸着させたものを経気道的に肺に入れてやると、セファロースの周辺に細胞浸潤がみられる。このような動物の気道洗滌液中には MIF や喰食細胞を融合させる fusion factor が認められる。また気道洗滌液中の細胞を抗原と共に培養すると MIF が産生される。ところでサイクロスポリン A を実験動物に投与すると、細胞浸潤は著明に抑制される。これら動物実験の結果を総合すると、過敏性肺臓炎の発症には、T 細胞がかなり大きな役割を演じていると推定された。

II 第3回京都呼吸器疾患シンポジウム

世話人 前川暢夫, 寺松 孝, 佐川弥之助, 大島駿作

日 時 昭和58年10月29日

場 所 くに荘

司 会 泉 孝英

主 題 慢性気管支炎とびまん性汎細気管支炎

I Introductory Remarks 国療南福岡病院 長野 準

II 関連演題

1) 判別分析による各種慢性気道性疾患の位置づけ

- 北大一内 棟方 充, 井上幹郎, 小笠原英紀, 松崎道幸, 本間行彦, 川上義和
- 2) 慢性閉塞性肺疾患 (B型) におけるラ音
- 北大一内 小笠原英紀, 松崎道幸, 井上幹朗, 棟方 充, 本間行彦, 川上義和
- 3) DPB の治療としての BAL の試み 京大胸部研内二 長井苑子
- 4) DPB が疑われた2症例 岩手医大三内 佐山恒夫
- 5) 気管支造影像からみたびまん性汎細気管支炎 天理よろず相談所病院 岩田猛邦
- 6) 胸部X線像からみたびまん性細気管支炎の臨床的検討 浜松医大二内 本田和徳
- 7) びまん性汎細気管支炎のX線 CT 像—末梢病変と中枢病変の比較を中心として—
- 京大胸部研内二 西村浩一
- 8) 慢性関節リウマチに伴った細気管支炎の3症例 京大胸部研内一 李 啓充
- 9) 気管支拡張症と DPB 京大胸部研内一 中西通泰
- 10) いわゆる “small airway disease” の2症例 名大二内 高木健三, 鈴木隆三郎, 佐竹辰夫
- 11) びまん性汎細気管支炎症例における気道過敏性の検討 京大胸部研内二 古江増裕
- 12) DPB における緑膿菌の肺組織内分布 (その2) 順天堂大呼吸器内科 稲富恵子, 本間日臣
- 同共同病理 村田弥恵子
- 聖路国際病院病理学科 齊木茂樹
- 13) 末梢気道閉塞の肺機能 大阪府立羽曳野病院 大杉隆史
- 14) びまん性汎細気管支炎——病理解剖症例を中心に—— 自治医大呼吸器内科 貫和敏博
- 15) 中葉病変が顕著に認められたびまん性汎細気管支炎の一例
- 虎の門病院 中田紘一郎, 吉村邦彦, 中谷龍王, 内田好彦, 蝶名林直彦, 中森祥隆, 谷本普一
- 16) DPB をはじめとする副鼻腔気管支症候群と HLA 抗原 BW54 との関連
- 都立駒込病院 工藤翔二, 平山雅清
- 東大耳鼻咽喉科 洲崎春海
- 17) 慢性気管支炎およびびまん性汎細気管支炎における化学療法 長崎大二内 斎藤 厚, 原 耕平
- 18) DPB の病態に関する臨床的検討——シネシンチグラフィを中心として——
- 奈良医大二内 龍神良忠, 伊藤新作, 春日宏友, 今井照彦, 成田亘啓, 三上理一郎
- 東京女子医大内科 滝沢敬夫

III 総括討論

III 胸部研特別ゼミナール

- 107回 58年1月31日 上皮組織の二状態——幾何学的細胞モデルによる区別 (鐘紡癌研) 本多 久夫
- 108回 58年2月24日 脾臓内移植肝細胞の分化 (旭川医大第二外科) 江端 英隆
- 110回 58年3月25日 ペルオキシゾーム——研究の現況と展望 (札幌医大・癌研病理) 望月 洋一
- 111回 58年12月8日 細胞融合のメカニズム (札幌医大・癌研, 教授) 浅野 朗
- 112回 59年1月19日 ペルオキシダーゼの反応機構と物理化学 (北大・応用電気研究所助教授) 田村 守
- 113回 59年1月24日 骨髓移植と骨髓キメラの免疫学
- (放射線医学総合研究所生理病理研究部生理第1研究室長) 佐渡 敏彦
- 114回 59年2月22日 染色体突然変異と癌 (東大放射線生物研究センター, 教授) 佐々木正夫
- 115回 59年3月1日 リポ蛋白代謝と老化 (京大医学部老年医学教室, 助教授) 村井 淳志
- 116回 59年3月2日 ヒト肺がんに対するモノクローナル抗体の作製とその解析
- (放射線影響研究所病理部免疫学研究室研究主任) 秋山 実利
- 117回 59年3月13日 T細胞分化とマクロファージ (浜松医大・解剖学教室, 教授) 山下 昭
- 118回 59年3月22日 胸腺白血病発生における胸腺の役割
- (愛知がんセンター研究所第2病理部室長) 日合 弘

119回 59年3月28日 疾患モデル動物 (KK, SHRSP, SAM) と食餌

(武田薬品生物研究所, 主任研究員) 松尾 隆夫

SAM の一般行動と学習行動

(〃 〃, 研究員) 宮本 政臣

IV 講演会

昭和58年8月23日 Oxidative metabolism in activated macrophages. Dr. Richard Johnston, Professor of Pediatrics, Colorado Medical Center.

昭和58年9月12日 Epidemiology, diagnosis, and Treatment of Human actinomycoses. Dr. Klaus P. Schaal, Professor of Medical Microbiology and Epidemiology, University of Cologne (Köln), W. Germany.

昭和58年10月27日 Waferfalls, speed limits, tube laws—in the lung? Dr. Robert E. Hyatt, Professor of Medicine, Division of Thoracic Diseases and Internal Medicine, Department of Physiology and Biophysics, Mayo Clinic and Mayo Foundation, Rochester, Minnesota.

昭和59年2月16日 High frequency jet ventilation. Dr. Arnold Sladen, Professor of Anesthesiology, University of Pittsburgh.

昭和59年3月16日 Interstitial lung disease. Dr. R. M. Cherniak, Professor and Chairman, Department of Medicine, University of Colorado.

昭和59年3月16日 Control of breathing during sleep. Dr. N. S. Cherniak, Professor of Medicine and Physiology, Case Western Reserve University.

業績目録

内科学第一部門

〔学会発表〕

1. 結核, 排定型抗酸菌症

久世文幸: 特別講演「実験的非定型抗酸菌症」, 第58回日本結核病学会総会1983年4月.

池田宣昭: シンポジウム「結核化学療法強化をめぐる」, 3. PZA の評価. 同上. 1983年4月.

倉沢卓也: シンポジウム「ツベルクリン反応の臨床的意義」, 2. ツベルクリン反応陰性結核, 非定型抗酸菌症のツベルクリン反応. 同上. 1983年4月.

村山尚子, 桜井信男, 西山秀樹, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫他: 排菌陽性患者の臨床的検討—化学療法と治療経過を中心に—同上. 1983年4月.

桜井信男, 村山尚子, 西山秀樹, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫他: 排菌陽性患者の臨床的検討—治療前臨床所見を中心に—同上. 1983年4月.

田口善夫, 伊賀幹二, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦他: 経気管支的肺生検により診断し得た肺結核症例及びその有用性について—同上. 1983年4月.

久世文幸, 光岡明夫, 千葉 渉, 清水慶彦, 伊藤元彦, 前川暢夫, 鈴木康弘: Mycobacterium nonchromogenicum complex による慢性肺感染症の1例. 同上. 1983年4月.

齊藤 肇, 高倉鉄也, 久世文幸: 抗酸菌同定用キットの開発: 第2報, 臨床分離株を用いてのキットの有用性の評価. 同上. 1983年4月.

内平文章, 桜井信男, 久世文幸, 前川暢夫: Mycobacterium avium-intracellare の集落形態と in vitro 薬剤感受

性並びにマウスに対する抗菌力。同上。1983年4月。

山本孝吉, 鈴木克洋, 鈴木雄二郎, 久世文幸, 前川暢夫他: 夫婦間に発症した肺結核症の3例。第51回日本結核病学会近畿地方会。1983年6月。

F. Kuze, A. Mitsuoka, W. Chiba, Y. Shimizu M. Ito, T. Teramatsu, N. Maekawa and Y. Suzuki: Chronic Pulmonary Infection caused by Mycobacterium nonchromogenicum complex: VIII. Asia-Pacific Congress on Disease of the Chest. 1983年7月

T. Kurasawa, K. Yamamoto, H. Nishiyama, M. Kawai, F. Kuze, M. Nakanishi, N. Maekawa: Tracheo-bronchial Tuberculosis. 同上。1983年7月。

倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫他: 胸部 X-P 像陰性の気管・気管支結核症の5症例, 第7回日本気管支学会総会, 1983年7月。

高嶋義光, 鈴木雄二郎, 千葉 渉, 坂東憲司, 長谷光雄, 渡辺 智他: 小児気管支結核の一症例, 第30回結核病学会北陸地方会, 1983年10月。

久世文幸: シンポジウム, 肺結核外科の現状と将来: 肺結核治療の現状: 内科臨床面から, 第36回日本胸部外科学会総会: 1983年11月。

山鳥英世, 武藤 真, 池田宜昭, 他: 当院における胸部外科手術の現況と問題点, 第38回国立病院療養所総合医学会, 1983年3月。

丸井康子, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫, 奥村典仁, 高嶋義光: 多剤耐性を示し, 外科療法を要した肺結核症の1例 第52回日本結核病学会近畿地方会, 1983年11月。

網谷良一, 田中栄作, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 笹沼竹雄, 岩田猛邦, 久世文幸: 右肺上葉に孤立性空洞を生じた M. Kansasii 症の2例, 同上, 1983年11月。

李 英徹, 片山信之, 坂本広子, 石原亮介, 岩崎博信, 植田文一, 中井 準, 他: 肺塞栓症後に発症した M. intracellulare 症の1例, 同上, 1983年11月。

2. 腫 瘍

藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 他: 生前に三重癌と診断された一症例, 第38回日本肺癌学会関西支部会, 1983年2月。

望月吉郎, 藤本憲弘, 田口善夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: IIP に合併した肺重複癌の一例, 同上, 1983年2月

岩崎博信, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原亮介, 梅田文一, 中井 準, 他: 気管支腺腫の自験例, 第7回日本気管支学会総会, 1983年7月。

千葉 渉, 渡辺 智, 長谷光雄, 坂東憲司: 非切除肺癌長期生存の一例, 第17回日本肺癌学会北陸地方会, 1983年7月。

赤土正洋, 奥平晃久, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原亮介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 小細胞癌のCONP 療法中にみられる血球減少に対する成分輸血の適応, 第39回日本肺癌学会関西支部会, 1983年7月。

奥平晃久, 赤土正洋, 西村千浪, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原亮介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 大量咯血で死亡した肺癌症例の検討, 同上, 1983年7月。

千葉 渉, 鈴木雄二郎, 坂東憲司, 長谷光雄, 高嶋義光, 渡辺 智, 他: 当院における偽腫瘍の5治験例, 第19回日本胸部疾患学会北陸地方会, 1983年10月。

藤本憲弘, 守口雅文, 田中栄作, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 他: 肺癌による癌性髄膜炎4症例の臨床及び病理学的検討, 第24回肺癌学会総会, 1983年10月。

奥平晃久, 片山信之, 坂東広子, 李 英徹, 石原亮介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: カルチノイド症候群を呈した気管支カルチノイドの1例, 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年11月。

片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原亮介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 胸部X線上胸壁に接する腫瘍影に試みた Echo Guided Needle Aspiration Biopsy(EGNAB) の有用性, 第40回日本肺癌学会関西支部会, 1984年, 2月。

坂本広子, 片山信之, 李 英徹, 石原亮介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: チューブ・ドレナージ及び胸腔内制癌剤注入療法による癌性胸膜炎の治療—本院に於ける腺癌例の予後の検討—同上, 1984年2月.

赤土正洋, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原亮介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 低K血症, 高血圧症, 高 ACTH 血症を伴った肺小細胞癌の1例: 同上, 1984年2月.

牛田伸一, 他: Co-enzyme Q₁₀ 及び Vitamine E 併用による放射線肺臓炎予防効果の臨床的検討, 同上, 1984年, 2月.

倉沢卓也, 李 啓充, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫, 田村康二, 鈴木康弘, 他: 縦隔原発悪性線維性組織球腫症の一部検例, 同上, 1984年2月

村山尚子, 武藤 真, 西山秀樹, 前川暢夫, 他: X線陰性肺癌の五症例, 同上, 1984年2月.

3. 感染症の化学療法

中西通泰, 桜井信男, 前川暢夫, 岩田猛邦, 武藤 真: 呼吸器感染症に対する MT-141 の臨床的検討, 第31回日本化学療法学会総会, 1983年6月.

中西通泰, 村山尚子, 前川暢夫: 呼吸器感染症に対する AT-2266 の臨床的検討, 同上, 1983年6月.

中西通泰, 桜井信男, 村山尚子, 鈴木克洋: 呼吸器感染症に対する AC-1370 の臨床的検討, 同上, 1983年6月.

中西通泰, 倉沢卓也, 丸井康子, 前川暢夫, 池田宣昭, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 松原恒雄: 呼吸器感染症に対する KBT-1585 の臨床的検討: 第31回日本化学療法学会西日本支部総会, 1983年12月.

前川暢夫, 中西通泰, 長谷光雄, 坂東憲司, 池田宣昭, 辻野博之, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 岩田猛邦, 中井 準, 他: 呼吸器感染症に対する DKB 点滴療法の検討, 同上, 1983年12月

中西通泰, 前川暢夫, 他: CTM の呼吸器感染症に対する臨床的検討, 同上, 1983年12月.

中西通泰, 鈴木克洋, 鈴木克洋, 鈴木雄二郎, 丸井康子, 前川暢夫, 稲葉宣雄, 鍵岡 明, 辻野博之: 呼吸器感染に対する Azthreonom の臨床的検討, 第30回日本化学療法学会東日本支部総会, 1983年9月.

種田和清, 藤本憲弘, 田口喜夫, 望月吉郎, 網谷良一, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 剖検例を中心とした肺真菌症の臨床的検討, 第31回日本化学療法学会総会, 1983年6月.

田口善夫, 田中栄作, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦: 慢性気道感染症における DL8280 の有用性について, 第21回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年6月.

望月吉郎, 藤本憲弘, 田口善夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦: 遷延化した肺炎10例の臨床的検討, 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年11月.

望月吉郎, 田中栄作, 藤本憲弘, 田口喜夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 当院における最近10年間の *Pneumocystis carinii* 肺炎の臨床的検討, 第31回日本化学療法学会西日本支部総会, 1983年12月.

4. 気管支喘息, アレルギー性疾患

周東 寛, 野口英世, 倉沢卓也, 川合 満, 前川暢夫, 他: 気管支喘息における干渉低周波療法について, 第33回日本アレルギー学会総会, 1983年10月.

川合 満, 倉沢卓也, 前川暢夫, 高納 修, 他: 副腎皮質ステロイド薬の薬効評価の検討(2), 同上, 1983年10月.

田中健一, 川合 満, 前川暢夫, 大幡勝也他: TDI による実験的アレルギーに関する研究(第3報): 鼻アレルギーモデルに関する検討, 同上, 1983年10月.

田中健一, 竹岡明美, 井野隆光, 河野茂勝, 大幡勝也: TDI による実験的アレルギーに関する研究(第4報): マウス接触過敏症に関する若干の知見, 同上, 1983年10月.

田中健一, 丸井昭吾, 三井俊子: TDI による鼻アレルギーに関する実験的研究, 第53回日本衛生学会, 1983年4月.

東向一郎: DSCG の薬物動態, 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年11月.

坂本広子, 片山信之, 李 英徹, 石原亨介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 重症喘息発作をきたし救命し得た28例の検討, 第21回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年6月.

坂本広子, 片山信之, 李 英徹, 石原亨介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 救命し得た重症喘息発作27例の検討, 第11回日本救急医学会総会, 1983年11月.

5. 心身医学

中西通泰: 死の受容, 第7回, 死の臨床研究会, 1983年.

6. その他

川合 満: シンポジウム「気道の病態生理」vi) 痰と薬物評価, 第35回日本気管食道科学会総会, 1983年11月.

田中健一, 井野隆光, 丸井昭吾: エポキシ樹脂硬化剤尿中代謝物とその変異原性について, 第56回日本産業衛生学会, 1983年4月.

井野隆光, 沢 幡正, 田中健一, 北野幸重: エポキシ樹脂硬化剤の変異原性—構造活性相関への量子化学的アプローチ, 第12回日本環境変異学会, 1983年10月.

鈴木克洋, 鈴木雄二郎, 丸井康子, 桜井信男, 村山尚子, 李 啓充, 山本孝吉, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫: 喀血を主訴とした大動脈炎症候群と思われる一症例, 第21回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年6月.

白川太郎, 倉沢卓也, 前川暢夫, 北市正則, 鈴木康弘: コレステロール肺炎の一症例, 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年11月.

倉沢卓也, 李 啓充, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫, 他: DPB の臨床的検討—検査所見を中心に—第23回日本胸部疾患学会総会, 1983年4月.

藤本憲弘, 伊賀幹二, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: Pure red cell aplasia 他の多彩な合併症を有した悪性胸腺腫の2例, 同上, 1983年4月.

網谷良一, 伊賀幹二, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 経気管支肺生検の意義と限界, 同上, 1983年4月.

岩田猛邦, 伊賀幹二, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 三上理一郎: ビマン性汎細気管支炎における気管支造影の検討, 同上, 1983年4月.

中西通泰, 鈴木雄二郎, 鈴木克洋, 丸井康子, 李 啓充, 村山尚子, 桜井信男, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 前川暢夫: 気管支拡張症, 死亡例の検討, 同上, 1983年4月.

石原亮介, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 慢性閉塞性肺疾患におけるBTPS バック付 Body plethysmography の有用性について, 同上, 1983年4月.

岩崎博信, 石原亮介, 中井 準: Body box における圧—気流ループの開大度の定量的評価に関する検討, 第21回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年6月.

片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原亮介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 本院での気胸における chemical pleurodesis の成績—OK432, テトラサイクリン療法を中心—同上, 1983年6月.

石原亮介, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 慢性呼吸不全急性増悪例の検討—初期治療としての controlled O₂ therapy の役割, 第11回日本救急医学会総会, 1983年11月.

片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原亮介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 6ヶ月以上 follow-up できた気胸87症例の臨床的検討, 同上, 1983年11月.

藤原由美子, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原亮介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 脾臓症状に乏しく胸水により発見された慢性脾炎の1例, 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年11月.

鈴木雄二郎, 千葉 渉, 坂東憲司, 長谷光雄, 高嶋義光, 山本孝吉, 渡辺 智: 当院における BAL の経験, 第19回日本胸部疾患学会北陸地方会, 1983年10月.

網谷良一, 守口雅文, 田中栄作, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦: Liquid-filled Alveolography による蜂窩肺の描出: 第11回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年6月.

望月吉郎, 守口雅文, 田中栄作, 藤本憲弘, 田中善夫, 網谷良一, 岩田猛邦: Pickwick 症候群の一例, 同上, 1983年6月.

網谷良一, 守口雅文, 田中栄作, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦: 両側胸水左気胸を呈した宮崎吸虫症と考えられる1例, 同上, 1983年6月.

網谷良一, 日村好宏, 丸井伸行, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦: 肺病変が先行した多発性筋炎の3例, 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983年11月.

田口善夫, 田中栄作, 藤本憲弘, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦: 予後良好であった Wegener 肉芽腫症と考えられる一症例, 同上, 1983年11月.

〔誌 上 発 表〕

1. 結核, 非定型抗酸菌症

桜井信男: 非定型抗酸菌に対する主として Cephem 系抗生物質の試験管内効果について, 結核, 第58巻第6号, 1983年6月.

桜井信男, 久世文幸: 非定型抗酸菌の諸種薬剤に対する感受性 (VI) サルファ剤とその合併の試験管内制菌効果について, 結核, 第58巻第8号 415~420 pp. 1983年.

久世文幸, 李 英徹, 前川暢夫, 鈴木康弘: 実験的非定型抗酸菌症に関する研究, 6. 実験的 *Mycobacterium fortuitum* 症作成と治療の試み, 結核, 第58巻第7号, 385~393 pp, 1983年.

F. Kuze, T. Kurasawa, H. Nishiyama, N. Maekawa: A small (murine) model of *Mycobacterium avium*-intracellular infectionintravenous and inhalational models, Proceedings of 13th International Congress of chemotherapy, part 62 (experimental infections) 49-53 pp, 1983年.

久世文幸: 実験的非定型抗酸菌症〔第58回日本結核病学会総会特別講演〕結核, 第58巻第9号469-488 pp, 1983.

Fumiyuki Kuze, Akio Mitsuoka, Wataru Chiba, Yasuhiko Shimizu, Motohiko Ito, Takashi Teramatsu, Nobuo Maekawa, Yasuhiro Suzuki: Chronic infection caused by *Mycobacterium terrae* complex: A resected case, Amer. Rev. Respir Dis. vol. 128, 561~565 pp, 1983年.

斉藤 肇, 浅野健治, 高倉鉄也, 藤村勝行, 楠 伸治, 久世文幸, 陳 炳涸: 抗酸菌同定用キットの開発 (第2報) 臨床分離株を用いてのキットの有用性の評価, 臨床検査, 第27巻第10号, 1188~1192, 1983年.

久世文幸, 李 啓充: 実験的非定型抗酸菌症に関する研究: 7. *Mycobacterium avium*-intracellular complex のマウスに対する病原性-(ii)mouse virulent strain (マウス毒力株) の検索—結核, 第59巻第1号, 13-25 pp, 1984年.

久世文幸, 桜井信男: 実験的非定型抗酸菌症に関する研究8. マウスを対象とした *Mycobacterium intracellulare* 吸込感染の試み (続報) 結核, 第59巻第2号, 115-122頁, 1984年.

Fumiyuki Kuze: Experimental Chemotherapy in Chronic *Mycobacterium avium*-intracellular infection of mice. Amer. Rev. Respir Dis. Vol. 129 No. 3, 84, 1984年.

山鳥英世, 藤本憲弘, 武藤 真, 小沢 晃, 池田宣昭, 木下和之, 森 一弥, 山内立夫, 陶 捷士: 喀痰中より検出される非定型抗酸菌の現状, 医療, 第37巻, 1138~1140 pp, 1983年.

中西通泰, 老年者の呼吸器疾患, 粟粒結核, 老人科診療第4巻370~377頁, 1983年.

伊藤文雄, 中西通泰座長: シンポジウム結核化学療法強化をめぐって, 結核第58巻156p, 1983年.

泉 孝英編著, ツベルクリン反応, 倉沢卓也, ツベルクリン反応陰性結核, 非定型抗酸菌症のツベルクリン反応, 60~74pp, 中外医学社, 1984年.

泉 孝英座長: シンポジウム, ツベルクリン反応の臨床的意義, 倉沢卓也, ツベルクリン反応陰性結核, 非定型抗酸菌症のツベルクリン反応, 結核第58巻第10号, 541~562pp, 1983年.

倉沢卓也: ツベルクリン反応陰性の結核患者に関する臨床的検討, 日本胸部臨床, 第43巻第2号, 119~125 pp, 1984年.

山鳥英世, 藤本憲弘, 武藤 真, 池田宣昭, 他: 喀痰中より検出される非定型抗酸菌の現状, 医療, 第37巻, 第11号, 1138p~1140p, 1983年11月.

池田宣昭：抗結核等起因消化器症状に対するトピサレートの使用経験，薬理と治療，第11巻第9号 565～568p 1983年9月.

2. 腫瘍

高橋憲太郎，人見滋樹，前里和夫，鈴木康之，奥田正，辻野博之，裏辻康秀，倉沢卓也：Carcinoma in situ と末梢小型腺癌の肺重複癌の切除例，肺癌第23巻第4号 527～535pp，1983年12月.

李 英徹，平佐昌弘，千田道雄，片上信之，坂本広子，石原亮介，岩崎博信，梅田文一，中井 準，他：血中 α -Fetoprotein, hCG, CEA の高値を示した前縦隔原発と考えられる germ cell tumor の1例，日本胸部臨床，第42巻，第6号 483-489 pp，1983年6月.

石原亮介，片山信之，坂本広子，李 英徹，岩崎博信，梅田文一，中井 準：癌性リンパ管症に伴う多発性気管支壁転移を認めた子宮頸癌の1例，気管支学，第5巻第2号 155 p，1983年6月.

片山信之，坂本広子，李 英徹，石原亮介，岩崎博信，梅田文一，中井 準：螢光抗体染色法を用い，喀痰胞中の腫瘍細胞を同定した RCG 産生肺癌の一例，日本胸部臨床，第42巻，第12号，1061～1065pp，1983年12月.

坂本広子，西村千浪，片山信之，李 英徹，石原亮介，岩崎博信，梅田文一，中井 準：本院における肺癌症例の統計的考察—非切除例の予後について，神戸市立病院紀要，第22号，1983年.

3. 感染症の化学療法

西山秀樹，山本孝吉，前川暢夫，笹田昌孝，須藤芳正：Sulfamethoxazole-Trimethoprine 合剤の慢性呼吸器感染症に対する臨床効果と作用機序の検討，臨床と研究，第60巻第10号，124～130 pp，1983年10月.

山田栄一：CEZ 耐性黄色ブドウ球菌による肺化膿症に CMZ が著効した1症例 Progressive in Medicine, 第3巻第9号，1983年9月.

前川暢夫，中西通泰，倉沢卓也，鈴木克洋，鈴木克洋，鈴木雄二郎，長谷光雄，坂東憲司，池田宣昭，小沢晃，辻野博之，稲葉宣雄，小田芳郎，鍵岡 朗，岩田猛邦，網谷良一，種田和清，田口善夫，中井 準，他：呼吸器感染症に対する DKB（パニマイシン）の点滴静注法による臨床的検討—1日1回投与と2回分割投与の比較，臨床と研究，第61巻，601～615pp，1984年.

中西通泰：起炎菌の決定，現代医療，第15巻 1607～1612pp，1983年.

中西通泰，前川暢夫，桜井信男，村山尚子，李 啓充，丸井康子，岩田猛邦，網谷良一，望月吉郎，種田和清，長谷光雄，辻野博之：DL-8280 の呼吸器感染に対する臨床的研究，chemotherapy，第32巻 s-1, 404～413, 1984年.

前川暢夫，中西通泰，稲葉宣雄，小田芳郎，辻野博之，池田宣昭，他（共同研究）：慢性気道感染症に対する BRL 25,000 (Clavulanic acid-Amoxillin) と Amoxillin の薬効比較試験成績 Chemotherapy 第31巻，s-2 1～43pp '83年.

前川暢夫，中西通泰，他（共同研究）：二重盲検法による呼吸器感染症に対する T-1982 と cefmetazole との薬効比較試験. Chemotherapy 第31巻 528-565pp，1983年.

前川暢夫，中西通泰，倉沢卓也，武藤真 他（共同研究）：呼吸器感染症に対する Astromycin (KW-1070) と Amikacin との薬効比較試験成績 Chemotherapy 第31巻，149～195pp，1983年.

前川暢夫，中西通泰，藤本憲弘，武藤 真，桜井信男，村山尚子，稲葉宣雄，小田芳郎，内平文幸，網谷良一 Cefprimide (SM-1652) の呼吸器感染症に対する臨床的研究 Chemotherapy 第31巻 s-1 366～371 p，1983年.

前川暢夫，中西通泰，倉沢卓也，村山尚子，桜井信男，小田芳郎，内平文幸，岩田猛邦，池田宣昭，山鳥英世，辻野博之，山田栄一，松原恒雄，他：呼吸器感染症に対する Bacampicillin (BAPC) の臨床的検討，日本胸部臨床，第42巻第7号 616p～625p，1983年7月.

4. 気管喘息，アレルギー疾患

川合 満，倉沢卓也，中西通泰，松原恒雄，岩田猛邦，網谷良一，山田栄一，賀戸重允，石橋達雄，長谷光雄，長谷光雄，江部洋一郎，前川暢夫：中医学の立場から行なわれた気管支喘息患者に対する漢方薬治療 Proc.

symp. WAKAN-YAKU Vol. 16 254~261pp, 1983年.

川合 満：特別企画，アレルギー：気管支喘息とアレルギー，からだの科学，No. 111，52~57頁，1983年.

川合 満，倉沢卓也，前川暢夫：DSCG 長期治療（5年以上）症例の検討，臨床と研究，第60巻，1691~1697 pp, 1983年.

足立 明，今村四郎，川合 満，他：京都市の学童に及ぼす環境汚染影響調査報告（京都市委託調査）大気汚染測定局と自動車排気ガス測定局周辺の小学校児童について，京都医学会雑誌，第30巻，115~143pp 1983年.

足立 明，今西四郎，川合 満，他：自動車排出ガスなどによる環境汚染影響調査報告（京都市委託調査）京都市南区九条通り周辺地域の昭和56年度調査ならびに，昭和50年度と昭和53年度調査との経年比較，京都医学会雑誌，第30巻，145~180pp, 1983年.

川合 満：漢方療法の実際，気管支喘息，日経メディカル，9—'83別冊付録 22~23p, 1983年.

川合 満：特集最近の気管支治療薬をめぐって，最近の気管支拡張薬の特徴と臨床効果，医学と薬学，第10巻 1119~1135pp, 1983年.

Ken-ichi TANAKA, Mitsuru KAWAI and Nobuo MAEKAWA: Experimental Model of Asthma by Toluene Diisocyanate (TDI) 京大胸部研紀要，第16巻，1~9頁，1983年.

倉沢卓也，西山秀樹，川合 満，久世文幸，中西通泰，前川暢夫，網谷良一，岩田猛邦，黒田直明，辻野博之，山田栄一，坂東憲司，長谷光雄，江部康二，江部洋一郎：気管支喘息に対する薬方薬品治療の試み，日本胸部臨床，第42巻，第10号，834~841pp, 1983年.

川合 満，倉沢卓也，前川暢夫，也：抗コリン薬 Sch1000 の薬効評価，臨床と研究，第60巻，3700~3706頁，1983年.

川合 満：医学時典 SRS-A，キッセイクル vol. 1, No. 3, 15~16頁，1983年.

川合 満，前川暢夫，他：Formoterol (BD 40A) 長期連用時における治療効果と安全性，薬理と治療，第11巻，4381~4403 pp, 1983年.

川合 満：気管支喘息の臨床像と重症度，臨床成人病，第13巻，2167~2172 pp, 1983年.

川合 満：気管支喘息の治療（最近の進歩）日本医師会医学講座，昭和57年度 245~252 pp, 日本医師会出版，金原出版，1983年.

山村雄一，信太隆夫，編集，アレルギーの診療，川合 満，8，非特異的療法，169~178頁，メディカルトリビューン，1983年.

5. 心身医学

Hiromi KAWANO: Clinical care for dying patients. Asian Medical Journal vol. 26, 447~462 pp, 1983年.

6. その他

石原亮介，片山信之，坂本広子，李 英徹，岩崎博信，梅田文一，中井 準：慢性呼吸不全急性増悪，救急医学，第8巻，第2号，169~175 pp, 昭和59年2月.

長岡 滋，長野 準，野口英世，前川暢夫，川合 満，他，N-アセチルシスチン製剤 TY-0048 の臨床効果の検討—至適投与量について—基礎と臨床，第17巻，3289~3297 pp, 1983年.

長野 準，長岡 滋，前川暢夫，川合 満，他：慢性呼吸器疾患における N-アセチルシスチン製剤 TY-0048の臨床効果の検討—塩酸メチルシスチン錠との二重盲検法を用いて—薬理と治療，第11巻，3959~3973頁 1983年.

長岡 滋，長野 準，前川暢夫，川合 満，他：TY-0048 (N-アセチルシスチン製剤) の喀痰咯出困難に対する臨床効果の検討—シスチン塩酸塩錠およびプロセボを対照薬とした二重盲検試験—現代医療，第15巻，2284~2303頁，1983年.

長野 準，前川暢夫，川合 満，倉沢卓也，鈴木雄二郎，鈴木克洋，内藤祐子，他：膜型酸素濃縮器 (Mo-40) の臨床試験，薬理と治療，第11巻，5019~5039pp, 1983年.

西本幸男，川合 満，他：慢性閉塞性肺疾患に対する Procaterol (メプチン) の長期連用による臨床効果につ

いて、現代医療、第15巻、2306～2328頁、1983年.

望月吉郎、藤本憲弘、田口善夫、網谷良一、種田和清、岩田猛郎、小橋陽一郎、市島国雄：Hughes-stovin 症候群の1症例、日本胸部臨床、第42巻、第10号、865～870 pp、1983年10月.

〔研究会講演会その他〕

1. 結核非定型抗酸菌症

久世文幸、千葉 渉、光岡明夫、前川暢夫：Mycobacterium nonchromogenicum complex による慢性肺感染症の1例、第15回非定型抗酸菌種研究協議会、1983年4月.

久世文幸：マウス感染モデルを用いた Mycobacterium intracellulare 症の治療実験、第6回臨床抗酸菌懇話会1983年4月.

前川暢夫、久世文幸、西山秀樹、李 啓充：マウス腹腔内マクロファージの諸種抗酸菌貪食に伴なうスーパーオキシド (O_2^-) の産生 日結研、1983年6月

前川暢夫、久世文幸、桜井信男：Spiropiperidyl rifamycin (LM 427) の M. avium-intracellulare に対する in vitro 並びに in vivo での効果、日結研、1983年12月.

2. 腫瘍

李 啓充：胸部悪性腫瘍における clonogenic Assay に関する研究、京大胸部研研究講演会、1984年1月.

李 啓充、前川暢夫、谷川允彦、日笠頼則：胸部悪性腫瘍の in vitro における制癌剤感受性 (clonogenic assay による検討) 第17回制癌剤適応研究会、1984年3月.

武藤 真、倉沢卓也、前川暢夫：気管支鏡で発見された同時多発と考えられる肺癌の一例、第20回近畿気管支鏡懇話会

坂本広子、西村千浪、片上信之、李 英徹、石原亮介、岩崎博信、梅田文一、中井 準：当院における肺癌症例の統計的考察—非手術例の予後について—第26回兵庫県肺癌懇話会、1983年6月.

片上信之、坂本広子、李 英徹、石原亮介、岩崎博信、梅田文一、中井 準：胸部X線上胸壁に接する腫瘍影に試みた Echo Guided Needle Aspiration Biopsy (EGNAB) の有用性と問題点、第27回兵庫県肺癌懇話会、1983年11月.

片上信之、中井 準：放射線肺炎でのステロイド療法、第1回阪神呼吸器患勉強会、1983年12月.

田中栄作、藤本憲弘、田口善夫、望月吉郎、網谷和清、岩田猛邦、他：種々の肺病変を呈した T cell lymphoma の1例、第22回びまん性肺疾患研究会、1983年9月.

3. 喘息・アレルギー

山田栄一：成人気管支喘息患者の気道過敏性試験の検討 (Oscillation 法による)、神戸喘息研究会、1983年11月.

川合 満：気管支喘息治療の最近の進歩、京都府病院薬剤師会、1983年1月.

川合 満：気管支喘息の治療、高知県胸部疾患研究会、1983年1月.

川合 満：気管支喘息の診断と治療、長崎市内科医会、1983年1月.

川合 満：最近の気管支喘息の診断と治療—興味ある胸部疾患症例の呈示—宮崎内村医会、1983年1月.

川合 満：気管支喘息の治療—特にステロイド療法の問題点—右京医師会、1983年1月.

川合 満：気管支喘息における漢方薬の意義、ツムラ漢方特別研究会、1983年3月.

川合 満：気管支喘息の治療の進歩、札幌社会保険審査委員会学術講演会、1983年3月.

川合 満：気管支喘息の診断と治療、伊勢市度会郡志摩医師会、1983年4月.

川合 満：気管支喘息に対する Ketotifen の使用経験、サジテン研究講演会、1983年5月.

川合 満：薬物とアレルギー、④アレルギー疾患の増悪因子としての薬物 (気管喘息) 日本アレルギー協会関東支部第27回臨床アレルギー講習会、1983年6月.

- 川合 満：気管支喘息の最近の知見，徳山医師会，1983年6月。
- 川合 満：気管支喘息の診断と薬物療法，寝屋川医師会，1983年6月。
- 川合 満：気管支喘息の治療—最近の進歩—与謝丹後医師会，1983年7月。
- 川合 満：気管支喘息の最近の知見，山口市医師会，1983年7月。
- 川合 満：気管支喘息に関する最近の知見—治療法を中心として—高梁市医師会，1983年8月。
- 川合 満：気管支喘息の診断と治療，堺地区重松学術講演会，1983年9月。
- 川合 満：気管支喘息の治療，大阪地区重松学術講演会，1983年9月。
- 川合 満：気管支喘息の重症度とそれに対応した治療，滋賀県保険医協会第71回保険医療向上研究会，1983年9月。
- 川合 満：気管支喘息の治療における留意点，舞鶴医師会，1983年10月。
- 川合 満：気管支喘息治療における留意点，伏見医師会，1983年10月。
- 川合 満：気管支喘息に関する最近の知見，三次地区医師会，1983年10月。
- 川合 満：気管支喘息の治療—最近の進歩—長浜赤十字病院，1983年10月。
- 川合 満：気管支喘息の初診の技術と病型に応じた治療について，岩国医師会，1983年11月。
- 川合 満：気管支喘息の治療における去痰，第2回気道分泌研究会，1983年11月。
- 川合 満：気管支喘息の診断と病型重症度に応じた治療，大和高田北葛城地区医師会，1983年12月。

4. 感染症の化学療法

- 中西通泰：呼吸器感染症に対する Cefmenoxime の臨床的検討，Cefmenoxime 研究講演会，1983年3月。
- 中西通泰：最近の呼吸器感染症の抗生剤の使い方，第2回化学療法懇話会，1983年8月。

5. そ の 他

- 李 啓充：慢性関節リウマチに伴なった細気管支炎の3症例，京都呼吸器シンポジウム，1983年10月。
- 中西通泰：進行性の気管支拡張症について，同上，1983年10月。
- 小笹晃太郎，倉沢卓也，前川暢夫，光岡明夫，樋口佳代子，竹田俊男，松原恒雄：滲出性病変を主とし，ステロイド剤が著効を示したびまん性肺疾患の一例，第24回びまん性肺疾患研究会，1984年2月。
- 梅田文一，片上信之，坂本広子，李 英徹，石原亮介，岩崎博信，中井 準：血痰にはじまり急性呼吸不全に陥り肺びまん性陰影が急速に進行した肝硬変症の1例，第20回びまん性肺疾患研究会，1983年2月。
- 矢部博樹，片山信之，坂本広子，李 英徹，石原亮介，岩崎博信，梅田文一，中井 準：好酸球増多を伴ない，びまん性陰影を呈した1例，第21回びまん性肺疾患研究会，1983年6月。
- 西村千浪，石井昌生，石原亮介，梅田文一，中井 準：冬期に発症したびまん性陰影の1例，第22回びまん性肺疾患研究会，1983年9月。
- 坂本広子，片上信之，李 英徹，石原亮介，岩崎博信，梅田文一，中井 準，藺 潤，庄村東洋：巨大な縦隔腫瘍を形成したサルコイドーシスの1例，第3回サルコイドーシス研究会総会，1983年11月。
- 望月吉郎，藤本憲弘，田口善夫，網谷良一，種田和清，岩田猛邦：誤嚥が起因したと思われる肉芽腫を伴った肺炎の1例 肉芽腫性肺疾患研究班々会議，1983年1月。
- 種田和清，藤本憲弘，田口善夫，望月吉郎，網谷良一，岩田猛邦，他：発熱，呼吸困難で発症し，経過中に好酸球増多を来したびまん性陰影の1例，第20回びまん性肺疾患研究会，1983年2月。
- 田口善夫，伊賀幹二，望月吉郎，網谷良一，種田和清，岩田猛邦，他：著明な両下肺野の縮みを来しながら予後良好であった1例，第21回びまん性肺疾患研究会，1983年6月。
- 望月吉郎，田中栄作，藤本憲弘，田口善夫，網谷良一，種田和清，岩田猛邦：Pick wickian syndrome の一例，大阪内科懇話会，1983年9月。
- 田中栄作，南部静洋，藤本憲弘，田口善夫，望月吉郎，網谷良一，種田和清，岩田猛邦：多臓器障害を呈したサルコイドーシスの一例，第3回サルコイドーシス研究会総会，1983年11月。
- 田口善夫，田中栄作，藤本憲弘，望月吉郎，網谷良一，種田和清，岩田猛邦：臨床上アレルギー性肉芽腫，血

管炎と考えられた結筋性動脈周囲炎の一例, 肺線維症研究会, 1983年11月.

岩田猛邦: 慢性気管支炎とびまん性汎細気管支炎, 第3回京都呼吸器シンポジウム, 1983年10月.

種田和清, 田口善夫, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 岩田猛邦, 両肺の著しい縮小を来したびまん性肺陰影の一例, 第23回, びまん性肺疾患研究会, 1983年12月.

内 科 学 第 二 部 門

〔著書, 分担執筆〕

大島駿作, 佐川弥之助, 寺松 孝, 前川暢夫編: 臨床呼吸器病学. 第2版, 金芳堂, 1983.

I 編 肺の解剖と病態生理. 2章 呼吸器系における防衛機構, p. 13~16 (大島). II 編 症候と診断. 2章 胸部X線診断, §2 コンピューター断層撮影, p. 70~71 (大島). 7章 血液検査, 化学検査および免疫学的検査. 1. 血液検査, 2. 血液の化学検査, p. 103~605 (大島) 3. 免疫学的検査, p. 105~108 (泉). III 編 治療. 1章 対症療法, p. 119~120 (大島). IV 編 各論. 5章 肺線維症およびびまん性間質性肺炎. p. 239~244 (泉). 6章 免疫学的疾患, p. 245~246 (大島), 1. 気管支喘息, p. 246~250 (木野稔也), 2. サルコイドーシス, 3. 過敏性肺臓炎, 外因性アレルギー性肺炎, 4. 慢性ペリリウム肺, 5. グッドパスチャー症候群, 6. ウエゲナー肉芽腫症, 7. PIE 症候群, 8. 膠原病の肺病変, p. 251~268 (泉). 7章 産業性肺疾患, p. 269~278 (泉). 9章 その他の気管支, 肺疾患, p. 307~316 (木野). 11章 薬剤による肺疾患, p. 325~328 (泉).

大島駿作: 間質性肺炎, 肺線維症, 滝島 任編, Essential Lecture 呼吸器, p. 33~40, メジカルビュー社, 1983.

泉 孝英, 木野稔也, 門 政男, 北市正則編著: MIL「呼吸器診断」. 金芳堂, 1983.

1. かぜ症候群, p. 6~7 (木野), 2. ウィルス性肺炎, 3. マイコプラズマ肺炎, 4. 細菌性肺炎, 5. 肺真菌症, 6. 肺結核, p. 8~36 (木野, 北市), 7. 膿胸, p. 37~38 (門), 9. 肺寄生虫症, p. 45~47 (本田和徳, 木野, 北市), 10. 肺化膿症, 11. 肺胞微石症, p. 48~51 (木野), 12. 慢性気管支炎, p. 52 (泉), 13. 気管支喘息, p. 53~63 (木野), 14. 気管支拡張症, 15. 気管支性嚢胞, 16. 無気肺, p. 64~72 (木野, 北市), 17. 中葉症候群, 18. 過換気症候群, p. 73~75 (木野), 19. PIE, 20. 成人呼吸促迫症候群, p. 76~84 (木野, 北市), 21. Pickwickian 症候群, p. 85 (木野), 22. 慢性閉塞性肺疾患, p. 86~88 (泉), 23. 肺癌, 24. 良性腫瘍およびその他の肺腫瘍, 25. 転移性肺腫瘍, 26. 胸膜炎, p. 89~127 (門, 北市), 27. 自然気胸, p. 128 (門), 28. 胸膜中皮腫, p. 129~130 (松井祐佐公, 北市), 29. 縦隔気腫, p. 131 (門), 30. 縦隔腫瘍, p. 132~137 (門, 北市), 31. 横隔膜ヘルニア, 32. 横隔膜麻痺, p. 138~141 (門), 33. 薬剤による肺・胸膜疾患, p. 142~144 (松井, 木野, 泉, 北市), 34. じん肺症, 35. 慢性ペリリウム肺, 36. 放射線肺臓炎, p. 145~153 (松井, 北市), 37. 窒素酸化物による肺障害, p. 154 (松井), 38. 酸素中毒, p. 155 (松井, 北市), 39. 肺塞栓症, p. 156~157 (松井), 40. 肺水腫, 肺うっ血, p. 158 (松井), 41. 肺高血圧症, p. 159~160 (松井, 北市), 42. 肺動静脈瘻, p. 161~163 (松井), 43. 肺性心, p. 164~167 (松井, 北市), 44. Wegener 肉芽腫症, p. 168~170 (松井, 北市), 45. 特発性間質性肺炎, 46. 過敏性肺臓炎, 48. 肺気腫, 49. びまん性汎細気管支炎, 50. 気腫性肺嚢胞, 51. 肺硝子膜症, 52. サルコイドーシス, 53. 膠原病と肺病変, p. 171~212 (泉, 北市), 54. Goodpasture 症候群, p. 213~214 (荻原順一, 北市), 55. 肺組織球症 (肺histiocytosis X), 56. 悪性リンパ腫, 57. アミロイドーシス, p. 215~221 (泉, 北市)

泉 孝英編著: ツベルクリン反応—その新しい考え方—. 中外医学社, 1984.

I. ツベルクリン抗原とツベルクリン反応. A. ツベルクリン反応の歴史, p. 1~7 (泉), C. ツベルクリン生物活性, p. 19~21 (荻原), D. in vitro のツベルクリン反応, p. 22~34 (木野, 松井).
II. 結核感染, 結核症におけるツベルクリン反応, A. 結核感染とツベルクリン反応の陽転化現象, B. 結核症とツベルクリン反応, p. 56~59 (泉). III. 鑑別診断の資料としてのツベルクリン反応, p. 75~78 (泉).
IV. 細胞性免疫機能不全症状としてのツベルクリンアレルギー, B. ツベルクリン反応陰性化をきたす要因と

陰性化の機序, 1. 加齢, p. 87~88 (泉), 3. 放射線, p. 101~102 (泉), 4. 薬物, p. 102~106 (荏原), 5. 低栄養, p. 107~111 (泉), C. ツベルクリン反応陰性化をきたす疾患と陰性化の機序, 2. サルコイドーシス, p. 122~136 (長井苑子)

泉 孝英: 過敏性肺臓炎. 今日の治療指針1983年. p. 270~271, 医学書院, 1983.

泉 孝英: びまん性散布性肺疾患の鑑別診断. 内科 Mook 22 三上理一郎編, 間質性肺疾患とその周辺 p. 328~340, 金原出版, 1983.

泉 孝英: 膠原病に伴う肺病変, サルコイドーシス, 上田英雄, 武内重五郎編, 内科学, 第3版, p. 410~415, 朝倉書店, 1984.

泉 孝英: サルコイドーシス, 阿部正和, 日野原重明, 本間日臣, 岡部治弥, 岡崎義昭, 高久史磨編, 新臨床内科学第4版, p. 94~96, 医学書院, 1984.

木野稔也: 10, 過敏症 (アレルギー), p. 96~109. 桂 義元, 桜美武彦編 (医学要点双書) 免疫学, 金芳堂, 1983.

木野稔也: 昆虫アレルギー, 今日の治療指針1983年. p. 520~521, 医学書院, 1983.

平田健雄: 特発性間質性肺炎, 免疫学. 三上理一郎編, 内科 Mook 22, 間質性肺疾患とその周辺, p. 66~72, 金原出版, 1983.

平田健雄: 5, 抗原抗体反応, p. 27~40, 桂 義元, 桜美武彦編 (医学要点双書) 免疫学, 金芳堂, 1983.

〔総 説〕

大島駿作, 木野稔也: 免疫療法の現況と展望. 呼吸器疾患. 免疫と疾患, 5 (3): 347~350, 1983.

大島駿作: びまん性肺疾患における肺胞マクロファージ. 日本胸部臨床, 43(2): 85~92, 1984.

泉 孝英: サルコイドーシス—10年の進歩—. *Medicina* 20 (8): 1366~1381, 1983.

泉 孝英: 過敏性肺臓炎—病因—. アレルギーの臨床. (26): 21~25, 1983.

泉 孝英: 肺と免疫—サルコイドーシスを中心に. 呼吸と循環, 31(10): 106~1056, 1983.

泉 孝英, 藤村直樹, 平田健雄, 長井苑子, 田村 久, 荒谷信一: 肺疾患における気管支肺胞洗浄 (BAL) の診断学的意義. クリニカ, 10(11): 801~805, 1983.

泉 孝英, 北市正則: 頸部リンパ節結核. 耳鼻咽喉科, 55(10): 873~879, 1983.

泉 孝英, 福田康二: 肺炎の発症と免疫学的背景——Opportunistic infection を中心に——. 日本臨牀, 41 (3): 511~518, 1983.

泉 孝英: ツベルクリン反応の臨床的意義. 日本胸部臨牀, 42(12): 991~996, 1983.

泉 孝英: 肉芽腫性肺疾患. 呼吸, 3 (1): 2~14, 1984.

泉 孝英: 最近注目されている疾患, サルコイドーシス. 診断. 現代医療, 16(1): 278~285, 1984.

木野稔也: PIE 症候群およびアレルギー性気管支肺アスペルギルス症. 臨床成人病, 13(10): 1991~1998, 1983.

谷本普一, 泉 孝英, 本間日臣: びまん性汎細気管支炎診断の現況. 臨床成人病, 13(10): 2029~2034, 1983.

岡本祐之, 泉 孝英, 他: 皮膚病変を伴うサルコイドーシスの血清 angiotensin-converting enzyme 値. 日皮会誌, 93(11): 1173~1176, 1983.

〔原 著〕

Izumi T, Fujimura N, Oshima S: T-lymphocyte alveolitis and B-lymphocyte alveolitis: A new classification of interstitial pneumonitis based on bronchoalveolar lavage findings. *Asian Pacific J Allergy Immunol*, 1(2): 131~134, 1983.

泉 孝英, 藤村直樹, 荏原順一, 佐々木義行: T lymphocyte alveolitis, B lymphocyte alveolitis における肺胞マクロファージ. 呼吸, 3 (1): 110~117, 1984.

泉 孝英, 長井苑子, 藤村直樹, 平田健雄: びまん性間質性肺炎における BAL リンパ球の動態—T lymphocyte alveolitis と B lymphocyte alveolitis—. 日本胸部臨床, 48(2): 103~110, 1984.

門 政男, 泉 孝英, 大島駿作, 橋本圭司: 呼吸器の感染防御機構に関する研究, 第4篇, マウス気管支洗浄液中液中液性成分および抗体産生における喫煙の影響に関する研究. 京大胸部研紀要, 16(1, 2): 21~26, 1983.

Hirata T: SpA-induced immunoglobulin production in human peripheral lymphocytes. I. Condition of SpA-induced immunoglobulin production. Bull Chest Dis Res Inst Kyoto Univ. 16 (1, 2): 10~20, 1983.

藤村直樹: びまん性肺疾患における気管支肺胞洗滌液細胞成分に関する検討. 京大胸部研紀要, 16(1, 2): 35~48, 1983.

長井苑子: BAL リンパ球の OKT4⁺, OKT8⁺ cell subset からみた特発性間質性肺炎と膠原病性間質性肺炎の鑑別. 呼吸 2 (3): 396~401, 1983.

池田貞雄, 小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中睦郎, 松原義人, 船津武志, 塩貝国男, 鈴木捷之, 長谷川徹, 木野稔也, 泉 孝英: 肺クリプトコッカス症の診断—血清中クリプトコッカス抗原を指標として—. 日本胸部臨床, 42(2): 172~179, 1983.

岡本祐之, 堀尾 武, 今村貞夫, 泉 孝英: 皮膚病変を伴うサルコイドーシスの血清 angiotensin converting enzyme 値. 日皮会誌, 93(11): 1173~1176, 1983.

Homma H, Yamanaka A, Tanimoto S, Tamura M, Chijimatsu Y, Kira S, Izumi T.: Diffuse panbronchiolitis. A disease of the transitional zone of the lung. Chest 83 (1): 63~69, 1983.

〔症 例 報 告〕

木野稔也, 山田安民, 本田和徳, 藤村直樹, 松井祐佐公, 泉 孝英, 大島駿作, 上坂一郎, 前田清子, 黒住真史: Mucor 類似の真菌によるアレルギー性気管支肺真菌症の1例とその診断および治療. 日胸疾会誌, 21(9): 896~903, 1983.

荻原順一, 北市正則, 大島駿作, 泉 孝英, 中屋敷博, 小原幸信: 全肺野の小結節陰影を呈し, 健康診断時に発見された intravascular bronchioloalveolar tumor (IVBAT) の一例. 日胸疾会誌, 21(1): 95~99, 1983.

長井苑子, 浦井正彦, 他: 脾性胸水を合併した慢性再発性脾炎の一例—脾性胸水の本邦52例の検討—. 日本消化器病学会雑誌, 80(10): 2269~2274, 1983.

岡本祐之, 泉 孝英: 皮下硬結を伴ったサルコイドーシスの4例. 臨床皮膚科, 37(5): 421~423, 1983.

佐野 求, 木野稔也, 他: 少女にみられた過敏性肺臓炎の1症例. 呼吸, 2 (1): 117~122, 1983.

岡田敏夫, 木野稔也, 他: Parkinson 症候群と基底核石灰化を呈した肺胞微石症の1例. 神経内科, 17(5): 480~486, 1982.

〔学会記録, 報告書, 会議録〕

大島駿作: マクロファージと肺疾患. 日胸疾会誌, 21(10): 935~937, 1983.

Oshima S, Chihara J, Honda, K, Izumi, T: Brain metastasis from lung cancer ascertained by computerized tomography (CT scans). Proc. 7th Asia Pacific Cong. Dis. Chest ed. Nandi, P. L., Lam. W. K. p. 281~282, 1983.

Izumi, T, Chihara, J, Fujimura, N, Hirata, T, Nagai, S, Oshima, S: Diagnostic value of measurement of cell population by bronchoalveolar lavage (BAL) in sarcoidosis. Proc. 7th Asia Pacific Cong. Dis. Chest et. by Nandi, P. L., Lam. W. K. p. 396~397, 1983.

泉 孝英: Immunological information. 呼吸と循環, 58(10): 471~481, 1983.

泉 孝英, 露口泉夫, 倉沢卓也, 鈴山洋司, 長井苑子, 高田勝利, 曾根三郎: ツベルクリン反応の臨床的意義. 結核, 58(10): 543~562, 1983.

泉 孝英: 気管支肺胞洗浄. 気管支学, 5 (4): 343~350, 1983.

泉 孝英: ツベルクリン反応の臨床的意義. 日本医師会雑誌, 90 (10): 2400~2403, 1983.

泉 孝英, 土井 修, 野辺地篤郎, 本間行彦, 木野稔也, 中田拡一郎, 稲富恵子, 本間日臣: びまん性細気管支炎全国症例調査報告. 厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班昭和57年度研究報告書, p. 3~41.

泉 孝英, 本田和徳: びまん性汎気管支炎の CT 像. 厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班昭和57年度研究

報告書, p. 170~174.

泉 孝英, 本田和徳: びまん性肺病変における胸部 CT 診断. 厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班昭和57年度研究報告書, p. 175~179.

泉 孝英, 長井苑子: OKT4⁺, OKT8⁺ cell からみた特発性間質性肺炎と膠原病性間質性肺炎の鑑別. 厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班昭和57年度研究報告書, p. 215~217.

泉 孝英: サルコイドーシス自然寛解例113例の臨床経過. サルコイドーシス研究会誌, 2: 97~99, 1982.

北市正則, 黒住真史: サルコイドーシスにおける肺胞マクロファージの形態像. サルコイドーシスの研究会誌, 2: 44~46, 1982.

藤村直樹: サルコイドーシスにおける BAL 中リンパ球増加の臨床的意義. サルコイドーシス研究会誌, 2: 34~36, 1982.

荏原順一, 泉 孝英, 大島駿作: 肺疾患におけるヒト肺胞マクロファージの活性化状態に関する研究. 昭和57年度日米医学協力計画報告書. p. 363~367, 1983年3月.

荏原順一, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作: 肺胞マクロファージに及ぼす喫煙の影響に関する研究. 昭和57年度喫煙と健康に関する委託研究報告概要, p. 297~302, 1983年4月.

荏原順一, 藤村直樹, 北市正則, 大島駿作, 泉 孝英: 骨病変を伴い BAL 所見にて Eosinophilic granuloma と鑑別困難であった DIP の一例. 第25回肺線維症研究会討議録, p. 21~28.

荏原順一: サルコイドーシスにおける BAL マクロファージの意義. サルコイドーシス研究会雑誌, 2: 31~33, 1983.

Chihara, J., Izumi, T., Nagai, S., Fujimura, N., Oshima, S.: Activity of alveolar macrophage in T lymphocyte alveolitis and B lymphocyte alveolitis. Jap. J. Med. 22 (4): 283, 1983.

長井苑子, 平田健雄, 泉 孝英: サルコイドーシスにおける BAL cell 中の OKT4⁺ cell, OKT8⁺ cell の臨床的意義. サルコイドーシス研究会誌, 2: 21~24, 1982.

竹内 実, 泉 孝英: サルコイドーシス末梢血リンパ球の *Propionibacterium* に対する反応性. サルコイドーシス研究会誌, 2: 47~48, 1982.

沢野哲重, 長井苑子, 平田健雄: サルコイドーシスにおける末梢血 T γ cell 増加の意義. サルコイドーシス研究会誌, 2: 49~51, 1982.

藤堂義郎, 泉 孝英: サルコイドーシスにおける胸部 CT 所見. サルコイドーシス研究会誌, 2: 116~117, 1982.

岡本祐之, 堀尾 武, 今村卓夫, 泉 孝英, サルコイドーシスにおける皮膚所見と胸部X線所見. サルコイドーシス研究会誌, 2: 198~199, 1982.

[学会, 研究会発表]

大島駿作: シンポジウム「高齢者肺炎の治療」3, 免疫, 第17回日本成人学会総会 (59. 1. 14)

大島駿作: 特別講演「マクロファージと肺疾患」, 第23回日本胸部疾患学会総会 (59. 4. 14)

大島駿作: 教育講演「京大胸部研病院における肺癌診療の現況」第18回日本胸部疾患学会九州地方会 (59. 11. 18)

Oshima, S.: T and B lymphocyte alveolitis: A proposed new classification of interstitial pneumonia based on activated lymphocytes in bronchoalveolar fluid. Microbiology and Immunology Research Seminar. Bowman Gray School of Medicine (1983, 8. 8)

泉 孝英: 特別講演「アレルギー性肺疾患」. 第10回免疫カンファレンス (58. 2. 5)

泉 孝英: シンポジウム「肺胞マクロファージの問題点をめぐって」5. 免疫の立場から. 第21回 FLD シンポジウム (58. 2. 26)

泉 孝英: わが国におけるびまん性細気管支炎—厚生省間質性肺疾患調査研究班全国症例調査報告. I. 調査概況・臨床所見, 7. 調査成績の総括と今後の課題. 第23回日本胸部疾患学会第58回日本結核病学会合同集会 (58. 4. 13)

泉 孝英：シンポジウム「Applied Bronchoscopy の現状と将来への展望」1. 気管支肺胞洗滌—特に診断学的、病理生態学的意義について—。第6回日本気管支学会総会（58.7.2）

Takateru Izumi: Educational seminar “Sarcoidosis in Asia.” 8th Asia Pacific Congress on Diseases of the Chest (1983. 7. 14)

泉 孝英：特別講演「T lymphocyte alveolitis—サルコイドーシス，慢性ペリリウム肺，過敏性肺臓炎—，第16回チェストカンファレンス総会（58.7.23.新潟）

Izumi, T., Honma, H., Oshima, S., Watanabe, S., Itoh, F., Kimura, I. Kira, S., Konno, K., Maekawa, N., Nagahama F., Nagano, H., Nishimura, M, Takizawa, T., Tsubura, E., Yoshida, S., Ogawa, N: Randomized clinical trial of SPG in inoperable primary lung cancer. 13th International Congress of Chemotherapy (1983, 8. 31 Wien)

泉 孝英：サルコイドーシス患者末梢血の PHA, ConA 反応性—FBT 法と RI 法の比較—。第3回サルコイドーシス研究会総会（58.11.5）

泉 孝英：サルコイドーシス健康診断発見群の予後—ステロイド剤投与群と非投与群の比較—。第3回サルコイドーシス研究会総会（58.11.5）

泉 孝英：特別講演「びまん性間質性肺炎の病態と治療」第62回日本結核病学会第44回日本胸部疾患学会東海地方学会（58.11.7）

泉 孝英：パネルディスカッション「アレルギー体質とは何か」5. 組織の反応。第33回日本体質学会総会（58.12.4）

木野稔也：わが国におけるびまん性細気管支炎—厚生省間質性肺疾患調査研究班全国症例調査報告—。臨床検査所見，病態生理，第23回日本胸部疾患学会第58回日本結核病学会合同集会（58.4.13）

木野稔也：呼吸器疾患の抗原物質，昆虫。第11回過敏性肺炎研究会（58.6.11）

木野稔也，西村浩一，福田康二，荏原順一，藤村直樹，松井祐佐公，泉 孝英，大島駿作：PIE 症候群における真菌に対する沈降抗体の検出頻度とその意義。第33回日本アレルギー学会総会（58.10.9）

門 政男，藤村直樹，平田健雄，荏原順一，長井苑子，泉 孝英，大島駿作：びまん性間質性肺疾患の気管支洗浄液中液性成分に関する研究。第6回日本気管支学会総会（58.7.2）

門 政男，佐々木義行，北市正則，泉 孝英，大島駿作，加藤弘文，鈴木康弘，竹田俊男，弓削征士：検診にて発見された肺の Pleomorphic Adenoma の1例。第39回日本肺癌学会関西支部会（58.7.23）

門 政男，木野稔也，大島駿作，田村康一，小林 淳，寺松 孝，大山口渥，吉沢泰介：組織侵入型アスペルギルス 2 膿胸の一治療症例。第22回日本胸部疾患学会近畿地方会（58.11.26）

門 政男，北市正則，松井祐佐公，木野稔也，泉 孝英，大島駿作：化学療法と放射線療法で2年7ヶ月生存中の小細胞癌の1症例。第40回日本肺癌学会関西支部会（59.2.4）

松井祐佐公，吉沢泰介，木野稔也，泉 孝英，大島駿作：Intra-sinusoidal hepatic metastasis で乳酸アシドーシスを伴った肺小細胞癌の1例。第21回日本胸部疾患学会近畿地方会（58.6.25）

松井祐佐公，門 政男，泉 孝英：肺癌患者における低アルブミン血症とツベルクリン反応陰性化現象。第24回日本肺癌学会総会（58.10.15）

松井祐佐公，木野稔也，泉 孝英，大島駿作：マウスの IgG 抗体生と IgE 抗体症生におけるシリカおよびマンガンのアジュバント作用の比較。第33回日本アレルギー学会総会（58.10.8）

松井祐佐公，木野稔也，泉 孝英，大島駿作：COMP-VAN 療法が奏効した肺小細胞癌の1例。第40回日本肺癌学会関西支部会（59.2.4）

北市正則，泉 孝英，浅本 仁，古田睦広：各種肺疾患における肺胞マクロファージの透過型電顕所見。第72回日本病理学会総会（58.4.5）

北市正則，泉 孝英，荏原順一，長井苑子，藤村直樹，平田健雄，大島駿作，黒住真史，浅本 仁，古田睦広：各種肺疾患における肺胞マクロファージの透過型電顕所見に関する検討。第23回日本胸部疾患学会総会（58.4.14）

北市正則：会長推薦講演「びまん性間質性肺炎における肺癌の合併—剖検症例における検討—」。第24回日本肺

癌会総会 (58. 10. 14)

北市正則：肺の既存構造からみたサルコイドーシス，慢性ベリリウム肺，過敏性肺臓炎の肺病変の検討．第3回サルコイドーシス研究会総会 (58. 11. 5)

藤村直樹，長井苑子，北市正則，木野稔也，泉 孝英：ポリウレタン樹脂塗装工にみられた過敏性肺炎の1例．第11回過敏性肺炎研究会 (58. 6. 11)

藤村直樹，長井苑子，北市正則，木野稔也，泉 孝英，小川捨雄，佐藤邦彦：咳と呼吸困難で発症し，びまん性肺野陰影を呈した塗装工の1例．第21回びまん性肺疾患研究会 (58. 6. 18)

Fujimura, N., Oshima, S., Izumi, T.: T lymphocyte alveolitis and B lymphocyte alveolitis: A proposed new classification of interstitial pneumonia based on activated lymphocytes in bronchoalveolar lavage fluid (BALF). VIII Asia-Pacific Congress on Diseases of the Chest (1983, 7. 13)

藤村直樹，木野稔也，長井苑子，北市正則，泉 孝英，小川捨雄，佐藤邦彦：塗装工にみられたポリウレタンによる過敏性肺臓炎の1例．第23回近畿産業衛生学会 (58. 11. 12)

佐々木義行，平田健雄，泉 孝英：肺胞マクロファージの抗原提示能に関する検討．第23回日本胸部疾患学会総会 (58. 4. 14)

佐々木義行，門 政男，泉 孝英，大島駿作，滝 俊彦：内視鏡的レーザー照射により軽快所見の得られた気管支腺様癌の1例，第39回日本肺癌学会関西支部会 (58. 7. 23)

荏原順一，泉 孝英，長井苑子，藤村直樹，北市正則，門 政男，木野稔也，大島駿作：T cell 型間質性肺炎，B cell 型間質性肺炎における肺胞マクロファージの活性化状態に関する検討．第80回日本内科学会講演会 (58. 4. 6)

荏原順一，泉 孝英，長井苑子，藤村直樹，北市正則，平田健雄，大島駿作，黒住真史：各種肺疾患におけるヒト肺胞マクロファージの活性化状態—IgG-FC reception 活性，NBT 還元能，Spreading—に関する検討．第23回日本胸部疾患学会総会 (58. 4. 15)

Chihara, J., Nagai, S., Fujimura, N., Hirata, T., Izumi, T.: BAL lymphocyte findings in chronic beryllium disease. American Thoracic Society 78th Annual Meeting, Kansas City (1983. 5. 9)

荏原順一，竹内 実，藤村直樹，平田健雄，大島駿作，泉 孝英：BAL リンパ球を用いた in vitro lymphocyte beryllium transformation test による慢性ベリリウム肺症の診断について．第10回日本臨床免疫学会総会 (57. 6. 18)

Chihara, J., Izumi, T., Oshima, S.: Activity of alveolar macrophage in various pulmonary diseases. 18th Joint Meeting Tuberculosis Panel, U. S.-Japan Cooperative Medical Science Program. (1983. 8. 8)

荏原順一：サルコイドーシスにおける肺胞マクロファージの意義，第2報 代謝エネルギー依存性について．第3回サルコイドーシス研究会総会 (58. 11. 5)

荏原順一，西村浩一，門 政男，木野稔也，泉 孝英，大島駿作：BAL 液および血清中に ECF の検出された薬剤性と思われる PIE の一例．第22回日本胸部疾患学会近畿地方会 (58. 11. 26)

長井苑子，泉 孝英：PPD-induced hot rosette cell に関する基礎的研究．第50回実験結核研究会総会 (58. 4. 10)

長井苑子：シンポジウム「ツベルクリン反応の臨床的意義」4．サルコイドーシスにおける類上皮細胞肉芽腫病変形成とツベルクリン反応陰性化現象．第58回日本結核病学会総会 (58. 4. 12)

長井苑子，平田健雄，藤村直樹，泉 孝英，黒住真史：びまん性間質性肺炎の BAL リンパ球の T cell subset に関する検討—OKT4⁺, OKT8⁺ cell からみた特発性間質性肺炎と膠原病性間質性肺炎の鑑別．第23回日本胸部疾患学会総会 (58. 4. 14)

長井苑子，泉 孝英：BAL リンパ球の T cell subset (OKT4⁺, OKT8⁺) からみた膠原病性間質性肺炎．第27回日本リウマチ学会総会 (58. 6. 1)

Nagai, S., Fujimura, N., Hirata T., Izumi, T.: Differentiation of idiopathic pulmonary fibrosis and interstitial pneumonia with collagen vascular disease by OKT4(+) and OKT8(+) cells in BAL. American Thoracic Society 78th Annual Meeting, Kansas City (1983. 5. 9)

長井苑子, 泉 孝英, 沢野哲重: PPD-induced hot rosette cell に関する基礎的研究. 第11回日本臨床免疫学会総会 (58. 6. 17)

長井苑子, 藤村直樹, 平田健雄, 泉 孝英: BAL リンパ球 T cell subset (OKT4⁺, OKT8⁺) からみた特発性間質性肺炎と膠原病性間質性肺炎の鑑別. 第11回日本臨床免疫学会総会 (58. 6. 17)

長井苑子, 泉 孝英, 吉沢泰介, 藤村直樹, 北市正則, 木野稔也, 大島駿作: Methylprednisolone を用いたパルス療法が奏効した急性ループス間質性肺炎の一例. 第111回日本内科学会近畿地方会 (58. 9. 17)

長井苑子, 平田健雄, 田村 久, 泉 孝英: BAL・OKT8⁺ cell 増加を来す肺疾患と増加の意義について, 第33回日本アレルギー学会総会 (58. 10. 10)

長井苑子, 泉 孝英: サルコイドーシスにおける BAL リンパ球所見と臨床経過. 第3回サルコイドーシス研究会総会 (58. 11. 5)

長井苑子, 北市正則, 木野稔也, 大野駿作, 泉 孝英: パルス療法が奏効したループス肺炎の急性増悪例. 第29回肺線維症研究会 (58. 11. 11)

福田康二, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 気管支造影剤 (水性ディオノジュール) の使用により PIE 症候群を呈した肺気腫の1例. 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会 (58. 11. 26)

福田康二, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: VP-16 単剤に反応した肺小細胞癌と腺癌の脳転移の2症例. 第39回日本肺癌学会関西支部会 (58. 7. 23)

西村浩一, 泉 孝英, 北市正則, 大島駿作: 開胸肺生検にて黄褐色顆粒の沈着とびまん性間質性肺炎がみられた Hermansky-Pudlak 症候群の1例. 第28回肺線維症研究会 (58. 5. 27)

西村浩一, 北市正則, 長井苑子, 松井祐佐公, 大島駿作, 泉 孝英, 竹内吉喜, 和田洋己, 金地研二, 大熊 稔, 山川良治: びまん性間質性肺炎を伴った Hermansky-Pudlak syndrome の一例. 第10回日本内科学会近畿地方会 (58. 6. 11)

西村浩一: びまん性汎細気管支炎のX線 CT 像—末梢病変と中枢病変の比較を中心として—. 第3回京都呼吸器疾患シンポジウム (58. 10. 29)

西村浩一, 泉 孝英, 北市正則, 大島駿作, 田中竜蔵, 藤堂義郎, 伊藤春海: DPB における中枢気道病変と末梢気道病変—X線 CT 像による検討. 第28回閉塞性肺疾患研究会 (59. 1. 29)

西村浩一, 福田康二, 佐々木義行, 荏原順一, 北市正則, 平田健雄, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 肺小細胞癌における初回 EAM 療法・教室例7例の検討. 第40回日本肺癌学会関西支部会 (59. 2. 4)

西村浩一, 松井祐佐公, 門 政男, 大島駿作: 肺小細胞癌例に対する初回 EAM 療法の検討. 第18回京大癌研究会 (59. 2. 24)

古江増裕, 松井祐佐公, 北市正則, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 光岡明夫, 竹田俊男: 中葉症候群を呈したカルチノイドの1症例. 第39回日本肺癌学会関西支部会 (58. 7. 23)

古江増裕: びまん性汎細気管支炎症例における気道過敏性に関する検討. 第3回京都呼吸器疾患シンポジウム (58. 10. 29)

池田貞雄, 木野稔也: 血中抗原による肺クリプトコッカス症の診断, 第23回日本胸部疾患学会総会 (58. 4. 14)

安場広高, 西村浩一, 長井苑子, 北市正則, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 桑原正喜, 池田貞雄, 高橋清二: 開胸肺手術の4年後に附側肺野に異常陰影の増悪がみられた1症例. 第24回びまん性肺疾患研究会 (59. 2. 25)

大山口渥, 大島駿作: モルモットのツベルクリン反応に対する放射線照射の影響. 第50回実験結核研究会総会 (58. 4. 10)

鏑田武志, 長井苑子, 藤村直樹, 平田健雄, 泉 孝英: びまん性間質性肺炎症例における気管支肺泡洗浄液中の細胞成分による末梢血T細胞の活生化. 第23回日本胸部疾患学会総会 (58. 4. 14)

山本正彦, 泉 孝英, 他: 肺サルコイドーシスの胸部X線所見とその後の経過の関連. 第23回日本胸部疾患学会総会 (58. 4. 15)

岩井和郎, 泉 孝英, 他: 病理所見からみた好酸球肉芽腫, ハンド・シューラー, クリスチャン病, レテラー・

ジーベ病の異同について. 第23回日本胸部疾患学総会 (58. 4. 15)

中沢次夫, 木野稔也, 他: 我国における PIE 症候群の現況 (第1報) アンケート調査による全国集計. 第23回日本胸部疾患学会総会 (58. 4. 15)

小笹晃太郎, 北市正則, 木野稔也, 他: Cladosporium に起因すると思われる夏型過敏性肺臓炎の兄弟発症例. 第110回日本内科学会近畿地方会 (58. 6. 11)

西庵吉彦, 鏑田武志, 藤村直樹, 他: アスペルギルスによると思われる典型的肺好酸球増多症の一例. 第111回日本内科学会近畿地方会 (58. 9. 17)

中井雅彦, 長井苑子, 北市正則, 木野稔也, 泉 孝英: 両側土中肺野に異常影を呈しステロイドが著効した急性間質性肺炎の一症例. 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会 (58. 11. 26)

〔そ の 他〕

大島駿作: マクロファージと肺疾患 (日本胸部疾患学会から). 日本短波放送 (58. 5. 10)

大島駿作: 老人の呼吸器感染——免疫を中心として——. 化学療法懇話会 (静岡) (58. 11. 5)

大島駿作: 寒さと肺炎, NHK テレビ (58. 12. 10)

泉 孝英, 西村浩一: 臨床講義, 今月のアプローチ: 肺疾患, びまん性汎細気管支炎. メディカルコンパニオン 3 (8): 904~908, 1983.

泉 孝英: 難病ハンドブック, びまん性汎細気管支炎. 臨床医, 9 (9): 1420~1422, 1983.

泉 孝英: Common Sense ツベルクリン反応の臨床的意義. 臨床のあゆみ, 3 (10): 22, 1983.

景 孝英, 古江増裕: 問題となるケースの治療のポイント, 50, サルコイドーシスのステロイド療法. medicina 20 (12): 2184~2185, 1983.

泉 孝英: 気管支肺胞洗浄, 肺機能セミナー勉強会 (58. 1. 29)

泉 孝英: 呼吸器病学の過去, 現在, 未来, 第25回京都呼吸器疾患懇話会 (58. 3. 10)

泉 孝英: 最近の抗生物質の診療について, 滋賀県医師会 (58. 3. 16)

泉 孝英: 慢性閉塞性肺疾患の診断と治療, 滋賀県内科医会春季学術講演会 (58. 5. 28)

泉 孝英: アレルギー性肺疾患. 第14回九州アレルギー講習会 (59. 2. 4)

泉 孝英: 肺と免疫—モノクロナール抗体を用いた BAL による肺疾患の診断. 第21回京阪神呼吸器疾患談話会 (59. 2. 18)

泉 孝英: 胸部疾患における細胞性免疫 気管支肺胞洗滌液についての臨床検査. 大塚アッセイ研究所社内講演会 (59. 3. 10)

泉 孝英: 気管支肺胞洗滌液所見によるサルコイドーシスの治療. 日本短波放送 (59. 3. 19)

泉 孝英: L.S.C. 347回メディカルセミナー, 肺気管支疾患. 気管支肺胞洗滌, 大阪 (59. 3. 24)

泉 孝英: 天地人「岩倉使節団とウィーン」. Medicina 21 (3): 540~541, 1984.

木野稔也: アレルギー性気管支肺真菌症, 第10回京滋臨床アレルギー談話会 (59. 3. 24)

松井裕佐公: 塵肺患者及びマウスの IgE 抗体産生におけるシリカ及びマンガンのアジュバント効果について, 昭和57年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会 (58. 1. 29)

門 政男: 肺ガンの話. 京都工場保健会産業衛生研究会, 第91回例会 (59. 1. 20)

荏原順一: アレルギー性肺疾患—マクロファージを中心にして—. 第8回京滋臨床アレルギー談話会 (58. 8. 27)

長井苑子: 天地人「3年目の本気, フェーブルの昆虫記」. medicina 20 (5): 839, 1983.

長井苑子: 天地人「含羞の虫」. medicina 20 (13): 2833, 1983.

長井苑子: サルコイドーシスの病態—BAL リンパ球所見から—. 昭和58年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会 (59. 1. 28)

草間昌三, 泉 孝英, 他: (本邦臨床統計集) びまん性汎細気管支炎. 日本臨床, 41 (春季臨時増刊): 393~400, 1983.

螺良英郎, 泉 孝英, 大島駿作, 他: 呼吸器疾患の感染合併に対する Broncasma Berna の臨床的検討. 臨牀

と研究, 60(6): 1944~2000, 1983.

螺良英郎, 池田茂人, 泉 孝英: 滝沢敬夫, 安岡 劭, 山本正彦: 座談会「BAL をめぐって」, 呼吸 2 (1): 11~22, 1983.

宮本昭正, 泉 孝英, 可部順三郎, 北村 論, 工藤宏一郎: 座談会「肺と免疫をめぐって」, 呼吸 2 (3): 311~325, 1983.

胸 部 外 科 学 部 門

〔学 会 発 表〕

〔シンポジウム・特別講演〕

清水慶彦: 胸部外科における再建手術: 胸壁の再建, 第10回日本胸部外科学会関西地方会学術セミナー, (58. 2)

伊藤元彦, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝: 転移性肺腫瘍外科治療の問題点, 第83回日本外科学会総会シンポジウム「転移性腫瘍の基礎と臨床」(58. 4)

外村聖一: 現在の呼吸器疾患の動向, 全国社会保険協会連合会医務局長会議, 特別講演, (58. 5)

清水慶彦: シンポジウム, 境界領域の手術と術後管理——頸胸部, 胸腹部にわたる手術——, 第133回近畿外科学会, (58. 5. 14)

畠中陸郎: 同上シンポジウム——その他の腫瘍, 第133回近畿外科学会, (58. 5. 14)

桑原正喜, 池 修, 中田 徹, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 縦隔腫瘍における手術手技上の問題点, 第26回日本胸部外科学会関西地方会, シネシンポジウム (58. 6)

桑原正喜: 人工気管による気道再建, 第6回日本気管支学会シンポジウム, (58. 7)

瀧 俊彦, 寺松 孝: シンポジウムⅡ (気管・気管支形成術の問題点) 気管軟化症の手術手段とその適応, 第6回日本気管支学会総会, (58. 7)

伊藤元彦: 胸部腫瘍における腫瘍マーカーとその免疫組織学, 第59回国際胸部医学会日本支部会, 特別講演, (58. 9)

寺松 孝: 肺癌の脳転移の予防と治療, 第24回日本肺癌学会総会, シンポジウム, 司会, (58. 10)

光岡明夫, 山下純宏: 肺原発巣と脳転移巣の両者の切除, 同上学会シンポジウム, (58. 10)

北野司久: 肺悪性腫瘍 Xeno-graft に対する制癌剤感受性テスト, 日本癌治療学会シンポジウム (9), (58. 10. 28)

寺松 孝: 呼吸器外科の将来, 第36回日本胸部外科学会総会, 会長講演, (58. 11)

伊藤元彦: 胸腺関連腫瘍——概念, 分類, 生物学的性状および臨床, 第36回日本胸部外科学会総会, 特別講演, (58. 11)

秋山文弥: シンポジウム「異型狭心症の外科」司会, 第36回日本胸部外科学会総会, (58. 11)

島本光臣, 篠崎 拓, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: シンポジウム「異型狭心症の外科」——異型狭心症の外科治療, 同上学会, (58. 11)

瀧 俊彦, 中村達雄, 住友伸一, 高嶋義光, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺小細胞癌治療における Adjuvant surgery の有用性, 第36回日本胸部外科学会総会, シンポジウムⅣ (肺小細胞癌の手術適応), (58. 11)

松延政一: 低肺機能患者の呼吸不全管理における体外循環型炭酸ガス除去装置の応用, 第36回日本胸部外科学会総会, シンポジウム, (58. 11)

Y. Shimizu: Biocompatible materials in surgery, The first International Kyoto Symposium on Biomedical Materials, (58. 11)

清水慶彦, 伊藤元彦, 田村康一, 寺松 孝, 中村達雄, 渡部 智, 水野 浩: 埋植用外科的人工医用材, 第45

回日本臨床外科医学会総会, 代表講演, (58.11)

伊藤元彦: 画像診断ティーチングカンファレンス, 肺, 司会, 第3回日本臨床画像研究会 (58.12)

玉田二郎: 画像診断ティーチングカンファレンス肺——肺小細胞癌, 第3回日本臨床画像研究会, (58.12)

光岡明夫, 高嶋義光, 住友伸一, 伊藤元彦, 寺松 孝, 藤堂義郎: 縦隔病変に対する気縦隔 CT, 第3回日本臨床画像医学研究会, シンポジウム, (58.12)

〔学 会 発 表〕

1. 腫 瘍

二宮和子, 小鯖 寛, 中村良雄, 池 修, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: SIADH 合併肺小細胞癌の3例, 第38回日本肺癌学会関西支部会, (58.2.5)

桑原正喜, 池 修, 小鯖 寛, 中田 徹, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における血清 TPA の臨床的意義, 同上学会, (58.2.5)

池 修, 小鯖 寛, 中田 徹, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 他4名: 肺癌患者における椎骨切除の検討, 同上学会, (58.2.5)

松井輝夫, 竹内吉喜, 八木一之, 藤尾 彰, 北野司久: 肺野異常陰影にて発見された甲状腺濾胞状腺腫の1例, 同上学会, (58.2.5)

八木一之, 松井輝夫, 藤尾 彰, 北野司久, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛郎, 小橋陽一郎: 術前肺癌が疑われた肺良性疾患の2切除例, 同上学会, (58.2.5)

高 欽澤, 橋本仁志, 大森英夫, 倉田昌彦, 室本 仁, 藤田正憲, 田中瑩子, 他2名: 後縦隔に発生した Castleman Lymphoma の1例, 同上学会 (58.2.4)

玉田二郎, 福田正悟, 横見瀬裕保, 李 勝弘: 重複癌としての肺癌に対し気管支形成術を施行した1例, 第90回岡山外科学会 (58.2.19)

乾 健二, カレド・レシャード: 汎血球減少症を併発した悪性胸腺腫の1例, 静岡県外科医会第125回集談会 (58.3.19)

桑原正喜, 池 修, 小鯖 寛, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺野腫瘤陰影に対する CT の検討——パターン分類と造影指数の応用——, 第23回日本胸部疾患学会総会, (58.4)

瀧 俊彦, 高嶋義光, 三宅正幸, 青木 稔, 光岡明夫, 伊藤元彦, 寺松 孝: AEP 産生胸部腫瘍の各種マーカーによる鑑別, 同上学会 (58.4)

伊藤元彦, 高嶋義光, 青木 稔, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 寺松 孝: ヒト胸腺および胸腺腫のヌードマウス移植——生物学的性状研究へのアプローチ, 第23回日本胸部疾患学会総会, (58.4)

北野司久, 松井輝夫, 八木一之, 藤尾 彰: 肺腫瘍に対する治療方針, 奈良外科学会, (58.4.16)

高 欽澤, 大森英夫, 倉田昌彦, 他2名: 乳癌の骨転移, 第133回近畿外科学会, (58.5.14)

カレド・レシャード, 乾 健二, 岡野昌彦, 神頭 徹: 当施設における原発性肺癌の非手術長期生存例, 第42回中部肺癌学会, (58.6.4)

井村正史, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 孤立型細気管支肺胞上皮癌の1例, 同上学会, (58.6)

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 気管原発腫瘍の1手術経験, 第43回日本胸部疾患学会東海地方会, (58.6.5)

鈴木 清, カレド・レシャード: CEA と肺疾患との関連について, 同上学会, (58.6.5)

横見瀬裕保, 福田正悟, 李 勝弘, 玉田三郎, 清水慶彦, 他3名: 広範囲気管切除を行なった腺様嚢胞癌の1例, 第26回日本胸部外科学会関西地方会, (58.6.10)

カレド・レシャード, 乾 健二, 神頭 徹: 原発性肺癌に対する拡大手術の自験例の検討, 同上学会, (58.6.10)

乾 健二, カレド・レシャード, 神頭 徹: 胸膜中皮腫の3例, 同上学会, (58.6.10)

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 河原崎茂孝, 秋山文弥, 清水慶彦, 寺松 孝: 気管

原発腫瘍の1例, 同上学会, (58. 6)

松井輝夫, 八木一之, 藤尾 彰, 北野司久, 松本雅彦, 三木成仁: 心タンポナーデを起こした悪性胸腺腫の2症例, 同上学会, (58. 6. 11)

北野司久, 藤尾 彰, 八木一之, 松井輝夫: 転移性肺腫瘍に対する治療方針, 同上学会, (58. 6. 11)

八木一之, 北野司久, 藤尾 彰, 松井輝夫, 網谷良一, 岩田猛郎, 小橋陽一郎, 市島国雄: 肺癌の放射線治療後に急性増悪を呈したと思われる IIP の1剖検例, 第21回日本胸部疾患学会近畿地方会, (58. 6. 25)

藤尾 彰, 北野司久, 八木一之, 松井輝夫: 上大静脈内増殖を認めた悪性胸腺腫の2例, 同上学会, (58. 6. 25)

岡田賢二, 人見滋樹, 三宅正幸, 近藤一郎: 妊娠のたびに繰り返した自然気胸の一症例, 同上学会, (58. 6)

K. Reshad, S. Hitomi: Successfull management of carcinomatous pleurisies with local instillation of anticancer agents., VIII. Asia-Pacific Congress on Diseases of the Chest (in Tokyo), (1983, 7)

S. Hitomi, K. Okada, M. Miyake: Diagnostic significance of computed tomography with pneumomediastinum in mediastinal tumor, 同上学会, (1983, 7)

T. Taki, M. Ito, T. Teramatsu: The Role of Surgery in the Treatment of Small Cell Lung Cancer, 同上学会, (1983. 7)

高 欽澤, 橋本仁志, 大森英夫, 倉田昌彦, 室本 仁, 藤田正憲, 他2名: Bronchogenic Carcinoma with Cerebral Metastasis, 同上学会, (1983. 7)

寺田泰二, 千原幸司, 高嶋義光, 松延政一, 外村聖一: 最近経験した縦隔腫瘍の2例, 第18回滋賀呼吸談話会, (58. 7)

千葉 渉, 渡部 智, 長谷光雄, 坂東憲司: 非切除肺癌長期生存の1例, 第17回肺癌学会北陸地方会, (58. 7)

玉田三郎, 福田正悟, 横見瀬裕保, 李 勝弘: 肺肉腫の1切除例, 第22回日本肺癌学会中国四国地方会, (58. 7. 10)

光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: Pulmonary endodermal tumor resembling fetal lung (Kradin) と考えられる2症例, 第39回日本肺癌学会関西支部会, (58. 7)

古江増裕, 松井祐佐公, 北市正則, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 光岡明夫, 竹田俊男: 中葉症候群を呈したカルチノイドの1症例, 同上学会 (58. 7)

岡田英彦, 中村達雄, 竹内吉喜, 住友伸一, 高嶋義光, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: Eaton-Lambert 症候群の1例, 同上学会, (58. 7)

三宅正幸, 人見滋樹, 岡田賢二: 漏斗胸の胸骨翻転術後の創部に発生した線維肉腫の1治療例, 同上学会, (58. 7)

北野司久, 松井輝夫, 朝倉庄志, 八木一之, 藤尾 彰: 肺癌に対する in vivo sensitivity test, 同上学会, (58. 7. 23)

中田 徹, 竹内稔彦, 小鯖 覚, 青木 稔, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: CT による肺野腫瘍陰影の評価 (パターン分類と造影指数との応用, 同上学会, (58. 7. 23)

青木 稔, 竹内稔彦, 中田 徹, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 高令者肺癌に対する外科治療, 同上学会, (58. 7. 23)

畠中陸郎, 竹内稔彦, 青木 稔, 中田 徹, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺葉切除を行ったカルチノイドの3例, 同上学会, (58. 7. 23)

桑原正喜, 竹内稔彦, 中田 徹, 青木 稔, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 他2名: Roentgenologically occult lung cancer の2例, 同上学会, (58. 7. 23)

高嶋義光, 千葉 渉, 三宅正幸, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺癌と alpha-fetoprotein, 第24回日本肺癌学会総会, (58. 10. 14)

陳 和夫, 藤田正憲, 田中瑩子, 室本 仁, 大森英夫, 竹田秋郎, 高 欽澤, 倉田昌彦: 肺癌による症候性心嚢転移例の検討, 同上学会, (58. 10. 14)

カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 乾 健二, 岡野昌彦, 高橋 豊: 原発性肺癌に対する腫瘍マーカーとして

の血清 CEA と Ferritin の意義, 同上学会, (58. 10. 14)

岡野昌彦, カレッド・レシャード, 高橋 豊, 竹内吉喜, 乾 健二, 神頭 徹: Pulmonary Leiomyomatous Hamartoma の1例, 同上学会, (58. 10. 14)

和田洋巳, 千原幸司, 伊藤元彦, カレッド・レシャード, 神頭 徹, 乾 健二, 松延政一, 寺田泰二, 外村聖一: びまん性胸膜中皮腫——6例の経験——, 同上学会, (58. 10. 15)

北野司久, 藤尾 彰, 八木一之, 松井輝夫, 朝倉庄志: 肺癌における Carcino Embryonic Antigen の研究, 同上学会, (58. 10. 15)

星野一正, 人見滋樹: 肺癌の予後と腫瘍細胞核内 DNA のモード型との関係について, 同上学会, (58. 10)

中田 徹, 小鯖 寛, 青木 稔, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: CT-SCAN による肺野腫瘍陰影の評価, 同上学会, (58. 10)

青木 稔, 中田 徹, 小鯖 寛, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 高令者肺癌171例の検討, 同上学会, (58. 10)

池田貞雄, 池 修, 青木 稔, 中田 徹, 小鯖 寛, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志: 肺癌の非手術長期生存例について, 同上学会, (58. 10)

二宮和子, 桑原正喜, 松原義人, 池 修, 青木 稔, 中田 徹, 小鯖 寛, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における血清 TPA の意義, 同上学会, (58. 10)

桑原正喜, 松原義人, 安田雄司, 青木 稔, 中田 徹, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における血清 TPA の意義, 第3回腫瘍マーカー研究会, (58. 10. 24)

千原幸司, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦, 和田洋巳, 伊藤元彦: 高令者(80才以上)肺癌手術症例の検討, 第19回滋賀呼吸器談話会, (58. 11)

岡田賢二, 人見滋樹, 三宅正幸: 縦隔腫瘍と胸壁腫瘍の定義に関する一試案——境界症例の検討から——, 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, (58. 11)

沢村献児, 人見滋樹, 他7名: 肺扁平上皮癌切除後の再発様式の検討, 第36回日本胸外科学会総会, (58. 11)

北野司久, 藤尾 彰, 八木一之, 朝倉庄志, 松井輝夫: 肺小細胞癌に対する surgical adjuvant chemotherapy の検討, 同上学会, (58. 11. 12)

青木 稔, 中田 徹, 小鯖 寛, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 縦隔鏡検査による肺小細胞癌N因子の検討, 同上学会, (58. 11)

田村康一, 中村達雄, 住友伸一, 高嶋義光, 岡田英彦, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, 他2名: 両側手術をおこなった転移性肺腫瘍の検討, 同上学会, (58. 11)

乾 健二, カレッド・レシャード, 竹内吉喜: 高令者肺切除例の検討, 同上学会, (58. 11. 12)

倉田昌彦, 高 欽澤, 大森英夫, 竹田秋郎: 浸潤性胸腺腫の外科治療と予後, 第2回胸腺研究会, (58. 11. 12)

カレッド・レシャード, 鈴木 清, 岡野昌彦, 高橋 豊, 竹田吉喜, 乾 健二: Ferritin, 肺腫瘍性および非腫瘍性疾患との関連, 第43回中部肺癌学会, (58. 11. 26)

竹内吉喜, カレッド・レシャード, 乾 健二, 高橋 豊: 当科における縦隔腫瘍の自験例の検討, 同上学会, (58. 11. 26)

岡野昌彦, カレッド・レシャード, 乾 健二, 高橋 豊, 竹内吉喜: IIP に合併した肺癌の6例, 同上学会, (58. 11. 26)

伊藤元彦: ヒト胸腺腫のヌードマウス移植, 厚生省がん研究助成金正岡班々会議, (1983. 11)

伊藤元彦: モノクロナール抗体による, 胸腺および胸腺腫リンパ球の解析, 厚生省がん研究助成金正岡班々会議, (1983. 11)

竹内吉喜, カレッド・レシャード, 乾 健二, 高橋 豊: 胸腺腫5例の治療経験, 静岡県外科医会第128回集謀会, (58. 12. 3)

竹田秋郎, 高 欽澤, 大森英夫, 倉田昌彦: 扁平上皮癌の像を呈した乳癌の3例, 134回近畿外科学会, (58. 12. 3)

寺田泰二, 松延政一, 外村聖一, 千原幸司, 清水慶彦: 80才以上の肺癌症例の2手術例, 同上学会, (58. 12)

奥村典仁, 江崎 寛, 小林 淳, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 渡部 智, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, 他1名: 肋骨腫瘍の4切除例, 第134回近畿外科学会, (58. 12)

玉田二郎, 福田正悟, 横見瀬裕保, 神頭 徹, 李 勝弘: 肺野孤立性円形腫瘍の一切除例, 第23回岡山胸部疾患懇話会, (59. 2. 28)

2. 胸腺・免疫

A. Mitsuoka, T. Taki, M. Ito, M. Goto, M. Sugiyama, S. Morikawa: Kinetics of alkylating activity in the blood after cyclophosphamide treatment for enhancement of delayed hypersensitivity, Symposium on Biological Responses in Cancer chemotherapy, 3rd Sapporo Cancer Seminar, (58. 7)

S. Morikawa, T. Harada, K. Inoue, M. Nagasaki, A. Mitsuoka, S. Tomiyama: The effects of cyclophosphamide on the immune competent cells participating in the delayed hypersensitivity response in mice. 同上学会, (58. 7)

水野 浩, 安倍隆二, 生嶋宏彦, 他1名: 重症筋無力症の外科的治療, 第36回日本胸部外科学会総会, (58. 11)

奥村典仁, 江崎 寛, 小林 淳, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 渡部 智, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 低ガンマグロブリン血症と重症筋無力症を合併した胸腺腫の1手術例, 第52回日本結核病学会第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, (58. 11. 26)

3. 結 核

光岡明夫, 千葉 渉, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, 久世文幸, 鈴木康弘, 前川暢夫: *Mycobacterium nonchromogenicum* complex による慢性肺感染症の1例, 第58回日本結核病学会総会, (58. 4)

和田洋巳, 田村康一, 瀧 俊彦, 住友伸一, 寺松 孝: 現状からみた慢性膿胸の手術適応, 同上学会, (58. 4. 11)

F. Kuze, A. Mitsuoka, W. Chiba, Y. Shimizu, M. Ito, T. Teramatsu, N. Maekawa, Y. Suzuki: Chronic pulmonary infection caused by *mycobacterium nonchromogenicum* complex, VIII. Asia-Pacific Congress on Diseases of the Chest (in Tokyo), (1983, 7)

カレッド・レシャード, 乾 健二, 岡野昌彦, 高橋 豊, 竹内吉喜: 膿胸100例の治療経験, 第8回東海呼吸器感染症研究会, (58. 9. 10)

高嶋義光, 鈴木雄二郎, 千葉 渉, 坂東憲司, 長谷光雄, 鬼頭敏幸, 中村凱次, 渡部 智: 小児気管支結核の1症例, 第30回日本結核病学会第19回日本胸部疾患学会第4回日本気管支学会合同北陸地方会, (58. 10)

カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 乾 健二, 神頭 徹: 本院における肺結核に対する外科療法, 第36回日本胸部外科学会総会, (58. 11. 12)

カレッド・レシャード, 高橋 豊, 岡野昌彦, 竹内吉喜, 乾 健二: 地域の肺結核の最近の動向, 第62回日本結核病学会東海地方会, (58. 11. 26)

4. 人工材料

田村康一: PVA-Silica composite の人工血管への応用, 京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会, (58. 1. 29)

小鯖 覚, 他: シリコンラバーを材料とした人工気管の実験的研究, 第83回日本外科学会総会, (58. 4)

小鯖 覚, 池 修, 中田 徹, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 人工気管の実験的研究——interface における問題点について, 第26回日本胸部外科学会関西地方会, (58. 6)

池田貞雄, 小鯖 覚, 桑原正喜, 池 修, 中田 徹, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志: 人工気管の実験的研究, 第6回日本気管支学会, (58. 7)

松原義人, 桑原正喜, 小鯖 覚, 池 修, 中田 徹, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 人工気管による気管分岐部再建の実際, 同上学会, (58. 7)

S. Kosaba, O. Ike, T. Nakata, M. Kuwabara, Y. Matsubara, R. Hatakenaka, K. Ninomiya, T. Funatsu, S. Ikeda: Experimental study of tracheal prosthesis, VIII. Asia-Pacific Congress on Diseases of the Chest, (58. 7.)

田村康一, 中村達雄, 岡田賢二, 水野 浩, 清水慶彦, 伊藤元簡, 寺松 孝, 他1名: Polyvinyl alcohol の新しいゲル化法ならびに医用材料としての基礎的研究——生体組織との反応について——, 第21回日本人工臓器学会大会, (58. 9)

桑原正喜, 小鯖 寛, 池 修, 中田 徹, 青木 稔, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 人工気管による気管および分岐部再建, 第36回日本胸部外科学会総会, (58. 11)

中村達雄, 住友伸一, 田村康一, 清水慶彦, 寺松 孝, 他3名: 生体内分解性高分子材料の分解と生体に及ぼす影響 (II), 第5回日本バイオマテリアル学会, 学術講演会, (58. 11 7)

水野 浩, 岡田賢二, 田村康一, 清水慶彦, 寺松 孝, 他1名: 菌体固定化高分子材料——生体応用への基礎的研究, 第5回日本バイオマテリアル学会大会, (58. 11)

玄 丞然, 中村達雄, 住友伸一, 田村康一, 清水慶彦, 寺松 孝, 他2名: ポリ——L——ラクチド繊維の in vitro 及び in vivo 分解, 同上学会, (58. 11)

5. 心・血 管

井村正史, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 下肢動脈閉塞症に対する anatomic & extraanatomic bypass 例の検討, 第125回静岡県外科医会集談会, (58. 3)

河原崎茂孝, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 心室中隔瘤2例の経験, 第125回静岡県外科医会集談会, (58. 3)

島本光臣, 篠崎 拓, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 心室中隔穿孔及び心破裂に対する外科治療, 第13回日本心臓血管外科学会総会, (58. 5)

篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 弁膜症再手術の問題点, 特に感染性心内膜炎を合併した症例を中心に, 同上学会, (58. 5)

井村正史, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 末梢静脈注入 Contrast Echo 法による三尖弁逆流の評価, 第26回日本胸部外科学会関西地方会, (58. 6)

島本光臣, 篠崎 拓, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 大動脈瘤に対する Thromboexclusion 法の検討, 同上学会, (58. 6)

島本光臣, 篠崎 拓, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥, 他4名: 阻血性間歇跛行に対する血行再建術例の検討, 第62回静岡県整形外科医会集談会, (58. 6)

M. Shimamoto, T. Shinozaki, K. Takahashi, M. Imura, F. Yamazaki, S. Kawarazaki, F. Akiyama: Surgical treatment for variant angina with Diltiazem drip infusion to prevent perioperative coronary artery spasm, VIII. Asia-Pacific Congress on Diseases of the Chest, (1983, 7)

秋山文弥: 運動中における死亡事故特に心臓死に就いて, 昭和58年度静岡県高校養護教員研究会中部支部総会講演会, (58. 9)

秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝: 僧帽弁置換術後の左室破裂——心腔内修復法による一救命例を中心に——, 第36回日本胸部外科学会総会, (58. 11)

島本光臣, 篠崎 拓, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 胸部大動脈瘤に対する Thromboexclusion 法の検討——特に末梢側一時的バルーン閉塞法について——, 同上学会, (58. 11)

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 高橋憲太郎, 河原崎茂孝, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 最近経験した CH55 (特発性肥厚性大動脈弁下狭窄症) の2手術例, 第128回静岡県外科医会集談会, (58. 12)

河原崎茂孝, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 林 丘, 長谷川誠紀, 秋山文弥: B型WPW 症候群の手術治療, 同上学会, (58. 12)

林 丘, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 秋山文弥: 大血管転位症に対する Rastelli 手術の経験, 同上学会, (58. 12)

6. 一般胸部疾患

小鯖 覚, 池 修, 中田 徹, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気道確保を目的とした人工気管による気管再建術の1例, 第38回日本肺癌学会関西支部会, (58. 2. 5)

福田正悟, 横見瀬裕保, 李 勝弘, 玉田二郎: 当科における胸部外傷症例, 第90回岡山外科会, (58. 2. 19)

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 特発性血気胸3例の検討, 第125回静岡県外科医会集談会, (58. 3)

外村聖一: 現在呼吸器疾患治療の問題点, 大津市医師会学術講演会, (58. 3)

光岡明夫, 住友伸一, 瀧 俊彦, 田村康一, 加藤弘文, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 胸部の gas-contrasted CT, 第83回日本外科学会総会, (58. 4)

池 修, 中村良雄, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: フィブリン糊による肺胸膜欠損部の修復, その実験成績と臨床成績について, 第23回日本胸部疾患学会総会, (58. 4)

船津武志, 池 修, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 池田貞雄: 気腫性肺嚢胞の成因——ブラ・ブレブと胸膜下癒痕の関連について, 同上学会, (58. 4)

池田貞雄, 中村良雄, 池 修, 小鯖 覚, 桑原正喜, 二宮和子, 松原義人, 船津武志, 木野稔也, 泉 孝英: 血中抗原による肺クリプトコッカス症の診断, 同上学会, (58. 4)

人見滋樹, 前里和夫, 岡田賢二, 岡田静雄, 立花暉夫: 学校集検で発見された非結核性胸部疾患の検討(第1報)生検, 手術を要した症例を中心に, 同上学会, (58. 4)

Hitomi, S., Maesato, K., Okada, K.: Computed Tomography with Pneumomediastinum and Contrast Tomography in Mediastinal Tumor, 6th Asian Congress for Thoracic and Cardiovascular Surgery (in Korea), (1983, 4)

T. Taki, T. Teramatsu, R. Hatakenaka, S. Ikeda: Surgical Treatment of Acquired Tracheobronchomalacia, 同上学会, (1983. 4. Seoul)

倉田昌彦, 高 欽澤, 福本仁史: A Post-operative Study of Funnel Chest Patients, 同上学会, (1983. 4. 21)

戸田佳代子, 黒住真央, 山根すま子, 竹田俊男, 村山尚子, 西山秀樹, 倉沢卓也, 前川暢夫, 光岡明夫: 多発性リンパ節腫脹と多クローン性高グロブリン血症を伴った Castleman's lymphoma (plasma cell type) の1症例, 第72回日本病理学会総会, (58. 4)

八木一之, 松井暉夫, 藤尾 彰, 北野司久: 肺外科におけるフィブリン糊の臨床的応用, 奈良外科学会, (58. 4. 16)

松延政一: 講演, 大津市医師会胸部読影会, (58. 4)

松井暉夫, 八木一之, 藤尾 彰, 北野司久: 気管支嚢胞8例の検討, 第133回近畿外科学会, (58. 5. 14)

八木一之, 松井暉夫, 藤尾 彰, 北野司久: 乳幼児気管支内異物の2治験例, 同上学会, (58. 5. 14)

寺田泰二, 千原幸司, 高嶋義光, 松延政一, 外村聖一: 緊急手術を施行した特発性血気胸の2例, 同上学会, (58. 5)

中田 徹, 池 修, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 経胸法によるモルガニーヘルニアの2手術例, 同上学会, (58. 5. 14)

松延政一, 講演, 大津市医師会胸部読影会, (58. 5)

福田正悟, 横見瀬裕保, 李 勝弘, 玉田二郎: 気管支性嚢胞の2治験例, 第26回日本胸部外科学会関西地方会, (58. 6. 10)

大森英夫, 高 欽瀧, 竹田秋郎, 倉田昌彦, 清水慶彦: Pigeon breast の外科治療——4例, 同上学会, (58. 6. 10)

河原崎茂孝, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 特発性血気胸3例の経験, 同上学会, (58. 6)

光岡明夫, 竹内吉喜, 住友伸一, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 右側外傷性横隔膜ヘルニアの2治療例, 同上学会, (58. 6)

寺田泰二, 千原幸司, 高嶋義光, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦: 長年気管支喘息として治療された外傷性気管支断裂の1治療例, 同上学会, (58. 6)

岡田賢二, 人見滋樹, 前里和夫, 三宅正幸: 右肺全剝後の気管支瘻・膿胸に合併した右房破裂の1治療例, 同上学会, (58. 6)

河原崎茂孝, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 特発性血気胸3例の経験, 第43回日本胸部疾患学会東海地方会, (58. 6)

富本秀和, カレッド・レシャード, 乾 健二: 肺糞線虫症の3例, 第43回日本胸部疾患学会東海地方会, (58. 6. 5)

岡野昌彦, カレッド・レシャード, 乾 健二: 肺好酸球性肉芽腫の1例, 同上学会, (58. 6. 5)

青木 稔, 竹内稔彦, 小鯖 覚, 中田 徹, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 他1名: 胸部症状を初発とし, 多発性骨髄腫に合併したアミロイドーシスの2例, 第51回日本結核病学会第21回日本胸部疾患学会近畿地方会, (58. 6. 25)

中田 徹, 竹内稔彦, 青木 稔, 小鯖 覚, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 慢性呼吸不全に対する塩酸ジラゼップの使用経験, 同上学会, (58. 6. 25)

桑原正喜, 竹内稔彦, 小鯖 覚, 中田 徹, 青木 稔, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 巨大肺嚢胞症の手術, 同上学会, (58. 6. 25)

松原義人, 二宮和子, 桑原正喜, 小鯖 覚, 中田 徹, 竹内稔彦, 青木 稔, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: クラミジア肺炎の1例, 同上学会, (58. 6. 25)

外科聖一, 千原幸司: 講演, 大津市医師会胸部読影会, (58. 6)

李 勝弘, 福田正悟, 横見瀬裕保, 玉田二郎: 当院における緊急気管支鏡, 第6回日本気管支学会総会, (58. 7. 2)

清水慶彦, 中村達雄, 青木 稔, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 寺松孝: 気管支形成術の術式適応に関する検討, 第6回日本気管支学会総会, (58. 7)

二宮和子, 船津武志, 小鯖 覚, 池 修, 中田 徹, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 池田貞雄: 気管気管支軟化症の診断と治療, 同上学会, (58. 7)

カレッド・レシャード, 乾 健二, 神頭 徹, 岡野昌彦: 当科における気管支ファイバースコープの利用現状, 同上学会, (58. 7. 2)

乾 健二, カレッド・レシャード, 岡野昌彦: 最近経験した気道内異物の4例, 同上学会, (58. 7. 2)

北野司久: 乳幼児の気管支内異物症例の検討, 小児の気管支鏡, 京都シンポジウム, (58. 7. 5)

福田正悟, 横見瀬裕保, 李 勝弘, 玉田二郎: 限局性肺アスペルギールス症の一治療例, 第18回日本胸部疾患学会中国四国地方会, (58. 7. 9)

横見瀬裕保, 福田正悟, 李 勝弘, 玉田二郎: 肺全摘を施行した多発性肺嚢胞症の2治療例, 同上学会, (58. 7. 9)

T. Funatsu, R. Hatakenaka, S. Kosaba, M. Kuwabara, O. Ike, T. Nakata, K. Ninomiya, Y. Matsubara, S. Ikeda: Diagnosis and pathogenesis of acquired tracheobronchomalacia, VIII. Asia-Pacific Congress on Diseases of the Chest (Tokyo), (58. 7)

K. Takahashi, T. Shinozaki, M. Shimamoto, M. Imura, F. Yamazaki, S. Kawarazaki, F. Akiyama: Sterno-turnover with rectus muscles pedicle for funnel chest——operative procedure and long term results, 同上学会, (1983. 7)

A. Mitsuoka, T. Taki, K. Tamura, H. Wada, Y. Shimizu, M. Ito, T. Teramatsu: Gas-contrasted computed tomography of the mediastinum, 同上学会, (58. 7)

Y. Shimizu, Y. Takeuchi, T. Nakamura, S. Sumitomo, A. Mitsuoka, T. Taki, K. Tamura, M. Ito, T. Teramatsu: Reconstruction of Chest Wall Defect, 同上学会, (July 11-15, 1983, Tokyo)

大森英夫, 高 欽澤, 竹田秋郎, 倉田昌彦, 他6名: 肺の fibrous histiocytoma (pseudo tumor) の1例, 第39回日本肺癌学会関西支部会(京都), (58. 7. 23)

藤尾 彰, 北野司久, 八木一之, 松井輝夫, 朝倉左志: 肺腫瘍が疑われた原発性肺クリプトコッカス症の2例, 同上学会, (58.7.23)

千原幸司: 講演, 大津市医師会胸部読影会, (58.7)

松延政一, 千原幸司: 大津市医師会胸部読影会, (58.8)

カレッド・レシャード: 呼吸器病学の診断と治療, 島田医師会講演, (58.8.25)

人見滋樹, 岡田賢二, 三宅正幸: 巨大肺嚢胞症に対する外科療法の効果, 第28回大阪内科懇話会, (58.9)

乾 健二, カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 高橋 豊: 巨大気腫性肺嚢胞症9例の外科療法, 静岡県外科医会第127回集談会, (58.9.17)

鈴木雄二郎, 千葉 渉, 坂東憲司, 長谷光雄, 高嶋義光, 渡部 智, 山本孝吉: 当院におけるBALの経験, 第30回日本結核病学会第19回日本胸部疾患学会第4回日本気管支学会合同北陸地方会, (58.10)

千葉 渉, 鈴木雄二郎, 坂東憲司, 長谷光雄, 高嶋義光, 渡部 智: 当院における偽腫瘍の5治験例, 同上学会, (58.10)

高嶋義光, 鈴木雄二郎, 千葉 渉, 坂東憲司, 長谷光雄, 渡部 智, 他2名: 小児気管支結核の1症例, 同上学会, (58.10)

寺田泰二, 千原幸司, 松延政一, 外村聖一: IPPVに重畳するOscillationの効用について, 第21回日本社会保険医学会, (58.10)

千原幸司, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一: 当院における慢性汎細気管支(DPB)の臨床的検討, 同上学会, (58.10)

松延政一, 寺田泰二, 千原幸司, 外科聖一: 慢性呼吸不全に対する小流量体外循環型肺補助装置(SECCO₂R)の開発とその臨床応用について, 同上学会, (58.10)

立花暉夫, 人見滋樹, 岡田賢二, 上田英之助, 岡田静雄: 気管支鏡所見とサルコイドーシスの臨床, 第3回サルコイドーシス研究会誌会, (58.10)

立花暉夫, 人見滋樹, 岡田賢二, 三宅正幸: サルコイドーシスにおける気管支鏡所見と臨床像, 第14回近畿気管支鏡懇話会, (58.10)

松延政一, 千原幸司: 講演, 大津市医師会胸部読影会, (58.10)

船津武志, 池 修, 中田 徹, 小鯖 覚, 青木 稔, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 池田貞雄: 自然気胸——その成因と外科的治療, 第45回日本臨床外科医学会総会, (58.11)

松原義人, 桑原正喜, 小鯖 覚, 中田 徹, 青木 稔, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 高齢者における肺全除例の検討, 同上学会, (58.11)

桑原正喜, 小鯖 覚, 中田 徹, 青木 稔, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 巨大肺嚢胞症の手術, シネクリニク, 同上学会, (58.11)

高橋憲太郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 遠隔成績からみた有茎性胸骨翻転術式の評価, 第36回日本胸部外科学会総会, (58.11)

清水慶彦, 中村達雄, 住友伸一, 千原幸司, 高嶋義光, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 伊藤元彦, 寺松孝: 骨性胸壁切除症例の検討, 同上学会, (58.11)

和田洋巳, 千原幸司, カレッド・レシャード, 神頭 徹, 乾 健二, 松延政一, 寺田泰二, 他2名: 胸部外科手術麻酔におけるHFV(High Frequency Ventilation)の応用, 同上学会, (58.11)

高 欽澤, 大森英夫, 竹田秋郎, 倉田昌彦: 関胸手術におけるアルミナ・セラミック肋骨接合ピンの使用経験, 同上学会, (58.10)

千原幸司, 松延政一, 高嶋義光, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, 寺田泰二, 外村聖一, 他2名: 血液透析による高CO₂血症の管理——装置の開発と臨床応用, 同上学会, (58.11)

船津武志, 中田 徹, 池 修, 青木 稔, 小鯖 覚, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 池田貞雄: 気管・気管支軟化症の外科的治療, 同上学会, (58.11)

畠中陸郎, 中田 徹, 青木 稔, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 低肺機能例における肺切除の限界と術後管理, 同上学会, (58.11)

北野司久: Thymic hyperplasia の1例, 胸腺研究会, (58. 11. 12)

S. Matsunobe, T. Teramatsu, S. Tonomura, F. Yoshida, S. Nakatani, Y. Ikai: Excretion of Carbon Dioxide by Acetate Hemodialysis in Patients with Chronic Respiratory Failure (CRF), 4th ISAO '83 (Nov. 15, 1983, Kyoto)

住友伸一, 江崎 寛, 奥村典仁, 小林 淳, 中村達雄, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 渡部 智, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 開胸を要した小児気管支内異物の一例, 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, (58. 11)

藤尾 彰, 北野司久, 八木一之, 朝倉庄志, 松井輝夫: 結核性気管支狭窄症の1手術治験例, 同上学会, (58. 11. 26)

陳 和夫, 吉田一秀, 田中瑩子, 藤田正憲, 室本 仁, 高 欽澤, 大森英夫, 竹田秋郎, 倉田昌彦: 鎖骨大静脈穿刺に合併した乳び胸の1例, 同上学会, (58. 11. 26)

黒田直明, 人見滋樹, 岡田賢二, 三宅正幸: 気管支結石症の2手術例, 同上学会, (58. 11)

池 修, 松原義人, 安田雄司, 青木 稔, 中田 徹, 桑原正喜, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 結節状陰影を呈したサルコイドーシスの一例, 第52回日本結核病学会第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, (58. 11. 26)

青木 稔, 安田雄司, 中田 徹, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺硬化性血管腫の1例, 同上学会, (58. 11. 26)

池田貞雄, 池 修, 安田雄司, 青木 稔, 中田 徹, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志: 肺クリプトコッカス症の診断——血中クリプト抗原を指標として——, 同上学会, (58. 11. 26)

寺田泰二, 千原幸司, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦, 和田洋巳, 伊藤元彦: 胸部外傷慢性期の胸郭再建の1治療例, 第19回滋賀呼吸談話会, (58. 11)

岡野昌彦, カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 高橋 豊, 乾 健二: 慢性抗酸球性肺炎の1例, 第44回胸部疾患学会東海地方会, (58. 11. 27)

乾 健二, カレッド・レシャード, 岡野昌彦, 高橋 豊, 竹内吉喜: 大および巨大気腫性肺嚢胞症外科的治療の検討, 同上学会, (58. 11. 27)

高橋 豊, カレッド・レシャード, 乾 健二, 竹内吉喜: 胸骨縦切開による気腫性嚢胞症の両側同時開胸の2例, 同上学会, (58. 11. 27)

外村聖一: 呼吸疾患の現況, 保険医協会学術講演会, (58. 11)

千原幸司, 清水慶彦, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一: 胸部外傷慢性期の胸郭再建の1治験例, 第134回近畿外科学会, (58. 12)

八木一之, 北野司久, 藤尾 彰, 朝倉庄志, 松井輝夫: 巨大ブウに対するフィブリン糊の使用経験, 同上学会, (58. 12. 3)

中田 徹, 安田雄司, 竹内稔彦, 青木 稔, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 自然気胸の10例の検討, 同上学会, (58. 12. 3)

安田雄司, 竹内稔彦, 池 修, 青木 稔, 中田 徹, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 呼吸器外科における Collatamp の使用経験, 同上学会, (58. 12. 3)

高橋 豊, カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 乾 健二: 胸骨正中切開による両側気胸同時開胸例の検討, 静岡県外科医会第128回集談会, (58. 12)

松延政一, 千原幸司: 講演, 大津市医師会胸部読影会, (58. 12)

神頭 徹, 福田正悟, 横見瀬裕保, 李 勝弘, 玉田二郎: 呼吸困難にて緊急入院した一例, 第23回岡山胸部疾患懇話会, (59. 2. 28)

〔著 書〕

伊藤元彦: 「縦隔腫瘍」今日の治療指針282—283, 医学書院, 1983.

清水慶彦, 寺松 孝: 人工気管, 人工臓器 (太田和夫, 阿岸鉄三編集) 257—262, 南江堂, 1983.

寺松 孝, 田村康一, 住友伸一 (分担執筆): 術後出血——術後合併症, 肺・気管支・縦隔, 『術前, 術後の合併症にてマニュアル第5巻, 日本メディカルセンター, 95—106, 1983.

池田貞雄, 船津武志, 人見滋樹, 甲斐隆義, 校閲長石忠三: 胸部の異常陰影, 全改訂3版, 58年9月.

〔誌 上 発 表〕

1. 腫 瘍

伊藤元彦, 寺松 孝: 手術療法——特集肺がん——臨床と研究60: 1510—1514, 1983.

伊藤元彦: 腫瘍マーカー (肺癌), 呼吸2: 510—515, 1983.

沖本二郎, 横見瀬裕保, 玉田二郎, 福田正悟, 李 勝弘, 他3名: 18歳女性にみられた気管 adenoid cystic carcinoma の1例, 呼吸 Vol. 2 (6): 848—851.

伊藤元彦, 青木 稔, 高嶋義光, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 寺松 孝: 肺巨細胞癌切除例の臨床病理学的検討, 日本胸部外科学会雑誌31: 1258—1261, 1983.

伊藤元彦, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝: 転移性肺腫瘍外科治療の問題点, 日本外科学会雑誌84: 778—781, 1981.

山下純宏, 伊藤元彦, 他6名: 肺癌脳転移116例の臨床的検討——手術および放射線治療の相対的役割, 日本癌治療学会雑誌18: 1124—1134, 1983.

池 修, 北野司久, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 八木一之, 他3名: Pulmonary blastoma の1手術例, 日本胸部臨床42: 683—686, 1983.

和田洋巳, 千原幸司, 伊藤元彦, 乾 健二, 神頭 徹, カレッド・レシャード, 寺田泰二, 松延政一: 本邦における胸膜中皮腫, 日本胸部臨床42: 1020, 1983.

桑原正喜, 八木一之, 池 修, 中田 徹, 小鯖 覚, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 縦隔鏡検査で診断された迷走神経由来の縦隔腫瘍の1例, 日本胸部臨床42(11).

田村康一, 伊藤元彦: 転移性肺腫瘍における外科治療の問題点, 外科診療25: 1969, 1983.

倉田昌彦, 岡田英彦, 高 欽澤, 他2名: ヒト乳癌のホルモン受容体と内分泌療法の効果, 外科診療25(10): 1327—1333, S. 58.10.1.

高井晶子, 倉田昌彦, 他1名: 乳癌患者の血中 CEA について二, 三の知見, 医学と生物学107(4): 197—200 1983.10.10.

西 麗子, 前里和夫, 人見滋樹, 他1名: 光凝固の奏効した虹彩転移癌, 臨床眼科37(5): 706—711, 1983.

高橋憲太郎, 人見滋樹, 前里和夫, 他4名: Carcinoma in situ と肺野小型肺癌の重複癌の1切除例, 肺癌23(4): 527—535, 1983.

北野司久, 藤尾 彰, 八木一之, 松井輝夫: 悪性腫瘍切除後の胸壁の再建, 臨床外科38: 483—488, 1983.

福本仁志, 高 欽澤, 大森英夫, 倉田昌彦, 他2名: 後縦隔に発生した Castleman's Lymphoma の1例, 臨床胸部外科3(4): 499—503, (1983-7)

北野司久, 藤尾 彰, 八木一之, 杉山正敏: 長期継代移植を続けた Nu-マウス可移植性ヒト肺癌の制癌剤感受性能の変動, 最新医学38: 1033—1035, 1983.

光岡明夫, 寺松 孝: CT・Echo・RI を中心とした画像診断, 肺癌——CT スキャンを中心に, 外科45: 485—491, 1983.

桑原正喜, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 八木一之, 小鯖 覚, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌末期の癌性疼痛に対するケア, 日本外科系連合会誌, 第7回学術集会講演集.

寺松 孝, 瀧 俊彦: 肺癌の早期発見, 医学講座, 日本医師会.

2. 胸腺・免疫

3. 結 核

F. Kuze, A. Mitsuoka, W. Chiba, Y. Shimizu, M. Ito, T. Teramatsu, N. Maekawa, Y. Suzuki: Chronic

pulmonary infection caused by *Mycobacterium terrae* complex: A resected case, *Am. Rev. Respir. Dis.* 128:561-565, 1983.

乾 健二, カレッド・レシャード, 神頭 徹: 嫌気性菌による膿胸の2例, 第2回東海呼吸器感染症研究会誌 2:4

神頭 徹, カレッド・レシャード, 乾 健二: 肺結核症に合併した肺胞蛋白症の1例, 第2回東海呼吸器感染症研究会誌 2:4

4. 人工材料

寺松 孝, 筏 義人: 医用材料の現況と将来, 医学のあゆみ127(9): 635, 1983.

桑原正喜, 小鯖 覚, 池 修, 安田雄司, 青木 稔, 中田 徹, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 人工気管による気道再建——Interface における問題点——, 気管支学 5 (4).

田村康一, 中村達雄, 水野 浩, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 他1名: Polyvinyl alcohol-silica composite の人工血管への応用——長期生体置換例の表面性状の検討——, 人工臓器12: 166, 1983.

水野 浩, 岡田賢二, 田村康一, 清水慶彦, 寺松 孝, 他1名: 菌体固定化高分子材料——生体応用への基礎的研究——, 第5回日本バイオマテリアル学会大会論文集, p. 27.

玄 丞然, 中村達雄, 住友伸一, 田村康一, 清水慶彦, 寺松 孝, 他2名: ポリL——ラクチド繊維の in vitro 及び in vivo 分解, 第5回日本バイオマテリアル学会大会論文集, p. 5.

5. 心・血管

住友伸一, 五十部潤, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美, 山口正人: 肋間動脈——肺動脈交通症の1例, 胸部外科36(1), 1983. 1.

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 異型狭心症に対するA—Cバイパスの成績——手術近接期冠動脈攣縮予防(diltiazem 特続静注法)の重要性——, 胸部外科36(5): 399, 1983.

島本光臣: 異型狭心症の外科治療に関する研究, 日本胸部外科学会雑誌31(6): 829, 1983.

堀江 稔, 千原幸司, 島本光臣, 篠崎 拓, 秋山文弥, 他6名: 急性心筋梗塞に伴う心原性ショック離脱後の心臓破裂3例, 心臓15(5): 579, 1983.

篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 弁膜症再手術の問題点——とくに感染性心内膜炎を合併した症例を中心として——, 日本心臓血管外科学会雑誌13(2): 153, 1983.

松延政一, 寺松 孝, 外村聖一, 他3名: 慢性呼吸不全患者管理における小流量体外循環型肺補助装置の効用, 日本胸部臨床42(7): 539, 1983.

西田進一郎, 千原幸司, 他7名: 急性心筋梗塞が疑われ, 広汎な心室瘤を有していた心サルコイドーシスの1例, 呼吸と循環31(7): 811, 1983.

新保慎一郎, 立石昭三, 他: 各種高血圧症におけるCaptopril 治療効果——短期および長期治療成績, *Progress in Medicine* 3: 877—886, 1983.

阿部弘毅, 立石昭三, 他: 胸部大動脈瘤の4治験例について, 京市病紀 3: 113—116, 1983.

6. 一般胸部疾患

池田貞雄, 小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 他5名: 肺クリプトコッカス症の診断——血清中クリプトコッカス抗原を指標として——, 日本胸部臨床42(2).

和田洋巳, カレッド・レシャード, 乾 健二, 他: 嫌気性菌膿胸——2例の報告——, 日本胸部臨床42: 357, 1983.

和田洋巳, 乾 健二, 神頭 徹, カレッド・レシャード, 松延政一, 千原幸司, 寺田泰二, 外科聖一: 部分心臓欠損症の1例, 日本胸部臨床42: 796, 1983.

前川暢夫, 人見滋樹, 17名: 呼吸器感染症に対するBacampicillin (BAPC) の臨床的検討, 日本胸部臨床42

(7) : 616—625, 1983.

船津武志, 池 修, 小鯖 覚, 中田 徹, 青木 稔, 桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 畠中陸郎, 池田貞雄, 瀧 俊彦: 気管・気管支軟化症に対する外科的治療, 日本胸部臨床42(11)

畠中陸郎, 八木一之, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管気管支軟化症の病態と治療 The Pathogenesis and Treatment of Tracheobronchomalacia, 気管支学 5 (1)

岡田賢二, 人見滋樹, 前里和夫: 繰り返す喀血に対する Occcluding Spring Embolus による気管支・肋間動脈塞栓術, 気管支学 5 (2) : 161—168, 1983.

荒井俊之, 和田洋巳, カレッド・レシャード, 神頭 徹, 乾 健二, 他 3 名: 呼吸器外科手術時の麻酔における片肺換気+HFJV (high frequency jet ventilation) の応用, 日本外科学会雑誌84 : 1237, 1983.

北野司久, 藤尾 彰: 胸腺外科における気縦隔造影法の臨床的意義, 臨床外科 3 : 458—464, 1983.

玉木正男, 倉田昌彦, 他 3 名: Buckling of the Distal Innominate Artery Simulating a Nodular Lung Mass, Chest vol. 83 p. 829—830, May, 1983.

人見滋樹: 経気管支鏡下肺組織生検, 臨床科学19(10) : 1200—1208, 1983.

佐藤篤彦, 今井弘行, 本田和徳, 和田洋巳, 他10名: 鎮咳および去痰に対する Procatenol (メプチン) の臨床効果, 現代医療15 : 2117, 1983.

寺村康史, 荒井俊之, 和田洋巳, カレッド・レシャード, 神頭 徹, 乾 健二, 他 3 名: 呼吸器外科手術における血管内酸素分圧連続測定装置の応用, 臨床麻酔 7 : 518, 1983.

北野司久: チェスト・カンファレンス(5)……小児の気管支内異物, 奈良県医師新報, 13—15, 1983.

立石昭三: 機能回復を図る呼吸器外科 (虚脱肺に対する肺剥皮術および漏斗胸に対する胸骨翻転術), 中西医報 (京都市, 中京西部医師会) 44 : 16—19, 1983.

立石昭三, 他: 気管——無名動脈瘤について, 京都市立病院紀要3 : 97—101, 1983.

病 理 学 部 門

1. 肉芽・癌研究グループ

〔誌 上 発 表〕

Hamamoto, T., Hashimoto, K., Baba, M., Kinoshita, K. and Yasuhira, K.: Experimental production of pulmonary granulomas. III. Plasma cell granuloma, Brit. J. Exp. Path. 64: 93—99 (1983).

Hamamoto, Y., Kinoshita, K., Matsushita, T., Kogishi, K. and Yasuhira, K.: Experimental production of pulmonary granulomas. IV. Eosinophilic granuloma, Brit. J. Exp. Path. 64: 177—184 (1983).

Hashimoto, K., Higuchi, K. and Yasuhira, K.: Partial purification and demonstration of anti-tumor activity of high molecular weight DNA-binding protein (HMDBP) in ascitic fluid of mice with Meth-A ascites fibrosarcoma, Bull. Chest Dis. Res. Inst. 16: 27—34 (1983).

2. 結合組織・老化研究グループ

〔学 会 発 表〕

樋口京一, 松村敦子, 本間篤子, 橋本研二, 戸田佳代子, 細川昌則, 安平公夫, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 IX. 正常マウス血清中にみられる老化アミロイド (AS_{SAM}) 共通抗原性物質の単離と生化学的・免疫化学的検討, 第72回日本病理学会総会 (昭58. 4).

細川昌則, 本間篤子, 樋口京一, 竹下修史, 入野美香, 戸田佳代子, 松村敦子, 竹田俊男, 笠井隆一, 松下 睦: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 X. 老化度判定基準——Grading Score System——について (第Ⅲ報), 第72回, 日本病理学会総会 (昭58. 4).

竹下修史, 樋口京一, 松村敦子, 戸田佳代子, 本間篤子, 細川昌則, 竹田俊男, 松下 睦: 老化促進モデルマ

ウス (SAM) に関する実験的研究 XI. 老化アミロイド蛋白 (AS_{SAM}) 共通抗原性物質の免疫組織化学的研究, 第72回日本病理学会総会 (昭58. 4).

本間篤子, 入野美香, 樋口京一, 戸田佳代子, 細川昌則, 竹田俊男, 松下 睦: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 XII. 環境因子の老化におよぼす影響 1. 食餌条件と加齢変化, 第72回日本病理学会総会 (昭58. 4).

清水克時, 樋口京一, 竹下修史, 細川昌則, 竹田俊男, 石井正治, 山室隆夫: 老化促進モデルマウス (SAM) にみる椎間板アミロイド沈着について, 第15回日本結合組織学会総会 (昭58. 7).

竹田俊男, 真田浩幸, 石井正治, 松下 睦, 山室隆夫, 整形外科, 清水克時: ヒト椎間板アミロイド沈着について 1. 椎間板ヘルニア剔出材料を用いての観察, 第15回日本結合組織学会総会 (昭58. 7).

樋口京一, 松村敦子, 橋本研二, 本間篤子, 戸田佳代子, 竹下修史, 細川昌則, 安平公夫, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) における血清中老化アミロイド共通抗原性物質 (SAS_{SAM}) 濃度の加齢に伴う変化, 第15回日本結合組織学会総会 (昭58. 7).

細川昌則, 竹田俊男, 石井正治, 小笹 宏: マウス真皮線維芽細胞におけるエストロゲン特異結合蛋白について, 第15回日本結合組織学会総会 (昭58. 7).

戸田佳代子, 松村敦子, 細川昌則, 樋口京一, 本間篤子, 松下 睦, 米津智徳, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) における結合組織代謝に関する研究 1. 皮膚コラーゲンおよび酸性ムコ多糖の加齢変化について, 日本基礎老化学会第7回大会 (昭58. 10).

細川昌則, 竹下修史, 樋口京一, 清水克時, 入野美香, 戸田佳代子, 本間篤子, 松村敦子, 安平公夫, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) における眼の加齢変化について, 日本基礎老化学会第7回大会 (昭58. 10).

本間篤子, 入野美香, 米津智徳, 松下 睦, 樋口京一, 戸田佳代子, 竹下修史, 細川昌則, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) にみる促進老化におよぼす環境因子の影響 1. 食餌制限による老化制御について, 日本基礎老化学会第7回大会 (昭58. 10).

松下 睦, 笠井隆一, 一坂 章, 奥村秀雄, 山室隆夫, 細川昌則, 樋口京一, 戸田佳代子, 本間篤子, 米津智徳, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) における骨の加齢変化, 日本基礎老化学会第7回大会 (昭58. 10).

竹下修史, 樋口京一, 松村敦子, 米津智徳, 本間篤子, 戸田佳代子, 松下 睦, 細川昌則, 竹田俊男: マウス血清中 AS_{SAM} 共通抗原性物質 (SAS_{SAM}) の生化学的及び形態学的研究, 特に老化アミロイド症発症との関連について, 日本基礎化学学会第7回大会 (昭58. 10).

濱上 洋, 四方実彦, 三河義弘, 山室隆夫, 竹田俊男: エラスターゼの成熟家兎黄色靱帯におよぼす影響について (第1報), 第61回中部日本整形外科災害外科学会 (昭58. 11).

〔誌 上 発 表〕

竹田俊男: SAM (老化促進モデルマウス) の開発: 日本医師会雑誌89: 269—275(1983) (昭和57年度日本医師会医学研究助成費授賞論文).

竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) の開発: 実験医学1: 201—207(1983).

Higuchi, K., Matsumura, A., Honma, A., Takeshita, S., Hashimoto, K., Hosokawa, M., Yasuhira, K. and Takeda, T.: Systemic senile amyloid in Senescence Accelerated Mouse (SAM): A unique fibril protein (AS_{SAM}) demonstrated in tissues from various organs by the unlabeled immunoperoxidase method, Lab. Invest. 48: 231—240 (1983).

Higuchi, K., Matsumura, A., Hashimoto, K., Honma, A., Takeshita, S., Hosokawa, M., Yasuhira, K. and Takeda, T.: Isolation and characterization of senile amyloid related antigenic substance (SAS_{SAM}) from mouse serum. Apo SAS_{SAM} is a low molecular weight apoprotein of high density lipoprotein., J. Exp. Med. 158: 1600—1614 (1983).

3. 肺表面活性物質研究グループ

〔学 会 発 表〕

大川欣一, 鈴木康弘, 伊東 宏: ナジ反応に関する研究 (第5報). 種々の条件下で保存された血液標本のペルオキシダーゼ活性とナジ反応活性との比較. 第72回病理学会総会昭58. 4 (大阪)

鈴木康弘, 中井栄一, 大川欣一: Ultrastructural and biochemical changes of lamellar bodies in type II epithelial cells in rats treated with 4-aminopyrazolopyrimidine. 第72回日本病理学会総会昭58. 4 (大阪)

鈴木康弘, 中井栄一, 大川欣一, 田畑良宏: 4-aminopyrazolopyrimidine によるラット肺層状封入体および Tubular myelin の形態変化, 第16回日本界面医学会昭58. 6 (札幌)

Suzuki, Y., Nakai, E., Ohkawa, K., & Tabata, R.: Effects of apoproteins and phosphatidylglycerol on the surface activity of pulmonary surfactant. The 2nd International symposium on surfactant research. 1983. 9 (Marburg, West Germany)

鈴木康弘, 中井栄一: 表面活性を有する脂質-蛋白複合体再構成法における若干の改良について, 第17回日本界面医学会昭58. 11 (大阪)

〔誌 上 発 表〕

Hashimoto, K., Suzuki, Y., Kinoshita, K., Takahashi, G., and Yasuhira, K.: Microsomal hydroxylation of 3-methylcholanthrene: Analysis by computerized gas chromatography-mass spectrometry. J. Chromatogr. 260: 429—438, 1983.

Kuze, F., Mitsuoka, A., Chiba, W., Shimizu, Y., Ito, M., Teramatsu, T., Maekawa, N., and Suzuki, Y.: Chronic pulmonary infection caused by Mycobacterium terrae complex: A resected case. Am. Rev. Resp. Dis. 128: 561—565, 1983.

鈴木康弘, 中井栄一: 燐脂質ならびに表面活性物質由来アポプロテインより再構成した脂質-蛋白複合体の表面活性作用に関する研究. 日本界面医学会雑誌14: 40—45, 1983.

Tabata, R., Suzuki, Y., Mori, A., Matsuda, M., & Okada, Y.: An improved method for estimation of long chain acyl CoA in tissues J. Jap. Med. Soc. Biol. Interface 14: 83—87, 1983.

Shigematsu, Y., Kikuchi, K., Momoi, T., Sudo, M., Kuriyama, M., Haruki, S., Sanada, K., Hamano, N. & Suzuki, Y.: Organic acids and branched-chain amino acids in body fluids before and after multiple exchange transfusions in maple syrup urine disease. J. Inher. Metab. Dis. 6: 183—189, 1983.

4. 臨床病理

〔学 会 発 表〕

戸田佳代子, 黒住真史, 山根すま子, 竹田俊男, 村山尚子, 西山秀樹, 倉沢卓也, 前川暢夫, 光岡明夫: 多発性リンパ節腫脹と多クローン性高グロブリン血症を伴った Castleman's lymphoma (plasma cell type) の一症例, 第72回日本病理学会総会 (昭58. 4).

松下 厳, 鈴木博子, 鄭 漢彬, 竹田俊男, 田中敏: 診断より摘除まで2年有余を経過した腎癌の一例, 第24回日本臨床細胞学会総会 (昭58. 5).

Matsushita, I., Takada, T., Hara, K., Doi R., Kobayashi, T. K., Tara, K., Kamachi, M., Watanabe, S. and Ishigoka, S.: Cytologic demonstration of Entamoeba Histolytica using immunoperoxidase technique, The Eighth International Congress of Cytology, Montreal, Canada, June, 1983.

〔誌 上 発 表〕

木次敏明, 児玉芳重, 坂田勝朗, 松下 厳, 竹田俊男, 滋野長平, 村田喜代史: 血清コレステロール値が正常値を示した多発性腱黄色腫の異常増殖と考えられた一症例, 臨床整形外科18: 327—331(1983).

伊藤康久, 藤本佳則, 長谷川義和, 鄭 漢彬, 竹田俊男, 松下 厳: 腎悪性リンパ腫の一例, 泌尿紀要, 29:

1345—1349(1983).

Matsushita, I., Takeda, T., Kobayashi, T. K., Tanaka, B. & Sawaragi, I.: Mucoepidermoid carcinoma of the salivary gland in pleural fluid. A case report. *Acta Cytologica* 27: 525-528 (1983).

細胞化学部門

〔学会発表〕

通堂 満, 和野雅治, 内山 卓, 内野治人, 前田道之, 淀井淳司: ATL 細胞に出現する Tac 抗原 (IL2 レセプター) 1. Down-regulation の異常. 第45回日本血液学会総会昭和58年4月 (神戸)

Sano, H., Kumagai, S., Ozaki, S., Namiuchi, S., Imura, H., Uchiyama, T., Maeda, M., Yodoi, J., Takatsuki, K. & Suginoshita, T.: Sera of patients with SLE contained antibodies reacting to T cell lines derived from Adult T cell leukemia. 5th Int. Congress of Immunology August, 1983, Kyoto.

Yodoi, T., Uchiyama, T., Wano, Y., Tsudo, M. & Maeda, M.: Constitutive versus regulatable expression of TCGF-receptor on human leukemic cell lines: Uncontrolled expression on ATL-derived T cell lines. 同上.

波内俊三, 熊谷俊一, 尾崎承一, 鏑田武志, 佐野 統, 井村裕夫, 内山卓, 前田道之: T細胞性悪性腫瘍患者より樹立された TCGF 依存性細胞株を用いるヒト TCGF 活性の測定法とその特異性. 第33回日本アレルギー学会総会昭和58年10月 (千葉)

内山 卓, 通堂 満, 和野雅治, 内野治人, 勅使河原計介, 前田道之, 淀井淳司: ATL 細胞における Tac 抗原 (IL2 レセプター) の異常発現. 第42回日本癌学会総会昭和58年10月 (名古屋)

前田道之, 内山 卓, 通堂 満, 和野雅治, 那須 芳, 淀井淳司: 成人T細胞白血病由来のT細胞株の樹立とその増殖制御: TCGF レセプターの制御の異常について. 同上.

佐野 統, 熊谷俊一, 尾崎承一, 波内俊三, 鏑田武志, 井村裕夫, 和野雅治, 内山 卓, 前田道之, 淀井淳司: IL-2 レセプター (Tac 抗原) 陽性細胞に対する SLE 患者血清の反応性について. 第13回日本免疫学会 総会 昭和58年12月 (浜松)

和野雅治, 内山 卓, 前田道之, 内野治人, 淀井淳司: ヒト IL2 (TCGF) レセプター (Tac 抗原)——その生合成とプロセッシング——同上.

通堂 満, 淀井淳司, 内野治人, 前田道之, 西野幸典, 内山 卓: ヒト IL2 レセプター (Tac 抗原) の調節機構——粗 IL2 分画による Tac 抗原の up-regulation——同上.

勅使河原計介, 前田道之, 内山 卓, 羽室淳爾: IL-2 レセプター/Tac 抗原の“調節的”発現と“構成的 (非調節的)”発現; NK 様細胞株 (YT) と ATL 系細胞株の比較. 同上.

永田和宏, 市川康夫: マウス骨髓性白血病細胞 (M1株) の増殖と分化, XXIII, 105K ゲル化因子とFアクチンとの相互作用について. 第42回日本癌学会総会, 昭和58年10月 (名古屋)

高木邦明, 市川康夫, 永田和宏: マウス骨髓性白血病細胞 (M1 株) の増殖と分化, XXIV, アクチンゲル化に関与する 38Kd 蛋白質について. 同上学会.

橋田尚志, 永田和宏, 市川康夫: マウス骨髓性白血病細胞 (M1 株) の増殖と分化, XXV 分化にともなう細胞膜蛋白質の変化, 同上学会

高木邦明, 永田和宏, 市川康夫: マウス白血病細胞からのアクチンゲル化因子の精製とその性質について. 第36回日本細胞生物学会大会, 昭和58年12月 (京都)

橋田尚志, 永田和宏, 市川康夫: マウス白血病細胞の分化に伴う細胞膜結合蛋白質の変化. 同上学会

〔誌 上 発 表〕

J. Yodoi, T. Uchiyama and M. Maeda: T-cell growth factor receptor in adult T-cell leukemia. *Blood* 62: 509 (1983)

J. Yodoi, M. Maeda, Y. Wano, M. Tsudo, K. Teshigawara and T. Uchiyama: TCGF (IL-2) receptor (Tac Ag)

on ATL and non-ATL leukemia cells. 'In Thymic Hormones and Lymphokines 83' (in press).

Y. Wano, T. Uchiyama, K. Fukui, M. Maeda, H. Uchino and J. Yodoi: Characterization of human Interleukin 2 receptor (Tac antigen) in normal and leukemic T cells: Co-expression of normal and aberrant receptors on HUT 102 cells. J. Immunol. (in press, 1984).

M. Robert-Guroff, V. S. Kalyanaman, W. A. Blatter, M. Popovic, M. G. Sarngadharan, M. Maeda et al.: Evidence for HTLV-infection of family members of HTLV-positive T-cell leukemia-lymphoma patients. J. Exp. Med., **157**: 248 (1983)

R. C. Gallo, M. Robert-Guroff, V. S. Kalyanaraman, L. Ceccherini Nelli, F. W. Ruscetti, S. Broder, M. G. Sarngadharan, Y. Ito, M. Maeda, M. Wainberg and M. S. Reitz, Jr.: Human T-cell Retrovirus and Adult T-cell Lymphoma and Leukemia: Possible Factors on Viral Incidence., 'In Biochemical and Biological Markers of Neoplastic Transformation' (Plenum Publishing Corporation, 1983)

岡本祐之, 滝川雅治, 前田道之: 成人T細胞白血病(ATL)培養細胞におけるウイルス様粒子. 皮膚科紀要**78**: 193(1983)

K. I. Hirai, M. Maeda and Y. Ichikawa: Development of annulate lamellae in mouse myeloblastic cell line when differentiated to macrophages. J. Electron Microsc. **32**, 13 (1983)

K. Nagata, J. Sagara and Y. Ichikawa: Changes in actin-related gelation of crude cell extracts during differentiation of myeloid leukemia cells. Cell Struc. Funct. **8**, 171 (1983)

J. Sagara, K. Nagata and Y. Ichikawa: Phosphorylation of the myosin heavy chain. Its effect on actin-activated Mg^{2+} -stimulated ATPase in leukaemic myeloblasts. Biochem. J. **214**, 839 (1983)

K. Nagata and Y. Ichikawa: Changes in actin during cell differentiation. Cell and Muscle Motility, Vol. 5 ed. by J. W. Shay, p. 171, (Plenum Publishing Corporation, 1984)

市川康夫: 腫瘍細胞における収縮性蛋白質. 蛋白質, 核酸, 酵素**28**, 764(1983)

細菌血清学部門

〔学会発表〕

Katsura, Y., Takaoki, M., Takaoki, Y. and Kina, T.: Induction of T cell tolerance in the absence or presence of suppressor cells. Vth International Congress of Immunology, Kyoto, Japan, August 1983.

Hosono, M., Inaba, K., Katsura, Y. and Muramatsu, S.: Appearance of autostimulatory cells in aging mice: Characterization of the cell in the syngeneic host-versus-graftreaction. Vth International Congress of Immunology, Kyoto, Japan, August 1983.

Nishikawa, S., Takemori, T. and Rajewsky, K.: The expression of a set of antibody variable regions in LPS reactive B cells at various stages of ontogeny. Vth International Congress of Immunology, Kyoto, Japan, August 1983.

Kina, T., Yano, K. and Katsura, Y.: Hapten-specific T cell lines and clones mediating delayed-type hypersensitivity and helper function. Vth International Congress of Immunology, Kyoto, Japan, August, 1983.

Katsura, Y.: Tolerance induction for DTH in the presence or absence of suppressor cells. The Satellite Symposium of "Recognition and Activation in Immune System" Kyoto, Japan, August 1983.

Nishikawa, S.: The expression of antibody v-region on B cells. The Satellite Symposium of "Recognition and Activation in Immune System", Kyoto, Japan, August 1983.

行徳淳一郎, 坂井淑子, 有馬智子, 森重福美, 桂 義元: 大量化学療法を行なった癌患者の免疫反応性の指標としてのツベルクリン反応. 第50回実験結核研究会総会, 昭58年4月, 京都

桂 義元, 高沖悠子, 喜納辰夫: 遅延型過敏症に関する免疫トレランスの機構. 第50回実験結核研究会総会, 昭58年4月, 京都

- 桂 義元, 喜納辰夫, 行徳淳一郎, 高沖悠子, 西川伸一: 遅延型過敏症に関するトレランス, サプレッサー細胞依存性及び非依存性の機構, 第51回実験結核研究会, 昭和58年10月, 東京.
- 桂 義元, 高沖宗夫, 高沖悠子, 喜納辰夫, 西川伸一: サプレッサー細胞の存在下あるいは非存在下におけるT細胞トレランスの誘導, 第13回日本免疫学会総会, 昭和58年12月, 浜松.
- 細野正道, 桂 義元, 村松 繁: マウス胸腺の抗原提供細胞: 自己T細胞刺激能をもつハプテン化胸腺細胞の同定と個体発生. 第13回日本免疫学会総会, 昭和58年12月, 浜松
- 西川伸一, 竹森利忠, K. Rajewsky: V_H 遺伝子の発現と選択. 第13回日本免疫学会総会, 昭和58年12月, 浜松.
- 白河太郎, 行徳淳一郎, 喜納辰夫, 西川伸一, 桂 義元: マウスにおける λ -light-chain の発現. 第13回日本免疫学会総会, 昭和58年12月, 浜松.
- 行徳淳一郎, 高沖宗夫, 喜納辰夫, 森重福美, 桂 義元: 抗原特異的T細胞増殖反応を利用したT細胞トレランスの解析. 第13回日本免疫学会総会, 昭和58年12月, 浜松.

〔誌 上 発 表〕

Nishikawa, S., Takemori, T. and Rajewsky, K: The expression of a set of antibody variable regions in LPS reactive B cells at various stages of ontogeny and its control by anti-idiotypic antibody. Eur. J. Immunol., **13**, 318-323, 1983.

Sumida, S., Eto, S., Morishige, F., Mogi, T., Otsu, N., Umemoto, M., Kagawa, K., Sakai, Y., Shimomura, K., Gyotoku, J., Arima, T., Katsura, Y. and Kimoto, E.: Combination therapy of mega-dose chemotherapy and frozen autologous marrow transplantation in patients with advanced solid cancer. Low Temp. Med. **9**, 52-65, 1983.

〔著 書〕

- 桂 義元, 桜美武彦編著: 医学要点双書(8)免疫学, 金芳堂, 1983.
- 桂 義元, 桜美武彦編著: 免疫学小辞典, 中外医学社, 1983.

臨床肺生理学部門

〔学会発表, 講演会〕

- 坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎: 肺機能異常とその対策, 大阪赤十字病院内集談会, 1983, 1.
- 三嶋理晃, 陳 和夫, 東谷康治, 中川正清, 久野健志, 佐川弥之助: body box を用いたランダム波オシレーション法による呼吸インピーダンスの気体力学的解析第2報: flow の胸郭内エネルギー消費率の周波数特性について, 第26回閉塞性肺疾患研究会, 1983. 1.
- 平井正志, 大井元晴, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 経皮 P_{CO_2} 電極の使用経験, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和57年度第2回総会, 1983. 1.
- 佐藤公彦, 関川利幸: エンドトキシンショックの生化学的研究, 昭和57年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会, 1983. 1.
- 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, (病理)佐々木正道: bronchiolo-alveolar carcinoma の1例, 第38回日本肺癌学会関西支部会, 1983. 2.
- 久野健志, 中川正清, 三嶋理晃, 陳 和夫, 東谷康治: トポグラフィカルな換気・血流・換気血流比分布よりみた呼吸機能障害の検討—臨床応用を中心として—, 「呼吸不全」調査研究班, 昭和57年度第2回総会, 1983. 2.
- 福田正悟, 横見瀬裕保, 李勝弘, 玉田二郎: 当科(倉敷中央病院)における胸部外傷症例, 岡山外科医, 1983. 2.
- 大井元晴, 平井正志, 平林正孝, 山岡新八, 新林成介, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 慢性呼吸不全患者における睡眠時呼吸異常に対する酸素吸入の効果, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和57年度第2回総会, 1983. 2.
- 加藤幹夫: 血液ガスのデータの読み方と考え方, 京都府臨床衛生検査技師会主催生理分科会, 1983. 2.

石部裕一, 佐川弥之助: 肺血管外水分量の定量的診断法, 国立循環器病センター委託研究, 肺水腫の成因と治療に関する研究班総会, 1983. 2.

大井元晴: 慢性呼吸不全における睡眠時呼吸異常, 第58回国際胸部医学会日本支部会定期講演会, 1983. 3.

坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎: 胸壁動揺曲線 (chest wall motion) からみた肺手術後肺合併症の成因検討, 第23回日本胸部疾患学会総会, 1983. 4.

佐本昌平, 平井正志, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 慢性閉塞性肺疾患における胸腔内ガス圧縮量 (示説) 第23回日本胸部疾患学会総会, 1983. 4.

平井正志, 大井元晴, 陳 和夫, 新林成介, 山岡新八, 平林正孝, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 経皮 P_{CO_2} 電極の臨床的有用性とその限界に関する検討, 第23回日本胸部疾患学会総会, 1983. 4.

三嶋理晃, 東谷康治, 中川正清, 陳 和夫, 久野健志, 佐川弥之助: ランダム波オシレーション法による肺内ガスのダイナミックコンプレッションの周波数特性の解析, 第23回日本胸部疾患学会総会, 1983. 4.

大井元晴, 平井正志, 加藤幹夫, 仲田裕行: 低酸素換気応答時の座位, 臥位における P_{a,O_2} の変化, 第23回日本胸部疾患学会総会, 1983. 4.

加藤幹夫: 低酸素性肺血管収縮反応と呼吸不全, 第23回日本胸部疾患学会会長推薦講演1983, 4.

佐川弥之助: 呼吸不全の病態と治療: 睡眠時呼吸異常, 第21回日本医学会総会シンポジウム75. 1983, 4.

佐川弥之助: 呼吸不全に関する 1, 2 の問題点, 第23回日本胸部疾患学会総会会長講演, 1983, 4.

石部裕一, 榎田高志, 中村正人, 末包慶太, 佐川弥之助: 指示薬希釈法による肺血管外水分量の定量的診断法の検討, Symposium on lung water, 1983, 4.

佐川弥之助: 肺機能障害者における労働能力低下の評価, 環境と呼吸器疾患研究会, 1983, 4.

佐川弥之助: 年寄の息切れ, NHK テレビ, 1983, 5.

佐川弥之助: 睡眠時呼吸異常, 豊橋呼吸器疾患研究会, 1983, 5.

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: Cefprozil (CZX) の肺組織移行に関する研究, 第31回日本化学療法学会総会, 1983, 6.

弘野慶次郎, 市谷勉雄, 坪井裕志, 渡辺 裕介, 内平文章: 気管支結石を併なった気管支拡張症の一例, 第26回日本胸部外科学会関西地方会, 1983, 6.

渡辺裕介, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, (病理) 佐々木正道: 肺アスペルギローマの一切除例, 第26回日本胸部外科学会関西地方会, 1983, 6.

坪井裕志, 市谷勉雄, 渡辺裕介, (病理) 佐々木正道: Tracheopathia osteoplastica の一例, 第21回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983, 6.

田中瑩子, 藤田正憲, 原 健二, 室本 仁, 大森英夫, 竹田秋郎, 高 欽 澤, 倉田昌彦, 第21回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983, 6.

高 欽 澤, 福本仁志, 大森英夫, 倉田昌彦, 藤田正憲, 室本 仁: Bronchogenic carcinoma with cerebral metastasis, VIII Asia-Pacific congress on diseases of the chest (APCDC) 1983, 6.

Hsu HANG-HSIAO: 3 Female subjects suffering from Kartagener's syndrome. The Immotile cilia syndrome, The 4th world congress on Bronchopulmonology, Sweden, 1983, 6.

平井正志, 大井元晴, 仲田裕行, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 姿勢による低酸素換気応答と P_{a,O_2} の変化, 第3回京阪神肺機能研究会, 1983, 6.

三嶋理晃, 東谷康治, 川上賢三, 平林正孝, 中川正清, 久野健志: マンダム波オシレーション法による肺内ガスのコンプレッションの周波数特性の解析, 第3回京阪神肺機能研究会, 1983, 6.

福田正悟, 横見瀬裕保, 李 勝弘, 玉田二郎: 気管支のう胞の3治験例, 日本胸部外科学会関西地方会, 1983. 6.

石部裕一, 佐川弥之助: 肺血管外水分量の定量的診断法, 国立循環器病センター委託研究, 肺水腫の成因と治療に関する研究会総会, 1983, 7.

大森英夫, 高 欽 澤, 竹田秋郎, 倉田昌彦, 藤田正憲, 田中瑩子, 室本 仁: 肺の fibrous histiocytoma の1例, 第39回肺癌学会関西支部会, 1983, 7.

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 藤田 一: 肺癌患者の PPD, PHA 皮内反応について, 第39回日本肺癌学

会関西支部会, 1983, 7.

弘野慶次郎, 市谷勉雄, 坪井裕志, 仁木洋子, 山下 一: 真性多血症合併肺癌の手術経験, 第39回日本肺癌学会関西支部会, 1983, 7.

平井正志, 大井元晴, 山岡新八, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 横隔膜麻痺による呼吸不全の一例, 第27回閉塞性肺疾患研究会, 1983, 7.

M. Mishima, K. Higashiya, K. Kawakami, M. Hirabayashi, M. Nakagawa, K. Kuno: Studies on the retention of pulmonary blood flow in C. O. P. D. patients using Tc-99m-HS, VIII Asia Pacific Congress on Disease of the Chest 1983, 7.

福田正悟, 横見瀬裕保, 李 勝弘, 玉田二郎: 限局型アスペルギールス症の一治験例, 日本胸部疾患学会中国四国地方会, 1983, 7.

李 勝弘, 福田正悟, 横見瀬裕保, 玉田二郎: 当院(倉敷中央病院)における緊急気管支鏡, 第6回日本気管支学会総会, 1983, 7.

加藤幹夫, 手術適応と肺機能検査, 第23回臨床肺機能講習会課外講義, 1983, 8.

陳 和夫, 田中瑩子, 藤田正憲, 室本 仁, 大森英夫, 竹田秋郎, 高 欽 澤, 倉田昌彦: 肺癌による症候性心嚢転移例の検討, 第28回大阪内科懇話会, 第24回日本肺癌学会総会, 1983, 9. 1983, 10.

藤川 潤, 陳 和夫, 田中瑩子, 藤田正憲, 室本 仁: オウム病の一例, 第111回内科学会, 近畿地方会, 1983, 9.

平井正志, 大井元晴, 佐川弥之助: 慢性呼吸不全における睡眠時呼吸異常, 第35回国立大学附置研究所結核および胸部疾患談話会, 1983, 9.

加藤幹夫: 慢性膿胸—外科治療に関連して, 第8回東海呼吸器感染症研究会, 1983, 9.

佐川弥之助: 睡眠時呼吸異常, 大阪内村医懇話会, 1983, 9.

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 藤田 一: 肺癌患者の PPD と PHA 皮内反応について, 第24回日本肺癌学会総会, 1983, 10.

加藤幹夫: 肺癌における肺機能の特徴, 第24回日本肺癌学会総会特別講演, 1983, 10.

佐川弥之助: 肺循環—血管外肺水分量, 麻酔と Réanimation セミナー, 1983, 10.

佐川弥之助: 睡眠時呼吸異常, 兵庫県立塚口病院講演会, 1983, 10.

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 栗原直嗣, 寺川和彦: 気腫性巨大肺のう胞症の手術前後の肺機能, 主として $FRC_{BOX}-FRC_{He}$ および血流, 換気シンチについて, 第36回日本胸部外科学会総会, 1983, 11.

坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎: 胸郭運動からみた肺手術後肺合併症の成因検討, 第19回日本赤十字社医学会総会, 1983, 11.

陳 和夫, 吉田一秀, 田中瑩子, 藤田正憲, 室本 仁, 高 欽 澤, 大森英夫, 竹田秋郎, 倉田昌彦, 第22回胸部疾患学会近畿地方会, 1983, 11.

平林正孝, 川上賢三, 三嶋理晃, 中川正清, 久野健志: 陳旧性肺結核として約1年にわたり経過観察を続けられた肺癌の1症例, 第27回兵庫県肺癌懇談会, 1983, 11.

川上賢三, 平林正孝, 三嶋理晃, 中川正清, 久野健志, 武田善樹, 竹田俊男: Inflammatory pseudo tumor の2例, 第22回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1983, 11.

佐川弥之助: 睡眠時呼吸異常, 逋信病院学会総会特別講演, 1983, 11.

梅宮正志, 佐藤公彦: 低肺機能症例の肺術後管理について, 第6回京都大学結核胸部疾患研究所臨床肺生理学部門研究会, 1983, 12.

越久仁敬, 加藤幹夫: 肺癌の肺機能, 同上, 1983, 12.

安井浩明, 吉田龍太郎: インターフェロンの抗ウイルス活性におけるインドールアミン酸素添加酵素の役割, 同上, 1983, 12.

平林正孝, 川上賢三, 三嶋理晃, 中川正清, 久野健志: 若年女性の Idiopathic pulmonary Hemosiderosis の一例, 同上, 1983, 12.

田中瑩子, 陳 和夫, 藤田正憲, 室本 仁: Betamethasone 大量療法が奏効した放射線肺臓炎による急性呼吸

不全の一例, 同上, 1983, 12.

坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎: Tracheopathia Osteoplastica の一例, 同上, 1983, 12.

川上賢三, 平林正孝, 三嶋理晃, 東谷康治, 中川正清, 久野健志, 越久仁敬: Body Box を用いたオシレーション法による肺メカニックスの検討, 同上, 1983, 12.

東谷康治, 平林正孝, 川上賢三, 三嶋理晃, 中川正清, 久野健志: 肺循環時間の遅延に関する研究, 同上, 1983, 12.

中村正人, 石部裕一: 肺の急速再膨張による血行動態ならびに肺内水分量の変化について, 同上, 1983, 12.

島田一恵, 福永隆文, 李 泰興, 安田隆三郎: 治療困難であった肺膿瘍の一例, 同上, 1983, 12.

福田正悟, 横見瀬裕保, 神頭 徹, 李 勝弘, 玉田二郎: 原発性肺真菌症と思われる一例, 同上, 1983, 12.

大成功一: 一般病院における非定型抗酸菌症, 同上, 1983, 12.

鍵岡 朗, 内平文章, 小田芳郎, 稲葉宣雄: 大阪日赤における非定型抗酸菌症, 同上, 1983, 12.

佐野 求: 低酸素性肺血管収縮反応による肺血流再配分効果に及ぼす全肺血流量の影響, 同上, 1983, 12.

平井正志, 大井元晴, 山岡新八, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 慢性閉塞性肺疾患の睡眠時呼吸異常に対する酸素吸入の効果, 第9回西部肺機能同好会, 1983, 12.

〔誌 上 発 表〕

玉木正男, 田辺正也, 神内寿男, 室本 仁, 倉田昌彦: Buckling of the Distal Innominate Artery Simulating a Nodular Lung Mass, Chest vol. 83, p. 829-830, May 1983.

伊藤文雄, 室本 仁, 他: Bacampicillin の呼吸器感染症に対する治験, 新薬と臨床, 32巻2号, p. 221-228, 1983.

福本仁志, 高 欽 澤, 大森英夫, 倉田昌彦, 藤田正憲, 室本 仁, 北野紀要, 27巻3, 4号p. 103, 1983.

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 佐々木正道: Bronchiolo-alveolar carcinoma の一例, 日赤医学, 34: 129-132, 1983.

徐 航霄: A study of Morphological changes during the Development of mouse pleura from the Embryonic to the senile stages, 日本臨床電子顕微鏡学会誌, Vol. 16, p.55-65, 1983.

佐野 求, 加藤幹夫, 佐川弥之助, 平田健雄, 木野稔也: 少女にみられた過敏性肺臓炎の1症例, 呼吸, 2巻1号, 117-122, 1983.

佐野 求: 低酸素性肺血管収縮反応による肺血流再配分効果に及ぼす全肺血流量の影響, 呼吸, 2巻4号, 553-561, 1983.

平井正志, 大井元晴, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 経費 P_{CO_2} 電極の使用経験, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和57年度業績集.

平井正志, 大井元晴, 山岡新八, 加藤幹夫, 佐川弥之助: Sleep apnea, クリニカ, Vol. 10, No. 11, 28-32, 1983.

久野健志, 中川正清, 三嶋理晃, 陳 和夫, 東谷康治: トポグラフィカルな換気・血流・換気血流比分布よりみた呼吸機能障害の検討——臨床応用を中心として——「呼吸不全」調査研究班, 昭和57年度業績報告文献集.

大井元晴, 平井正志, 平林正孝, 山岡新八, 新林成介, 加藤幹夫, 佐川弥之助, 仲田裕行: 慢性呼吸不全患者における睡眠時呼吸異常に対する酸素吸入の効果, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和57年度研究業績集 1983.

加藤幹夫: 「蘇生法の実際」気管切開, 臨床成人病13, 1425-1429, 1983.

加藤幹夫: O_2 療法の基準, 4. ARDS に対して, 呼吸管理研究会会誌, 第3号, 1983.

加藤幹夫, 大井元晴, 前川暢夫: 特集, 臨床医学の展望, 呼吸器病学, 日本医事新報 3069, 1983.

加藤幹夫, 太田和夫: 胸部疾患, 図説臨床整形外科講座 (分担執筆), 208-225, メジカルビュー社, 1983.

加藤幹夫: 問題となるケースの治療ポイント, 低肺機能症例の手術の適応と設定, Medicina 20, 2188-2189, 1983.

加藤幹夫: 慢性呼吸不全とは? 内科 Q & A 100, 呼吸器, 金原出版 K. K. 1983.

加藤幹夫: 低酸素性肺血管収縮反応, 呼吸 3, 46-51, 1984

加藤幹夫：肺血栓・塞栓症，'84 今日の治療指針，262，医学書院，1984

加藤幹夫：血液ガスの測定法，臨床医10, 42-44, 1984.

大島駿作，佐川弥之助，寺松 孝，前川暢夫編集：臨床呼吸器病学，金芳堂，京都，1983.

佐川弥之助：呼吸不全——その実態と治療，気管切開のタイミング，Medicine, 20: 394-396, 1983.

山岡久泰，留守信興，佐谷 誠，三島誠吾，佐川弥之助：重症心身障害児の呼吸不全について，「呼吸不全」調査研究班昭和57年度研究業績，1983.

佐川弥之助：肺疾患研究の最近の進歩，メディカルコンパニオン，3：919-922, 1983.

佐川弥之助：呼吸不全をめぐる（座談会），呼吸，2：600-616, 1983.

佐野 求，佐川弥之助：術後対策，術前術後の合併症マニュアル第V巻，肺・気管支・縦隔，分担執筆，日本メディカルセンター，東京，1983.

佐川弥之助：呼吸不全に関する1，2の問題点（会長講演），日胸疾会誌，21：928-934, 1983.

佐川弥之助：呼吸不全の病態と治療：睡眠時呼吸異常，第21回日本医学会総会誌，2342-2345, 1983.

佐川弥之助：呼吸不全の診断と重症度，診断と治療，71：2047-2411, 1983.

薬 剤 部 門

〔学 会 発 表〕

御船正樹，中島寿々代，尾堂順一，斎藤 寛，田中善正，千熊正彦，田中 久：三官能性試薬の固定化によるイオン交換樹脂の機能付加：金属ポルフィリン担持樹脂による H_2O_2 の分解．日本薬学会第103年会（昭58. 4. 4, 東京）

中山守雄，千熊正彦，田中 久，桜井 弘：Bismuthiol-II による陰イオン交換樹脂の Se(IV) 選択的捕集用樹脂への変換：環境水の Se (IV) 定量への応用．日本薬学会第103会（昭58. 4. 6, 東京）

川勝一雄，小林千代子，澤岡平和，千熊正彦，塩酸ニムスチンの高速液体クロマトグラフィーによる安定性の検討．日本薬学会第103年会（昭58. 4. 5, 東京）

斎藤 寛，中島寿々代，御船正樹，尾堂順一，田中善正，千熊正彦，田中 久：Peroxidase 活性を有する porphyrin 錯体担持樹脂による H_2O_2 の定量．日本分析化学会第32年会（昭58. 10. 4, 新潟）

川口輝久，御船正樹，尾堂順一，斎藤 寛，田中善正，千熊正彦，田中 久：カタラーゼ様活性を有する金属ポルフィリン担持樹脂による H_2O_2 の分解．第33回錯塩化学討論会（昭58. 10. 11, 豊中）

斎藤 寛，中島寿々代，御船正樹，尾堂順一，田中善正，千熊正彦，田中 久：Peroxidase 活性を有する Mn-TPPS 担持樹脂を用いる 4AAP-DEA 系による H_2O_2 の定量．日本薬学会第104年会（昭59. 3. 28, 仙台）

中山守雄，千熊正彦，田中 久，田中共生：Bismuthiol-II sulfonate による陰イオン交換樹脂のセレン選択的捕集用樹脂への変換Ⅱ：セレンⅥ価の捕集への応用．日本薬学会第104年会（昭和59. 3. 28, 仙台）

川勝一雄，澤岡平和，千熊正彦，川合 満，前川暢夫：テオフィリンの体内動態に及ぼすトラニラストの影響．日本薬学会第104年会（昭59. 3. 29, 仙台）

Tanaka, H., Nakayama, M., Chikuma, M., Tanaka, T., Itoh, K., and Sakurai, H.: Selective collection of selenium (IV) from environmental water by functionalized ion-exchange resin. Fourth International Conference Chemistry for Protection of the Environment, Sept. 20-23, 1983. Toulouse, France.

〔誌 上 発 表〕

Nakayama, M., Chikuma, M., Tanaka, H., and Tanaka, T.: Selective collection of selenium (IV) on anion-exchange resin with azothiopyrine sulphonic acid. Talanta 30 (7) 455-458 (1983).

川勝一雄，桑田 宏：高速液体クロマトグラフィーによる吸入用液剤中の気管支拡張剤の定量，病院薬学 9(1) 40-44(1983).

川勝一雄，桑田 宏：吸入用気管支拡張剤の配合性，病院薬学 9(1) 45-52(1983).

〔そ の 他〕

千熊正彦，中川照真，田中 久，三位信夫：三官能性試薬を固定化した新しい機能性材料の開発，新写真用薬に関する研究会（昭58. 4. 25，神戸）

千熊正彦：新しい抗悪性腫瘍剤シスプラチンの開発経過と性質，大分県病院薬剤師会（昭58. 9. 10，北九州）

千熊正彦：新抗癌剤シスプラチンについて，兵庫県病院薬剤師会西播支部会（昭58. 10. 27，姫路）

千熊正彦：新抗癌剤シスプラチンの化学的性質，大阪府病院薬剤師会（昭59. 2. 25，大阪）

昭和59年 8 月 25日印刷昭和59年 8 月 31日発行

(Jul, 1984)